

神習舎玉鹿目錄  
神習舎歌文集  
全

166  
356

166-356  
\*1200701787176\*

# Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



Inches 1 2 3 4 5 6 7 8  
cm 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19

# Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak







神習

舍歌文集



大正

15. 2. 6

内交



歌はよむべし、歌よみさはなるべからずさは、師の名越舎翁の御教へごごにして、これやがて師の師たる、氣吹舎の大人のみこゝろにこそ。されば神習舎の翁も、さるみこゝろがまへにて、歌よみ文かきものし給ひしこそ、この小冊紙また頼文ぬしの後書にても知らるべくなむ。この集もご翁の傳記の奥にそへむごて、歌數は大かた三百首ばかり、文章は十章を限ご定めて、翁が門弟のおもなる人々より、その編修をなむ、予に委ねられたりける。かゝればこの卷には、翁の歌文の全体より云へば、わづかに百分の二三に止まるべきならむかし。しかるに今かく單獨の刊行ごしては、飽かぬふし、足はぬごころ、も、甚少からざるべけれど、印刷の都合もあるを以て、伊勢より送ら



れつるをのみ、更に卷のこゝかしこに配り加へて、その他はす  
べてもこのまゝ、活版におす事とはなりぬ。よりて茲にいさゝ  
かその由を識して、序文に代ふるになむ。

大正十三年七月

萬喜舎の主人

逸見伸三郎

### 神習舎歌文集

新年 井春

明治十五年の年の始に

明らけく治まる御代は十年あまりいつも變らぬひかりなりけり

新年會友

こゝろあへる友のまと居も年立てはたち改めてむつまじきかな

明治會の新年宴會にて

酒の名の龜の年までもろともにやすく經なまし國につくして

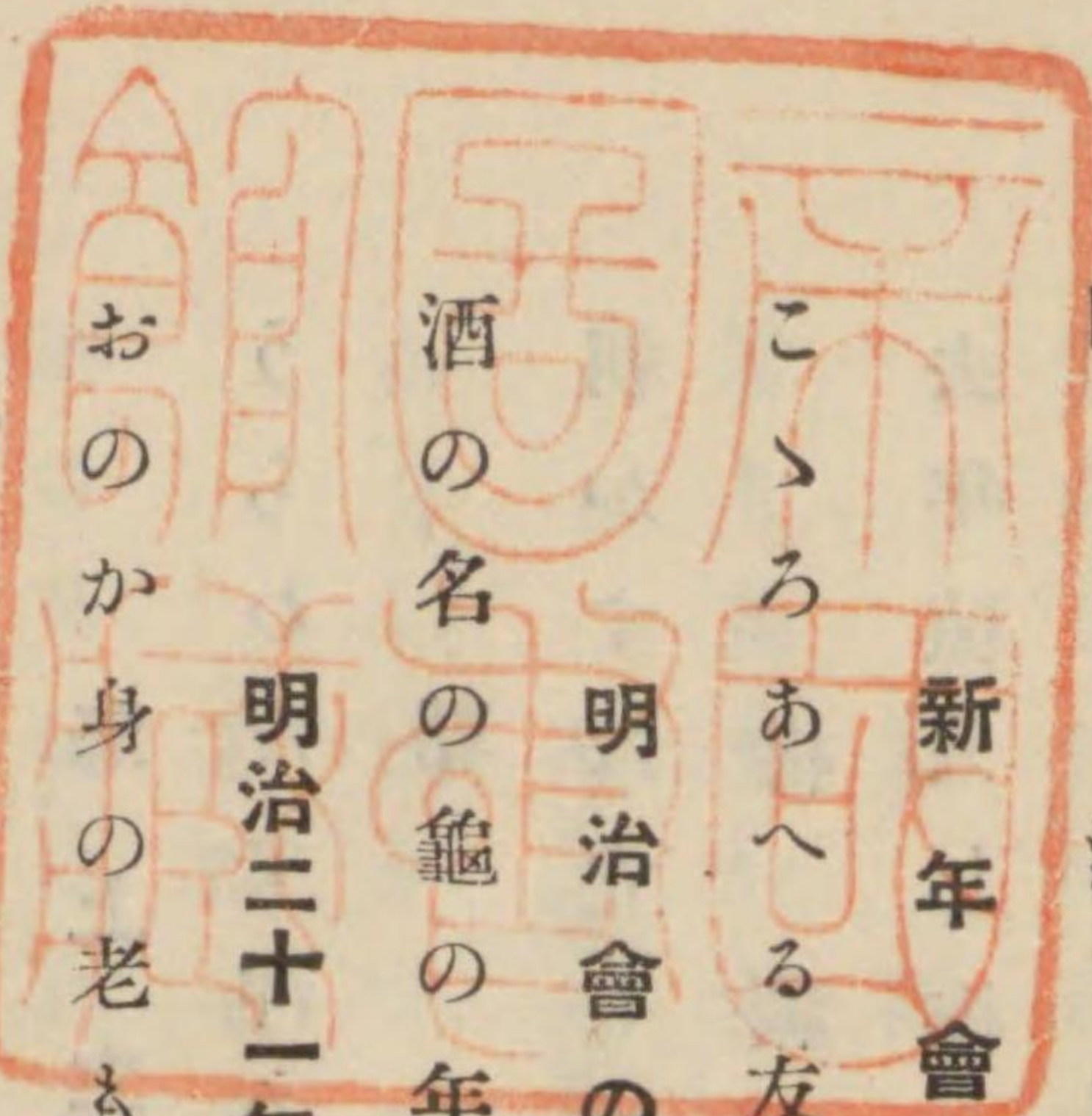
明治二十一年一月二十九日鈴木重嶺の和歌發會に新年待鸞と云ふことを

おのか身の老もわすれて待たるゝは年のはしめのうくひすの聲

明治二十四年一月十八日鈴木重嶺の和歌發會にて庭上松といふことを

あたらしき年立つ今朝は庭の上の松の色さへあらたまる見ゆ

明治二十六年年始試筆





おほ君の八千代をよはふ田鶴見れば雲居のをちも年や立つらむ  
爐邊迎春

おもひきや去年のうつみ火消ぬまに早くも年の立むものとは  
海上立春

うちわたす沖の島よりはやふねのはやくも春をのせて來にけり  
朝梅

朝かすみ立ちこめぬれとうめ林さかりしるくもかをりけるかな  
梅薰袖

去年植ゑし梅のはつはななつかしく袖のうらさへ香に匂ひけり  
梅花盛久

さきそめし日も忘るまでにはほふかなさかり久しきやとの梅か枝  
待鶯

きね残るゆきの色にも春見わていよゝまたるゝうくひすのこゑ  
竹裏鶯

くれ竹のみとりのうちにふし高くうたひそめたり春のうくひす  
松上鶯

散りやすき花をはおきてうくひすも常磐の松にやとはしめけむ  
ある年の初春の頃會津なる林氏へ送る

雪のしたに春まちわたる若松の八千代をかけてみさを立てなむ  
霞隔山

峯も尾もかすみにきねて山もとの里はいつこも見ぬすなりぬる  
ある年の春の初つかた京都にて嵐山を見やりてよめる中の一首

あらし山かすむ尾のへのはつ花はかのこまたらの雪かとそ見る  
おなしをり雨後に嵐山を見て

春さめのはれてあらしの山まふ雲はさくらの花にそありける  
名所花

さくら咲く隅田つゝみにかせ吹けは波の花さへうちかをりつゝ  
旅中花



暮れかゝり行く手を急ぐ旅ひと花のさかりを見すてやはする  
花盛

さくら花咲にし日よりこゝろさへ春のさかりとなりけるかな  
松の門三艸子の月次會に朝花をよめる

今朝見ればわか目の本の光さへそひてもにほふやまさくらかな  
明治十七年四月四大人の靈祭に名所花と云ふことを

隅田河みつをますみのかゝみにてうつろさくらの色そはわたる  
明治十七年四月十二日伊能穎則翁の靈祭にて朝花をよめる

あさ日さす高ねのさくらさき満ちて雲のいろさへ花ににほへり  
明治十八年四大人靈祭の當座に河上花をよめる

みなそこもみなから匂ふ影見れば花はかは邊のものにさりける  
明治十八年の春花のさかりに雨ふりつゝさければよめる中の一首

今は早はれもやせむと花のためそらをなかめぬ日そなかりける  
明治十九年一月十日網野延平か和歌發會に霞先春といふことをよめる

ものみなすすみ行く世はかすみさへ年と共にそ立初めにける  
松浦伯爵庭園の朧の淵と名ある所にて春月をよめる

あはれさはいつれそれともわかぬかなおほろの淵の春の夜の月  
明治二十一年二月二十四日平田神社遷座祭に梅花盛久と云ふことをよめる

とことばに香に匂ふらむ梅のはないへの風さへ咲きそはりつゝ  
東宮御所の御庭にて花を見はべりけるをり

はるの日のひかりににほふ花をしも君か御蔭に見るそ長閑けき  
明治二十二年三月三十一日雨のやゝ止みたりけるをり淺草の里より

屏風坂の上なる櫻の咲き出てたる見てよめる  
世の人のこゝろもそらにあくかるゝ雲のうへ野の花さきにけり

明治二十三年三月十四日開花樓にて懇親會催されけるをり春日會友と  
云ふことをよめる

長閑かなる春のまとゐの樂しきは花見かてらにかたるなりけり  
明治二十三年四月二十七日四大人靈祭に花有遅遅といふことをよめる



こゝかしこ櫻を見ればあるは咲きあるはまたしき色そゆかしき  
明治二十四年の春花雨吟社にて三條正一位公の靈前に手向くる歌集められ  
しをり春雁入雲といふ題にてよめる

霧わけてきたりし雁は花またてかすめるそらをかへりこそ行け  
明治二十四年四月二十二日松浦伯爵の家の會に池邊落花をよめる  
ちり浮ふ花をあやなくなかさぬも池にこゝろのありけなるかな

おなし家の會にて當座暮春鶯をよめる  
雪消わて初音もらしうくひすはなほ卯の花のゆきに啼くなり  
明治二十五年二月二十一日中島歌子の發會に朝霞といふことをよめる

おほ根おふ駒込かけてあさ市にたちおくれぬはかすみなりけり  
おなし會にて當座雪後春月をよめる  
雪つもる木の間おほろに月かけもさすかににほふ梅のはなその

照る月のかけもにほひて梅のはな星のはやしのこゝちこそすれ  
明治二十五年三月十七日田中みの子の家の發會に月前梅をよめる

明治二十八年四月二十二日鷗遊館にて四大人の靈祭ありけるをり花似雲と  
云ふことをよめる  
雲とのみなほこそ見ゆれかのやまの花そと友はかさし來たれと

明治二十八年四月二十七日星岡茶寮にて香川景樹翁の五十年祭ありけるをり  
遅日をよめる  
ゆめのまも長かりしかとうたゝ寢のあとなほ高し春の日のかけ

明治二十八年四月二十八日四大人の靈祭にて海邊花と云ふことをよめる  
うちよするなみの花さへ咲き添ひて磯やまさくら今さかりなり  
明治二十九年四月十九日四大人の靈祭にて花下言志と云ふことを

言の葉のひかりのみかは咲くはなに國の光りもそひて見わけり  
明治三十年四月二十五日開花樓にて四大人の靈祭ありけるをり花間鶯をよめる  
わか見やるかたへくとうくひすも花より花にうつりてそ鳴く

明治三十二年四月二十二日四大人の靈祭にて旅中花と云ふことをよめる  
旅ひとのこゝろいそけと花ゆるゑに道はいよくとほくこそなれ



明治三十五年四月十三日玉鉾會創立二十年の祝賀會に

水郷春望と云ふことをよめる

しらみゆく花を雲かといほさきや隅田の川原もおほろなりけり

明治三十六年四月二日勝田圖書頭の家にて觀櫻會ありけるをりよめる

家君のこゝろにあはて色も香も氣たかく見ゆるにはさくらかな

明治三十七年一月二十九日鍋島侯爵の亭にて大日本歌道獎勵會の記念會あ

りしをり鶯先春といふことをよめる

物みなのすゝみ行く世はうくひすの聲さへ春にさきたちにけり

明治四十四年三月二十五日小杉博士の追悼會に春雨を題にてよめる

君しのふ空はくもりてすきむらのいつらもわかす春さめの降る

大正二年三月三十日四大人の靈祭にて朝花をよめる

あさ煙こめしさくらは今年のみすみそめに咲くこゝちこそすれ

春 雲

ゆくかたをさためぬ雲も春はなほ花のあたりは去りかてにして

春 鶴

小松原かすみのひまに消ねのこる雪かと思れは田鶴そむれたる

詠山櫻長歌

ふもとゆけは高ねにゝほひ、高ねゆけは麓にかをり、瀧川も谷の清

水も、花の色に流るゝ見わて、足引の山の櫻は今さかりなり。

夏

夏 風

そてかきのくさ葉の露の散る見わて渡るもすゝし夏のゆふかせ

夏 日 長

書をすらよむいとまなき身なからに夏の日なく思ひけるかな

小楠公の社の献詠に餘花といふことをよめる

おほかたの花みなちりてたくひなきさくらの色にそらも匂へり



深山時鳥

山彦のこたふるこゑをほとゝきすなきかはすかと思ひけるかな  
河上時鳥

やま河のたきつ音にはあらそはてしらへ高くも啼くほとゝきす

但馬國養父郡關宮村の喜多村重清の請によりて軒郭公と云ふことをよめる

たか殿の軒端にかけの見ゆるまであま雲びくく鳴くほとゝきす

夏の頃住吉に宿りて海邊夏月をよめる

すみの江の松ふくかせに月てりて夏しらなみの寄するすゝしさ

田家夏夕

月きよみいな葉のうへにおくつゆも玉かと思はれて涼しかりけり

川夏月

隅田かはなつの外ゆく水をきよみとほしろく照る月のかけかな  
なつの夜は月のみ見てもすゝしきにさゝ波たてゝ川かせのふく

夏夜

軒ちかき松もしはしはおとたねてあふきの風をたのむ夜半かな

大暑の頃松風といふ茶釜の歌はれければ

このころの暑をよそにまつかせをたきらす家やすゝしかるらむ

名所納涼

住の江のうらかせすゝしゆふ月に夏しらなみの寄せかへりきて

川納涼

たま川の瀧つ瀬の音のさやゝとあつさをさへに流しけるかな

夕納涼

夕風のかよふまにゝ木々の葉のうらさへ見わた涼しかりけり

甲府市太田町輿石守郷かこひにより北巨摩郡篠尾村大瀧神社

献詠に泉をよめる

松かねのしみつのなかれたひゆくすゝしき蔭は夏としもなし

明治三十四年五月五日大國隆正翁の三十年祭に夏月といふことをよめる

五月雨のやゝ晴れわたるやまの端をぬれつゝ出つる月の影かな



明治二十五年六月六日星岡の茶寮にて松平慶永卿の一周年祭に短夜月をよめる

ゆふたちの雨のにこりもすまぬまに影こそしらめ水の上のつき

垣 夕 顔

住む人のこゝろたかさのほと見わたをかきにさける夕かほの花

朝 顔

おきいてゝむかふ垣根の朝かほは色をきそひて咲きにけるかな

秋

初 秋 風

萩の葉にやとれる露のしらたまのゆらくもすゝし秋のはつかせ

夜 秋 風

桐の葉のおちはてしより萩の葉のうへにふくなり夜半のあき風

野 秋 風

草も木もふき靡けつゝあきかせの目に見わたる武蔵野のはち

雨 後 夕 霧

あめやみてむかふ高根にかすかなる霧こそたてれ秋のゆふくれ

松浦伯爵の庭園の小野の社にて薄をよめる

言の葉にまことのいろをふかめてしをのゝ薄のあはれなるかな

野 蟲

照る月の光りのみかはむさし野は虫のこゑさへはてなかりけり

深 夜 蟲

小夜ふかき荒野の月にうらかれて鳴くむしはかり悲しきはなし  
いかにしてあくるをまたむふけゆけは人こほろきも鳴弱るなり

虫 聲 非 一

笛の音かよつの緒ことかとりくにしらへもたかき虫の聲かな

山 家 月

波む人のこゝろもきよき山の井にかけすゝしくも澄める月かな



故郷の月

野とあれしわかふるさとの池水にかはらてすめる月のかけかな

中秋賞月

むかしより世にめてられておも影のかはらぬものは望の夜の月

中秋明月

かたよらぬ秋の最中はつきかけもかゝみなしてそ照り増りける

滋賀に在りける秋湖上の月を見てよめる

月かけのさすかに惚ふいにしへに志賀のうら浪立ちもかへらす

紅葉

散りはてし花野のすゑのはゝそ原いろつく秋になりけるかな

明治十四年縣居翁の靈祭に夕紅葉と云ふことをよめる

言の葉のひかりもそひてゆふ日照る岡邊の紅葉いまさかりなり

縣居翁の靈祭に紅葉深と云ふことをよめる

まなくふるしくれの雨に染めつくす紅葉かさして祭る今日かな

明治十七年十一月十五日村山素行翁伊庭秀賢翁らの靈祭に

秋夜思往事といふ題にてよめる

いにしへのこと思ひ出て長き夜を虫とゝもにも泣きあかしけり

明治二十年十月三十日品川の舊東海寺の寺中なる紅葉山にて

縣居翁の靈祭ありしをりよめる

もみぢ山たかき御蔭を今日ことにあふきまつらふ秋のいろかな

同二十年十一月十二日伊吹舎翁の靈祭に庭菊と云ふ題にてよめる

いさきよく庭もせにさくしらきくの花のいろこそ神もめつらめ

菊香久

人のうへにかけておもへは菊のはな露のにはひもなか月にして

明治二十二年十一月三日天長節の日嘉仁親王殿下立皇太子あらせられ

菊契千秋といふ題にて御歌所より歌めされけるをりよみて献る

いく千代も枯るゝ世しらぬ菊をこそ君か御園に栽うへかりけれ

越後の新發田なる畠山成章か平田翁五十年祭の歌を募れるに



菊と云ふことをよめる

かをりあふ花こそつひになかりけれひともと菊のいろいろにして  
明治三十四年十一月五日鈴の屋翁の百年祭に満山紅葉と云ふことをよめる

山室の山染めつくすもみち葉は世にたくひなきにしきなりけり  
明治三十七年十一月二十六日鈴木重嶺の七年忌に夕紅葉をよめる

清かりしころのいろは夕はわのもみちのうへに匂ひけるかな  
野 秋 夕

おち葉ふく風身にしみていと淋しこや世の嵯峨の秋のゆふくれ  
老 後 秋 夜

老ぬれは寝られぬものと聞きつるを身にしる秋の夜こそ長けれ  
明治三十八年小中村博士の追悼に暮秋月をよめる

枯れのこるひともと菊の露のうへにあはれをそふる秋の夜の月  
秋野花をめつる長歌

葉月はも野へのさかりと、いにしへにいひしかことく、野づかさも

澤も川へも、一むらの錦なしつゝ、萩の花尾花葛花をみなへし露草  
ふかく、まさかりにさきにほふ時、かくゆけは裾にうつろひ、かく來  
れは袖にしむまで、はしけくも見かほしきかも、あはれく、これの  
花野を、かくなから露の間たにも、我庭のうちにつして見むよし  
もかも。

冬

里 時 雨

ふくかせにおち葉ましりてさひしくも時雨ふるなり牛島のさと  
冬 月

風ふけはいと、さむくも見ゆるかなこほりの橋をわたる月かけ  
海 邊 寒 月

風さわてくもなきそらにすみのほる月こそわたれ天のはしたて



池水鳥

しつかなる池のおもてに水とりのあかきもやらてあそぶ小春日  
夜晴雪

ちり行くもつもるも花のおもかけを月に見せつゝ雪晴れにけり  
雪中會友

降る雪に行くて見ねねとちきりつる言をは踏みて友そつとへる  
明治十四年十二月十五日鈴木重嶺の納會に雪中興といふをよめる

河そひの笹間くゝりてゆくふねはよその雪よりなほそつもれる  
明治十六年十月十四日四大人の靈祭に残菊といふことをよめる

色も香も世にたくひなきしら菊は今日の御庭のゆふかとそ見る  
明治十七年十月十九日荷田御風翁の百年祭に紅葉残枝を題にてよめる

一もとの菊のあはれにまされるはかた枝に残るもみちなりけり  
明治十七年十一月二日日本居内遠翁三十年祭に時雨といふことをよめる

みそとせのむかしをしのお悲しさを音にたてゝもふる時雨かな

明治十九年十二月十二日鈴木重嶺の納會に惜歲暮といふことをよめる  
止らぬものと知りつゝ今日といへはなほ惜まるゝ年にもある哉

明治二十年十月三十日久保惠鄰の家にて祀先會ありしをり初紅葉をよめる  
はつともみちはつかに染めて薄きぬをよそふ錦と見ねにけるかな

明治二十年十二月十五日鈴木重嶺の納會に歲暮竹といふことをよめる  
あたらしき一ふし添はむ竹もなほ年のくるゝはをしけなりけり

明治二十二年二月十一日憲法發布式の日雪の降りければよめる  
むさし野の水草おしなへふる雪のあまねき御典しかすかしこさ

明治二十四年十一月八日井上文雄か二十三年祭に初冬落葉と  
云ふことをよめる

松はかり立てる門にももみち葉の散りくる冬になりにけるかな  
明治二十四年十一月十五日瀬戸久敬の三十年祭に夕時雨と  
云ふことをよめる

夕日かけさしつる窓のにはかにもをくらくなりぬ又しくるらむ



明治二十五年十月三十日春雨庵にて縣居翁靈祭の歌會ありけるをり  
初冬月を題にてよめる

うつろひし菊のまかきのゆふ月夜ひかりは秋にかはらさくけり  
明治二十五年十二月十二日鈴木重嶺の納會に浦千鳥を題にてよめる

たてをへし浦の海苔しば夕なみのかゝるも見わて千鳥なくなり  
明治二十七年十月七日向島の長命寺にて橋東世子の十三回忌ありける

をリ夕時雨を題にてよめる

わか袖はけさも時雨のかゝりしをこのゆふへこそぬれ増りけれ

歳暮 松

暮行くを惜しむものから來む年をまつの色こそうらやましけれ

惜 歳暮

とゝまらばわれもますら雄止めむと思へと年の暮れてゆくかな

歳暮 閑談

事しけきとしの暮れにもうるはしき友とかたれば長閑かりけり

### 祝賀

春 祝

あをやきのいと長閑かにもなからへて千歳の春に君はあふらむ

寄 春海 祝

よる波のいとしつかなる君か代はとほくはるけき春のうなはら

寄 橘 祝

たちはなの三千代てふ名を君か經む齡にかけていはふ今日かな

寄 菊 祝

いくたひか千代の根わけをなしつらむさかゆく宿の菊の花その

寄 松 祝

とこしへに榮わけて松の葉のかそへもあへぬ世をやかさねむ  
ゆたかなる御代はしつけくふく風に松さへうたふ君かよろつ代



寄杖祝

とりそめし世をわするまで手つか杖なほ幾年もつきならすらむ  
社頭祝

みつ垣のうちとに繁るまさかきのさかねゆくらむ常磐かきはに  
雪中友人を訪ひけるにその父翁白髪をいたよきつよもなほ健なりければ  
祝ひてよめる

とよとしの雪のやとりにふさはしき常磐の松のすかたゆかしも  
明治十六年渡邊隼雄か六十の賀に寄巖祝を題にてよめる

天つちのかきり動かぬいはほこそ君か経む世のためしなるらめ  
明治十七年福田理軒翁の賀に寄天象祝と云ふことをよめる

あめなるや老人といふ星にあわていくよろつ代も君は経なむ  
某氏の新庭園にて寄松祝といふことをよめる

植たてし松の常磐のみとりにも千代にさかねむほとは見ねけり  
埼玉縣警部長鎌田冲大か七十の賀に寄鶴祝といふことをよめる

千とせ経む君かうたけを祝ひつゝ鶴ものとききそらに舞ふらむ

柴田花守翁の七十七の賀に寄竹祝と云ふことをよめる

千世八千代こめたる竹の蔭にこそ君かよはひは見るへかりけれ  
宗良親王千首題をわかつて寄日祝といふことをよめる

ゑみさかねとよさかのほる朝日子を君かひかりと仰かるゝかな  
山室山なる本居大人の社に進るとして社頭祝言といふことをよめる

櫻根のいはほにたまのまはしらといはひしつめし宮はうこかし  
明治二十年五月五日相摸國大住郡大山町にて權田大人の七十九を祝ふとて  
同門の人々集りて賀宴を開ける時よめる

その名さへその功さへよはひさへたかきをいはふおほやまの里  
柴田花守翁の八十の賀によめる

百たらす八十のまか道ひらきつゝ千とせの坂もやすく越ゆらむ  
明治二十一年四月一日おのれが五十歳の壽宴を頼文及門人等神田  
開花樓にて開きける時藤波正二位冷泉正四位の君以下百九十餘名



來會ありそのをり寄地儀祝を人々と共によめる

諸人のほくことの葉をかさしにてひかりなき石も苔のむすま

明治二十三年三月三十日東兩國井生村樓にて佐々木弘綱の還暦の

賀ありけるをりよめる

のとかなる春のこゝろにおのつから君か千とせの歌はるゝかな

明治二十四年五月十三日忍岡なる櫻雲臺にて小中村博士の七十の

賀ありけるをり寄書祝をよめる

君のみやそのかみつ瀬もきはめ見むふみ卷川をさかのほりつゝ

明治二十四年六月七日高輪御殿落成して常宮周宮兩殿下御移徙につき

奉祝の爲佐々木伯爵高崎男爵より題をおくられければ松添榮色と云ふ

ことをよめる

わか松もみとりの色のそふ見れば榮ぬものはなき世なりけり

同じをり竹還年友といふことをよめる

友としも見そなはすらむ此君のうれしきふしは千代に八千代に

明治二十五年三月伴林光平の贈位の祭に寄劍祝を題にてよめる

つるき太刀ときし心をあきらけく治まる御代にあらはれにける

明治二十五年三月牧野辯の七十の賀に春祝といふことをよめる

まつもひき若菜もつまでおのつから千とせの春を君はしむらむ

明治二十五年五月一日松の門三艸子の還暦の賀に寄松祝と云ふ

ことをよめる

いへの名を松の門ともよはるゝは千代に老せぬしるしなりけり

明治二十五年六月松浦伯爵の新室祝に寄鶴祝といふ題にてよめる

なみ風もしつけき松かうらしまに千代をしめても遊ふ田鶴かな

明治二十六年四月十六日櫻雲臺にて鈴木從五位の八十の賀ありけるをり

庭上松をよめる

いろゝに庭のすかたをさたむるは大かた松のたちとなりけり

薩摩國人川畑梓の巖上龜の歌預撰になりけるよろこひに春祝と云ふ

ことをよめる



ことの葉の花さへ摘みて君か代の春にあふ身やたのしかるらむ

明治二十六年木野戸勝隆の父勝誼の還暦の賀に

寄木祝と云ふことをよめる

若かへる影とはたれもあふき見むかき根のかなめ年をへたてゝ

信濃人矢島八隅の母の八十の賀に寄桃祝と云ふことをよめる

千代かけて見る人やたれ咲く花のもゝよの春の色さかねを

福島縣磐瀬郡仁井田滑川の佐伯義猷の祖母しの子の八十八の賀によめる

君か代のふかきめくみにあふくまの川の年なみよるとしもなし

明治三十九年一月二十日櫻雲臺にて黒田子爵の七十七の賀宴ありし

をりよめる

よろこひとよみて祝はゝこの年をなほいくたひか君は經まさむ

明治四十一年十一月八日有栖川宮實枝子女王殿下の徳川侯爵家へ御降嫁の

をり寄河祝と云ふことをよめる

行くするの幾代もきよきなかれこそ河遠しらく見ねわたりけれ

明治四十二年三月十四日八百松樓にて宮西邦維の七十の壽宴ありけるをり

春祝といふことをよめる

菅の根のなかき日よりの長閑けくも君か經む代は千春八千はる

明治四十二年四月十一日常磐花壇にて黒田子爵の八十の賀宴ありけるをり

春祝といふことをよめる

千代經ませよろつ代經ませ花かをるはるの日よりの心のかに

明治四十一年五月三十一日柳光亭にて予か七十の壽宴に

松延齡友と云ふことをよめる

もろ人のほく言靈によろつ世のまつをともとやわれはあり經む

磯部重浪の七十の賀に寄巖祝と云ふことをよめる

君か經む世のひさしさは苔むせるいはほのとはに見ねにける哉

哀傷



親しき友の身まかりけるをりよめる

とし久にむつへる友のすきしこそ老か經む世のなけきなりけれ  
親しき友の男壯年にて身まかりぬと聞きて

君のみのいたみはかりか語らはぬ人にもおなしなけきなりけり  
八千代經むよをば残してなよ竹のいかてはかなく枯はてにけむ  
明治十二年の一月亡妻登羅子の五年祭に

よき書を得たりといひて喜へはともにゑみにしおもかけ思ほゆ  
うましふみ得むと力をあはせつゝひとつころに勵みたりしを  
貧しくてあちきなかりし憂瀬をば渡りはてすていにしいもはや

明治十三年三月權田年助大人の七年祭に春懷舊と云ふことをよめる

七かへりむかしかゝりしはるさめに年ふる袖そぬれまさりける  
同年十二月三條西季知卿の靈祭によめる

去年はしも六日ののちにしのふ草今日はた露にぬるゝそてかな  
大熊辨玉大徳の身まかりしをいたみて

玉のおとの高きひゝきはいまもなほ耳に残りてわすらぬかな  
同大徳の靈祭に紅葉映日といふ意をよめる

言のはの玉のひかりもそひぬらむあさ日にはふ峯のもみち葉  
寄萩哀傷

さらぬたにさひしきやとの萩の葉にあはれをそふる風の音かな  
縣居翁の靈祭に田舎月といふことをよめる

早稻かりの人もかへりてさひしかる田中にすめる月のかけかな  
親友某の子松市か身まかりしをり寄露哀傷といふことをよめる

枯れにける小松かうれのしら露はかなしき袖に置きそあまれる  
島津天璋院殿へ手向まゐらすとて冬哀傷といふことをよめる

かへりこぬ水のなかれもこほる夜に月のひかりの何かくれけむ  
明治十七年三月二十一日友人の早川舟平の靈祭によみてまゐらす

海もなほこほると聞くをはやかはの水のなかれの何いそまけむ  
老ぬれは友におくれて野邊に立つひと木の松のわか身さひしも



小川長秋か身まかりけるをりよめる

いさきよき小川の水のいかなれははかなく沫と消れていにけむ

明治十七年四月十二日伊能頼則翁追遠祭當座に松蔭水と

いふことをよめる

澄みわたる水のかゝみにかけ見わたみとりのいろもふかき玉松

明治十七年三河國中島村なる早川芳山の靈祭に寄花懷舊と

云ふことをよめる

いとさくら過にし春をくりかへし絶ぬおもひもまさる色かな

明治十七年六月大和國耳無山口神社祠官平田忠九郎の身まかれるを

悼みてよめる

耳なしの山の口なしおもふこといはれぬはかりかなしかりけり

明治十八年四月伴蒿蹊翁の八十年祭に對花言志といふ

ことをよめる

雲と見る花のうへにもあふくかなむかしの人のたかきにほひを

宗良親王の五百年祭に秋懷舊と云ふことをよめる

いにしへをしのへは秋の夜もふけてふみ見る袖に露をこほるゝ

明治十九年四月平田胤雄ぬしの五十日祭によみてさけけたる

しほりつる袖も乾かぬほとにしも今日とはいかに早成りにけむ

明治十九年久保季茲翁の五十日祭に春哀傷といふことをよめる

かへり來ぬ水にも花の影はあれと君かすかたの見ぬはかなさ

明治二十年六月八日權田直助大人の身まかれし訃音に接せし

をりよめる

かくり世に護らせたまへちかひてしことのまにゝわれ勤まむ

明治二十年伊能頼則の十年祭に寄花懷舊と云ふことをよめる

もろともにむかし語りしむかしをば花見ることと思ひいてけり

明治二十年十月稻葉一徹の三百年祭に寄秋懷舊といふことをよめる

稻葉ふくゆふへの風の身にしみてむかしの秋のしのはるゝかな

明治二十一年五月八日名越舎大人の一週祭に寄書懷舊と云ふことをよめる



靈ちはふ神のつたへしくすしふみ讀むにも大人の惚はるゝかな

寄時鳥哀傷

かひなしと思ふものから惚ふかな山ほとゝきす音のみ鳴かれて

從四位増山正同君の一週忌に寄花懷舊と云ふことをよめる

花見れはすきにしひとのしのはれてわか袖にのみ春さめの降る

明治二十二年山岡子爵の靈祭に寄雲哀傷と云ふことをよめる

あま雲のよそに過ぎにし君なればこゝろも空にしのはるゝかな

明治二十二年久保季茲翁の三年祭に春夢と云ふことをよめる

なつかしき君の見ぬは夢路さへ深くかすみの立ちかくすらむ

明治二十二年五月三十日羽後の鶴岡なる照井長柄か身まかりぬと

聞きてよめる

五月雨のふるこのころにそこひなき照井の水のいかてかれけむ

明治二十二年六月二十三日大八洲學會員中死去三十一人の靈祭を

淺草鷗遊館にて行へる時對泉思昔といふことをよめる

むかしよりたぬぬ清水もわかゝりしその世の影は止めさりけり

明治二十三年六月一日永井豪の靈祭に夏哀傷と云ふことをよめる

五月雨のふるかひもなし枯れはてし永井は家の名のみなるかな

明治二十四年四月池田侯爵の一周年祭に懷舊のころをよめる

一とせは夢の間にこそ過ぎにけれうつゝに見ぬむ人もなき世に

明治二十四年十月二十五日平田鐵胤翁の十年祭に對月惚昔と

いふことをよめる

月見つゝむかしのことをかたりあひし秋惚はるゝ今宵なるかな

明治二十四年岩代國耶麻郡山都村神田正和の父の靈祭に寄雪懷舊と

云ふことをよめる

ふりし世を惚ふあまりにみ雪もてそのひとかたを作りても見む

明治二十五年三月琴陵宥常ぬしの五十日祭に春夜懷往事といふことをよめる

思ひいつることのかきは春の夜の夢語りにも成りにけるかな

明治二十五年六月櫻雲臺にて佐々木弘綱の一周年祭ありけるをり



夏懷舊といふことをよめる

なつひきの手ひきの糸をくりかへし思ふ、しのみ多きころかな

明治二十五年六月十二日櫻雲臺にて山縣大貳、藤井右門、竹内式部等の

贈位祭ありけるをりよめる

たちならひ登るくらゐの山かつらかゝるも御代の恵みなりけり

明治二十五年九月十一日秋田なる平田神社五十年祭に

寄鏡懷舊と云ふことをよめる

わか思ふその世のかけの見ゆへきは神の御前のかゝみなりけり

明治二十六年土屋子爵の一周年祭に初冬懷舊といふことをよめる

ゆふ月のしくれて消ゆる影のみはこそその冬にもかはらさりけり

明治二十六年結城神社宮司川口常文の一周年祭に寄水懷舊と

云ふことをよめる

なき影の浮ふを見ればかへり來ぬ水もよるへのこゝちこそすれ

明治二十九年十月三日堀秀成の一年祭に秋懷舊と云ふことをよめる

いと萩の糸くりかへし今日と云へはむかしの秋の思はるゝかな

伊達行朝々臣の五百五十年祭によめる

埋みてし雪消はてゝ君かため踏みにしあとそあらはれにける  
身に馴れし弓をまくらのことの葉にいまも心の引かれけるかな

明治三十六年十月三十日星岡茶寮にて中島歌子の追悼會ありけるをり

思往事といふことをよめる

なき母とむつまじかりし君はなほ親をしのふにかはらさりけり

明治三十六年十一月二十一日皇典講究所にて久我副總裁の五十日祭

ありけるをり秋夢といふを題にてよめる

なつかしきむかしかたりの夢の間に秋の長夜もふけわたりにけり  
明治天皇の崩御したまひし時よみはへる

目はくれて胸はふたかり手は痿れてそらうち仰き唯なけくのみ

沖積介君の靈祭によめる

國のためこゝろつくしの沖のふね思はぬかたにはてにけるかな



雑

神 祇

日の本のかたくうこかぬ國つちにとほるは神のひかりなりけり  
あらはゞきの社の神木をよめる

ふた千とせあまりいませる神そとはふりし榊のいろに見わつゝ  
君 恩

かきりなき君かめくみはむさし野の草葉に露のおきあまるまで  
道

いにしへのたゞしき路をまつわけて新はり道もたれ世のひと  
寄道 陳志

ふみ迷ふひとなきまで開かはやわかすめかみのもとつまさ道  
をりにふれて

難波江のあし苅る小船のりそよ流すその名を惜しとおもはゝ  
鈴か音の高きひゞきのなかりせは朝目よくわれおきいつへしや

述 懷 (竹とも題せらる)

憂きふしもたのしきふしもくれ竹のむなし心になりてこそ知れ

本居平田の學風をうけたる人に誠意なき者のありしに

いきどほろしくてよめる

鈴か音を氣吹おろしにきゝなからなほいきたなき人もありけり

古 鏡

いにしへの物のすかたもまさやかに心にうつるまそかゝみかも  
基

斧の柄の朽ちはつるまであらそはゝ濱のまさこの數も盡きなむ

馬場ぬしの家にて盆栽の竹を見てよめる

くれ竹の一ふしたかくすなほにもあるしからにや生立ちぬらむ  
盆栽の松を見てよめる



ひと尺にたらぬ松にもよろつ代をうたふはかりの風をかよへス

緑竹年久

かけひろき御垣の竹のなかきよにさか行く君か千代も見わけり

松風入琴

琴の音にしらへあひてそ松かせの高嶺おろしものときかりける

鹽屋烟

立ちのほるしほやの煙ほそくとうら淋しくも見ねわたるかな

千早懐古

いまもなほちはやの山のしら雲は旗かとはかりたなひきにけり

湊川懐古

ほととぎすむかしくのひてあはれにも湊河原を啼きわたるかな

川中島懐古

立つきりにむかしのさまもうかふなり川なか島の秋のあけほの

久延比古命 (谷蟻とも題せらる)

谷蟻の世になかりせはあめのしたの事知る神もかひなからまし

源義家か名こそその關の畫賛によめる

ことの葉のひかりもそひて道もせに散れる櫻のかくはしきかな

菅公

北野なる千もとまつ原まつはらにまなひの道そをしへたまひし

小督局

澄む月にむかしの秋をおもひいて、虫も嵯峨野の露に鳴くらむ

楠公

あたなみのさわく後瀬をみなとかはふかき心にうかへてや見し

小楠公

かりの色にこゝろうつさてみよし野の雲井の櫻あふきつるかな

名和長年

おほきみのみことを真帆にさしあけて追手待ちけむ船上のやま



そこ清き瀬田のなかれのいかなれか下濁れりと汲みなされけむ

兼 俱 卿

加茂川のみなかみ遠くかた鹽をうつめて名をはなかしつるかも  
瀧園翁の邸にて瀧邊會友と云ふことをよめる

瀧の音に耳を澄ましてみやひをの語らふはかりたのしきはなし  
わか學舎の講演會のをりよめる

神ならふまなひの窓のひかりこそまことの道のおくも照らさめ  
六村中彦か命によりて九州へ出張せらるゝをり馬のはなむけによめる

おほきみの御言かしこみ國めくるわか兄を守れあめつちのかみ  
君かためこゝろつくしのますら男を誘ひたてゝとくかへりませ

明治十五年五月五日三河國池鯉鮒神社にてよめる

こゝろさへすかしくも成にけりちりふく風に身をは清めて

明治十六年四月十五日住吉廣賢が畫學所の開設によみて送りける

今日よりは音もしつかにすみよしの家の松かせ吹きわたるらむ  
ときめけるやなきさくらもすみ吉の松の常磐におよはさりけり

明治十六年十一月水原宗梁の二十五年祭に披書思昔といふ

ことをよめる

すめかみの道ふみわけてしをりせし人をはたれか仰かさるへき

母戸自の病いえたる時の宴によめる

母そ葉の又さかぬ行く今日に逢ていよゝかけを頼みけるかな

大原美能理の大兆の卜法の書をよみてよめる

うらことによりてこそ知れ天地のかしこき神のおほみこゝろも

明治十七年十一月三十日縣居大人の御墓の前にて祭つかへ

まつりし時よめる

すめらきの道のさきりをはらはしゝあかき心のもみちたむけむ

明治十八年楠公五百五十年の祭場にてよめる

湊川きよきなかれをかゝみにてとこゝろみかけますら男のとも



讃岐國高松同胞會より同祭の歌を乞はれけるによみてまゐらす  
 みなとかはかへらぬ水をしのひ來て啼こそわたれ山ほととぎす  
 守屋大連の祭に述志といふ題にてよめる

御門邊をもち屋のあその眞こゝろをつきて御楯となる人もかな

治二十一年一月一日五十歳になりければ思ひつゝける

いたつらにかさぬる年はいそかぬに今朝は五十となりける哉

松浦伯爵の庭園の萍の橋にてよめる

いにしへをかけもかけすも浮草の橋はゆかしきわたりなりけり

三條公の百日祭に春後思花を題にてよめる

をしまれし昨日のはるの花のつゆ君をしのふにかけて見るかな

明治風雅集のなれるをよろこひてよめる

おほ御代のめくみの露にうるほひて花さき出てぬ草も木もなし

明治二十一年十二月宮内省より契冲阿闍梨に金百圓下賜ありしにつき

寄玉言志といふ題にて歌募りて圓珠庵に紀念のため納めむとて花雨吟

社よりこひければよめる

いさわれも君に習ひてみかゝましこゝろの玉の世にひかるへく

明治二十五年七月二十三日大洗の海邊にてよめる

皇神のよりて來ましゝいにしへを知らせかほにもよする浪かな

明治二十五年九月守屋大連の千三百年祭によみてさゝけまつる

にこりたる法の水口せきとめしその名はきよく世になかれけり

明治二十六年二月六日日本橋俱樂部にて松の門三艸子の發會ありける

をり松上鶴をよめる

ひさかたの雲井の友やさそふらむ松の木すゑにたつの羽たゝく

福島陸軍中佐の騎馬旅行の勸迎會によめる

あるたいの峰にありてのことあけに高きいさをは世に聞けり

大宮町氷川神社神橋改造の祝に社頭橋をよめる

さらにまた神のめくみはひろ前のみはしにかけて仰かるかな

明治二十六年十一月十二日本所原場町芭蕉山桃青寺にて松尾桃青の



二百年祭を催されしをり手向にとよめる

このゆふへむかしおもへはかれ枝になくや鳥もこゝろありけり  
神職に叙位せらるゝ事となれるをりよめる

道といふみちをふみつゝくらゐ山のほるも神のめくみなりけり

明治二十七年十二月二日四大人の祭典を國學院にて行ひけるをり

披書思昔と云ふことをよめる

今の世のすかたをさへも照らせるは昔のふみのひかりなりけり

出羽陸軍少佐の詩句に夢魂背我落家山とあるを題にてよめる

ぬは玉の夢のたゝちの怪しきは思はぬかたに通ふなりけり

明治三十一年の秋信濃國安曇郡日置神社の社頭杉の歌こはれければよめる

いく千とせ經にしみや居は神垣のふりたる杉にしられけるかな

明治三十二年一月二十二日郷純造君の家會に松上鶴と云ふことをよめる

松か枝に來居るともつるうち群れて君か經む代の數によまゝし

田中長嶺の惟喬親王の御傳の巻首によみてそへたる

小野やまの雪のふるみちふみわけてむかしを偲ふ人もありけり

吉野遺愛帖によみて記せる

しら雲にまかふ色よりなかゝに散りぬる花の香こそたかけれ

櫻井驛のかたによみて記せる

をしふるも受くるも共にその身をは君にさゝくる道のひとすち

明治三十六年十月二日佐々木信綱君か清國漫遊を祝はむ爲酒井伯爵の

庭にて園遊會ありける日よみて送りける

もろこしのよし野のやまも君待ちて言葉の花の咲きをゝるらむ

松岡初子の需に道の歌をとありければよめる

むらきものこゝろに絶えすふみゆかは果なき道の奥もきはめむ

獨逸協會雜誌によみておくりける

人みなの見まほりするまなひ草色香もなかくさかえゆかまし

牛田松南の畫會によみておくりける

往きて見ぬ山のすかたもうつし繪にさやけく見する筆の跡かな



## 文

## 増訂纂輯御系圖序

安見し、我大君の大御統の、天壤のむた、いや無窮に、唯一系にまします事は、世の人皆の知れる所なれば、今更言舉出でむも、なか／＼におろかなるわざなれども、かく御代のつぎ／＼、五十榎八桑枝なす、立ち榮えまし／＼けるからに、國體の精華をなせるものにて、海の外の國々に、その例にあらぬこそ、言卷も恐くめでたき事なれば、臣民たらむもの、いかでか言舉奉らずてあるべき、そもそも、たゞに言舉まつるべきのみならず、その大御統のさまを玉椿つばらかに辨へ知りて、めでたきが上にもいよ／＼めでたく、美しきが上にもます／＼、美しかれど、勤み勉むべきが、臣民たらむまことの道にしあれば、そのつぎて／＼をかきしるせる書、古より何くれいと多かれど、文の華、日々にかけて、咲匂ふ今の時にも、明治の大御代まで、うつ墨繩の一筋に、うちわたしつゝ見もて行かるゝ書

の、いと／＼稀らなるなむ、實にあかぬ事なりしを、子爵福羽美靜大人、茲に志を深められ世にありとあらゆる書どもに、徴して、纂輯御系圖、皇位繼承編など云ふ書をなむ、著はされたりける、元老院の藏版に係るもの、すなはち是なり、大人はかくて後も、學の海廣く深く、文の林遠くはるけく、あしたゆふべにたごられければ、その書の中に、なほしも足らはぬ所、たがへる所ありとて、そを増しも訂しもせむと、年頃老を忘れて、いたづきをられたりしが、今回なしをへられて、更に摺卷とせむとて、おのれに一言をと聞えおこさる。いでや此書よ、御代々々の御統の上は更なり、竹の園生の末葉までも、紐鏡たえぬためしの隈なく見えわたるに、悦ばしさも、めでたさも、いやまさりて、こよなく覺ゆるまゝに聊か思ふ由をかくなむ。明治卅五年十一月

## 大日本神祇史後序

神祇史は、我が神洲の基礎にして、建國の體、治國の本、之に據りて明かなり。國民たるもの須知せざるべからず。昔、皇祖天神、極を立て、統を垂れ、萬世一系に、天壤と無窮なる所以の真相を見る、此史に及くはなし。



然るに、世人或は神祇史を以て、宗教史に比し、神祇の禮典を以て、宗教の儀式と云ひ、すべての倫常を儒教より脱し來るとなす、謬想誤見また甚しと云ふべし、尋で國民道義の大本たる教育の勅語をして、恐くも儒教主義と唱ふる者さへあるに至る、そも、世人をして是等の誤謬を生せしめたるものは、要するに、我國上古史の講究を意とせず、末史を以て之を推すの過ちなれども、竟畢完全なる神祇史のあらざるに由る、

今回佐伯有義君が、大日本神祇史の著ある蓋し是等の非説を排除し、迷夢を警醒し、正道に歸向せしめ、以て皇祖の遺訓を恪守し、皇宗の遺制を擴張し、彌々國本を強固にし、益々國運を開展するに資せむとの著作たる事を信す、

古典を按ずるに、建國の肇、皇祖天神、其正統本流たる皇孫に、此國土を授け給ひ、其支系分流たる吾人が祖先をして臣屬子附せしめ給ひたるは、實に南枝北葉も其本を一幹に起し、東派西流も其源を一泉に發すと云ふべく、即ち一國はなほ一家の形象を有す、且特に三種の神器を親授して、祭政の大詔を下し給ひ、治國の大本を顯彰し給ひぬ。

あゝそれ、この大詔よ、この形象よ、即ち我大日本帝國の國礎なり、教育の淵源、國體の精華、皆こゝに根せり、今假に、一家の上にして之を云へば、祖先の遺言は、即ち其家永遠の家憲なるが如し、家憲は家經の由て起る所、家政の由て立つ所、其國其家の無窮に繼承すべき定體なり、

而して茲に所謂る祭とは、神祇を敬祭するの謂にして、即ち報本反始の大禮なり、忠孝の道これより成る、至誠以て之を敬ひ之を祭るの極、祖先の情と子孫の心と、自然に相感じ相和し、以て同族の親善を致し、連枝の福祉を得む、我國三千年間の歴史よく之を證明して餘あり、

大日本神祇史は、あらゆる古典とあらゆる國書とにより、悉く此旨を究めて、詳論せられたれば、祭政の二柄と帝國の道義とは、其由來する所一原にして、皇祖天神親しく之を行ひ、之を施し給ひて、後更に皇孫に親授ありし由緒、歷聖相承け相傳へて、現代に至れる所以、昭々乎として明著なり、依て茲に本書の刊行を悦び、所見を概陳して後序となす、

大正元年十二月

加藤清正傳序



故矢野玄道翁は、平田贈正四位の門人にして、予が學友中に於て、最も親しかりし人なりけり。夙に和漢學の蘊奥を究め、世に博識の士と稱へられ、著述もまた多かりし中に、志伎農玖賀陀智と云ふ書はしも、古來の明君賢臣良將等にして、移り行く世の勢に伴はれて、或は思はぬ浪風に侵され、又は心なき雲霧に覆はれ、望月の清く明かなる身の影くらき隈ある姿に見え、櫻なすかくはしき花の心もはかなき雨に散りうせ、且は朧夜のおぼくしくて、その事實さだかならず、區々に傳へたる書さへあるを、廣く遠く徴し訂し、深く直く考へ定めつゝ、花の性をあきらかにして朝日に匂はしめ、月の精をあらはして曇なき空に照らしめ、遺漏なくわきまへられし書になむ。この加藤清正朝臣も、即ちそのうちの一人なりき。そもこの朝臣は、人となり忠直にして、武あり文あるは云ふも更なり築城の術に通じ、經濟の才に富む。豊公擢で、主計頭と爲し、また構城土木の事に預らしむ。宜なりと云ふべし。その領民に對ひては、威徳ならび行はれ、治蹟の見るべきもの多く、軍陣に臨みては、鬼上官と稱へられ、雷名鷄林八道に轟き、明使の膽を寒からしむ。神明を尊信せられし事も、韓王子の所在に關する

立札の一言にて明なり。朝臣の卒去せられし後、其靈こゝかしこに祭祀せられしも、實に在世の功德を證するに足る。まして明治昌代の今時、特旨を以て贈位の恩典ありしものは、忠良なる至誠の天に達せし謂なるをや。ある日、乃木伯爵予に問はれけるは、清正公の一世を記せるもの、世に多く聞ゆるが中に、何れの書にか、最も詳かにして、最も正しきとなり、即ち推すにこの書を以てし、且予と玄道翁との關係を序で、其博識の士たるを讃述し、後之を携へて其覽に供へたり。しかるに今回、この朝臣の條を拔出で、刊行せらるゝ由にて、予に序文をなむ乞はれける。さてこは、彼のさし覆ひし中尾山の雲霧を、科戸の風なす吹拂ひ去られ、まごかなる月の輪の兜の光も皆がら仰き得られぬべく、美しき心の花の色香も、熊本の隈なく知り得られぬべく、はた玄道翁の曾てのいたづきも、世にあらはれいでぬべきわざなるを以て、甚めでたく最悦ばしくて、辭むべくもあらねば、やがて其梗概をかゝり連ねてかくなむ識す。

可美眞道千知大人碑

源朝臣權田直助大人は、武藏國入間郡毛呂本郷の人也。祖父休玄翁の世より醫



を業とす。幼より智深く書を讀むことを好み、手よく書かれき。十七歳の時、父直教ぬしを喪ひ、慕哀むこと尋常ならず。十九歳の時、憤を起し、吾が學未足らず、業も精しからねば、良師に就きて問はむとて、妻を設けて、母に仕へしめ、將軍家の侍醫野間廣春院の許に行きて、三年が間勤勉め、さて後、四方を行廻りて、家に歸り再業を開かる。廿三歳の時思はれけるは、神州の醫にして、漢洋の技を假らむは快からず、惟神なる古醫道をこそ興さめとて、平田篤胤翁の弟子となり、皇神の道の蘊奥を學明め、其外、此道の補翼とせむ爲に、眼科外治方産科等も、遺る隈なく學究めて、其業日に異に進み、其名四方に聞え、病める人等遠近より集ひつゝ、旦暮暇なかりければ、斯ては書を著し、道を後世に傳ふることに能はずとて、治療を門人に、家事を妻に打委せ、一室に指籠りて、書を著すことに勞き、神遺方經驗抄十卷を作り、京に上りて、錦小路頼易君に呈られしに、君甚賞で、序文など賜へり。此外、古醫道に就きて論註せられたる書三十部もあるべし。大人の家は、富に非ねど、門人又は、病客の貧きには衣食を授けて教へもし、療しもせられけり。さる間に將軍家の政衰へ見聞に堪へぬ事多かりければ、深く慨憤り、人の病は

小く、國の病は大なり、吾其小きを後にし、大なるを先にせむとて、文久三年の春の初、京に上り、錦小路五條の諸君を始め、廣くまめ人等と交り、天皇の大稜威を、古に復し奉らむと、專相謀られき。慶應三年の秋の末、家を出で、蒔田積穂と名を變て、江戸三田なる島津家の邸に入り、又京に上り、明治元年正月錦旗奉行五條爲榮君に従ひ、姫路に抵り、二月には、岩倉具視君の命に依て、江戸に下らる。是より先、島津邸の亂有て、徳川家の浪士を追捕する事、極めて嚴なれば、朋友等深く危み頻に留められども、此役こそ、天下の大事なれ、縦死すとも辭せずとて、遂に下て、其任を盡さる。斯て、新き大御代と成りぬれば、監察司知事大學中博士、從六位、皇漢醫道御用掛など云ふ官位に召されしに、明治四年の四月嫌疑に依て之を罷められ、前田家の邸に幽閉られぬ。茲に、大人、熟世の勢を思ひ、古醫道の行ひ難きを知り、又、後世に遺すべき書も、大抵記了したれば、此幽閉を好機として、語學を講明むと、夜晝の別無く、勉め學び、一年許有て免されし後は、益之に心を盡さる。さて、明治六年七月より、此阿夫利神社に仕へ奉り、又十二年より十四年迄の間は、伊豆國三島神社の宮司ともなり、正七位に叙せられ、教職は大教正に至



り、皇典講究所にては一等學正たり。廿年一月三日より病發して同六月八日此里に歿らる。文化六年十二月十七日に生れ、此時七十九歳なり。筆を執てより著されたる書、神道に係る者、凡十種、語法に係る者、凡二十種、孰も、天地の眞理に本き、論徴されたり。大人の母は、高麗郡高萩驛佐久間氏の長女、名を久良子と云ふ。大人、齡五十を踰えらるゝ迄、恙無かりしかば、朝夕の萬事、人に委せず、皆夫婦にて忠々しく仕へられき。大人、軀幹短く、色丹く、目口小く、鬚髮雪の如く、老いて腰屈まず、強健にて、眠ること少し。常に曰く、書を読むには、未明と深更とを用ふべし、人の憩時に勤めずば、奚か人に秀る事有むと。病に臥すも、著述を怠らず、大人の皇を尊ぶ心の厚きは、孝明天皇崩御の折、憂歎て、病に罹り、神を敬ふ心の深きは、此山上に登る事は更なり、苟も神を拜むには、必沐浴し、病中と雖も、惰る事無かりしにて知るべし。天性、斯の如くにて、聊も撓飾るに非れば、門人等、皆其徳に懷きて、敬ふこと神の如くなりき。大人の妻、幾久子は、入間郡成瀬村目崎氏の女。大人に先ちて亡る。一男二女あり、男は年助、即一作の父なり。長女毛登は、飯能村早川舟平に嫁ぎ、二女波留は、將軍家の臣倉谷清四郎の妻となれり。明治廿一

年三月

阿古耶松碑

阿古耶の松は、歌物語などの書に見えて古より世に聞えたる名所なり。山形市を幾らも離れぬ千歳山萬松寺、やがて其蹟にして、近き頃までいと大なる松ありしが、火災にかゝりて失せぬるこそ可惜しけれ。夫木抄に

陸奥の阿古耶の松に木隠れて出づべき月の出でやらぬかなとあるにても、當時の松の大きき想ひ知らるべし。古事談に、藤原實方朝臣が、歌枕尋ね見むとせし時も、古老は此歌を以て答へ、且陸奥の數郡を分ちて、出羽を置かれつるより、其國に屬ける由云へり。元明天皇紀の和銅五年、陸奥國を割きて、出羽國を置くとある即ちこれなり。されど歌には、其もなほ、陸奥と詠み習ひ來て、出羽としも云はぬは、語調の添はぬ故なるべし。千歳山の名は、歌句に入り易く愛たき唱なり。昔藤原豊充の女阿古耶姫、甚く此松を觀めで、山上に庵を結び、遂に尼となりて、茲に終ると、これ松の名の因る所なりとぞ。後實方中將の女、父の跡を慕ひ、來りて其墓邊に庵し、また尼となりて終る。故に三墓今なほ存れり。その事由は、



安積信の文、新井君美の詩、佐久間義和の著、さては寺記等に委しく見ゆすべて都人の杖を曳き足を留め、月の光に昔人を懐ひ、松の蔭に古歌を思べる、甚憐なる心言葉、歌に文に是かれ傳はれども、委くは擧るに堪へず。そもく、當時の都人が歌枕得むとて、奥羽を經廻りつるは、其風景の宏く巨く海に添ひて、山峻しく河遠白く、山城邊の人等が夢にも見知らぬ状なれば、歌の意匠を高め、詞藻を富ますに於て、缺くべからぬ地なりけむかし。依て昔のゆかしきまに、しき島の道の奥なる千歳山ちとせの松は雅士の友と詠出で、其梗概をかくなむ識す。

## 古稀壽宴答辭

今日のこのまとるよかの室壽の大御謠にはあらねど、甘酒餌香の市ならぬ都大路に於ても、値もて買はれず、黄金白銀横山なす積めらむも、いかで得らるべくもあらずかし。そもく、人の世の中、嬉しき事、樂しき事、めでたき事、さはなるものから、道に志篤き人々打集ひて、いにしへ今の移り變りを談り、又は石上千代の古道解きあきらめ、あるはやまとのからの歌文よみも作りもするなどこ

そ、いとく、心行くわびなりけれ。然るを、春秋の花紅葉に野山を分け暮し、あるは絲竹の音に心をとらかし、さては白銀黄金を家に滿て貯ふるなどをも、嬉しく樂しくめでたしと思ふらむもあるべければ、こゝろくの引かるゝ方によりて、人毎になむ異なるべき。然れど、大方の嬉しきこと、樂しき事、めでたき事は、人の力、黄金の光にて成し出られぬべし。おのれ今年齡七十路を越えて、身なほ健に、何くれと公の事に預り、西に東に馳せ廻らひ、文机に向ひては、奈良の葉の色を偲び、吉野の花の嵐を歎き、志賀のさゝ波を硯に湛へて、山城の都の月を浮べなごして、在り經るなむ、天地の神の御幸と、現つ神我大君の御惠とにして、これまづ黄金の光、人の力などの及ばぬわざと、常に嬉しく樂しく覺ゆるに、まして今日しも、かくこゝらの魂あへる人々相集ひ、吾が爲に祝の筵を開かれ、うまらに喫ふるがねとて、種々の物と、のへられしきへ、嬉しきを、やまとのからの歌に文に、また書にも文字にも、常磐の松を齡の友と、愛たきこゝろくをうたひ出で、うつし出でられしを見賞でつゝ、一つ席に酒くみ交して、千代の古道ふみ見むすべ、また遠き世がたり、近き世がたり、語りあふことも、うら安く、七つき



八つき數をかさねむもあくことなく、手掌もゑら／＼に打擧げむ悦は、これはた都大路を隈なく探ねむも、いかでいかで値もて得られめやは、いでやねがはくは諸共に、千代八千代をこそ、吾が常世たち。

諸人のほく言靈に萬代のまつを友とや我はあり經む

明治四十一年五月三十一日

神習舎歌文集終

附言

我が父君は幼なかりし頃より、百人一首を暗誦し、その風調をまねびて、極めて氣邪氣なる歌どもあまた詠出で、しばしば人々の頤を解かしめきとか。我が叔父(井上治助頼氏)の乳母なりし豊と呼べる老婆が記臆に残れるを聞けば、夏祭に

町々に大鼓チャンギリヒヤラ笛の聲聞く時そ夏は嬉しき』かゝる類の作數限もなきまで多かりきとなむ。十八歳の時、つらく思はれけるはかしこかれど、神やまとのすめら尊は、御歌もて、よく三軍の士氣を振興せしめ給ひ、大伴の家持卿は、海行者美都久屍山行者草牟須屍』と詠ひて、敬神尊皇の志を發揮せしめき。いでや歌よむ事を學ばむとて、相川景見ぬしに入門せられき。これ安政三年五月の事なり。その時、景見ぬしと、かたみに詠み交はされし歌三十首にもあまりきとぞ。その折の狀を、青山景通、久保季茲、高平眞藤、角田信道師、岡正胤



山口眞榮、吉岡徳明ぬしなど山元町の神習舎に集はれし時、その小宴にて談りいでられし事ありしかば、此の機や逸すべからずと、私に鉛筆取り出で、その應答の歌ども書き留めむとせしを、父君は目ざとくそを見つけて、大に怒り給へるは、僅に數十首にも足らざる歌を、記し留めねば覺えがたしとは、如何なる鈍根ぞ、たとは、今緊要なる要件を甲より受けて、乙に傳へむとする中に立ち、甲のいへる談話を一々ものに記しつけずては、乙に傳へ難しと云ふに同じ。如何なる長談義といへども、皆聞きとりて、そを乙に傳ふる事は、婦女子だになほよくするわざなり。況や學者のせがれたるをや。予は維新の以前、大切なる國事に就きて、京都に上りける時、あるやんごとなき方より、最も長き軍議を、江戸なるあるいかめしき方に傳へよとの内命を受けて、東海道五十三次を晝夜兼行にて江戸に着き、一點の遺漏なく使命を全くせし事ありき。もし符合の如き片紙たりとも、身に着けたらむには、途中偵察の幕軍の檢舉に逢はむか、一身はもとより天下の大事をもあやまつに至りなむ。故に機密の長議も悉く胸中に收め、一朝衣服を脱し、赤裸々となる事ありとも、彼か疑を插まむの餘地なから

しめ、敵兵環視の街を平然として通行したりき。それに何ぞや、數十首にも足らざる歌を書きと、めむとする無氣力さよと、はつたと睨まへられし事、今も思ひいづれば、冷汗の淋漓たるを覺えず、さる状況たりしからに、應答の歌え寫しとらで、今は遺憾に堪へざるなり。その内聞き覺たりし一二首、父君が『岩根木根うはらからたち繁くとも導きたまへ敷島の道』とよまれければ、相川ぬし『いち早き君を杖にて岩根木根さがしき道も共に極めむ』とよまれき、初句の、いち早きは、いち早振る意にはあらで、兼て父君の、日に廿五里の道を行く健脚家たる事を知り居られたればなりとぞ。又相川ぬしが『すぐくと日々に生ひ立つ吳竹の高き姿を早も仰かむ』とよまれたるが殊に吳竹のとあるは、父君が歳十七の頃、病痾保養のため、若き友ごちのそゝのかすを諾ひて、假に吳竹亭一賀と名乗りて、俳句ごもあまた作られし事を、兼てより聞き知られし故なり。されど歌に心を依せられしより、俳句の方は、ふつに捨てられたりき。かく歌に心を寄せられつれど、讀書の妨とならむ事を、常に自ら誠め、平權兩家の歌に對せる訓諭を體認し、おほかたの歌會は更なり、勸進



の歌などは多くはよまれざりき。されど鈴木重嶺ぬしの會には必ず出席し又はおのれを代理とせられて、その席に列せしめられき。そはぬしは、世に稀なる敬神家にて維新の時相川縣の權令となり、大に治績を擧げ、その教院にて毎月神德皇恩の説教などある時は、必ず臨席し、私費を以て紅白の餅を神前に供へまつり、撤下の後は、そを手づから聽衆の老若に頒與し、益出席を奨勵せられき。かく報本の情に厚かりしかば、父君が皇學四大人の靈祭會を起さむと、はかられし時も共に畫策し、玉銜會の會名も、父君と鈴木ぬしとの原案にて定りたるなり。故に他の歌人より頼みの歌文は、歌人にあらざる旨を以て拒絶せられき。密にこの秘訣を知れる人はぬしを介して、歌文を求められき。

父君は若きより歌文をものに書き留むる事なかりし故、今残れるは、千分の一にも足らず、手帖めくものに記されしは、いと晩年の事なりき。さるにても特に惜しきは壯年時代身命をさゝげ國事に奔走せしをり、よみ出でられし慷慨義憤の歌なりけり。こたび志厚き人たちの發起にて、父君が十年祭の記念に、歌集めくものを頒たれむとの事にて、逸見ぬしは、父君が手箱の底などにかいやり

捨てし草稿ども、又ぬしがかきとめおかれしなどを整理し、年立部類等に分ち編纂せられし勞苦の程、さこそと推しは、かられ、ひたぶるに感謝の至に堪へずしてかくなむ。

思ひきや紙魚のすみかとなけかひし

この歌文の世にいてむとは

伊勢國山田のかりほにて

神宮禰宜正六位勳五等 井 上 頼 文



神宮御宇天皇御正君 敬 上 原 文

神皇正統記卷之六

神武天皇御宇

思ひまを御座のなるまゝに御行なひし

御事御座り

神皇正統記卷之六 神武天皇御宇 思ひまを御座のなるまゝに御行なひし御事御座り

神皇正統記卷之六 神武天皇御宇 思ひまを御座のなるまゝに御行なひし御事御座り



神習舍玉簾目錄



はしかき

木匠の高殿を作らむには、千五百の大木小木は更なり、土砂石瓦のたぐひまで、なくてははあらぬが如く、學者の書作るにも、からやまごの昔今の、千萬の書をよせあつめて材料とせずば、よき書はなりがたからむ。己が年ごろ心して、くさぐさの書をあつむるも、これがためなりとは、師の翁の、常にいはれし言葉なりけり。翁の世の限りあつめられし書冊の数は、四萬に近く、そのなかに玉籠と名づけて、夜に日に讀まれし書ごものうちより、手づから書きぬかれしもの、又一部の書をそのまゝ、寫しごらしめて、收められしもあれど、その部数は二千三百ばかり、巻の数は三千五百に餘れり。これらの



書の中には、今は摺卷となりて、弘く世に行はるゝもあれど、  
 そは多くは翁がひこに勧めて、摺卷させしめられしもの  
 にて、翁のあつめられし頃は、いづれも世にめづらかなる書に  
 ぞありける。今この書どもを取出て、見るに、翁のいかに學  
 の道にいそしまれ、いかにその道にくはしく明らかなりし  
 かをおしはかるべく、玉籠の名の空しからぬこともさくら  
 るべし。去年の夏十年の祭仕奉りしをりに、その記念となる  
 べきものは、何よけむさはかりしに、玉籠を摺卷とするこ  
 はたやすからねば、その目錄をだにものして世に弘めなば、  
 翁がいたづきの程も、いさゝか世に知られ、又この書を見む  
 人は、書讀みものかくにつきて、益を得ること少らじと、ひこ  
 みな のいへば、さらばさて、學の兄なる田邊ぬしにあたらへ  
 て、本書とつばらに引合せ、誤れるをば改めたゞして、かく一  
 卷となしぬ。今この書の成れるにあたりて、一言かきそへよ  
 さいはるゝまゝに、その由をのべてはしがきとす。

玉かたみ見るにつけてもたくひなき

いたつきの程そおもひしらるゝ

そこひなきまなひの海にあさりつる

玉こそみちのひかりなりけれ

大正十四年十一月

佐伯有義



# 神習舎玉篋目錄

## 凡例

- 一本目錄ハ昨年七月國學院大學ニ於テ舉行セシ故文學博士井上頼圀翁<sup>セウコウ</sup>ノ年祭ノ記念出版トシテ翁ノ神習舎文庫藏書<sup>無現時東京市外西大久保</sup>中ノ玉篋<sup>ロク</sup>ヲ分類收録セルモノナリ玉篋トハ翁ガ多年心血ヲ注ギテ蒐集セラレタル寫本及翁ノ手寫手抄ニ係ル叢書ノ名目ナリ
- 一本目錄ハ檢索ニ便センガ爲十六類ニ分チ一類毎ニ五十音順ニ從ヒテ之ヲ排列セリ
- 一叢書所收ノ書目ハ其ノ叢書ノ下ニ書名ヲ列記シ一々各部門ニ掲出セズ但シ續群書類從、池底叢書、靜幽堂叢書、椿亭叢書等所收ノ書冊ニシテ架藏セシモノハ之ヲ各部門ニ掲出セリ
- 一類標、類字等ノ索引ニ關スルモノハ之ヲ類標ノ下ニ收メ五十音順ニ從ヒテ列記セリ



- 一 著者ノ氏名ノ下ニ(自筆)トアルハ著者ノ自筆本ニシテ單ニ「手抄」「手寫」「手校」トノミ記セルハ翁ノ自ラ抄録、謄寫、校合ニ係ルモノナリ又藏書印アルモノハ括弧「」ノ中ニ之ヲ記セリ
- 一 書名ノ下ニ注記シタル年紀ハ其ノ圖書ノ作成セラレタル年代ニシテ何年寫トアルハ單ニ謄寫ノ年代ナリ
- 一 卷數ニ比シ其ノ冊數ノ少キモノアルハ翁ガ架藏ノ便宜ヲ計リ薄葉紙ヲ用ヒテ寫サシメ之ヲ合綴シタルニ因レリ
- 一 本目錄ノ編輯ニ就イテ無窮會ハ藏書閱覽ヲ快諾セラレ同會事務員林金次郎氏ハ終始出納ノ勞ヲ執ラレタリ又坂正臣翁ハ題簽ヲ揮毫セラレタリ特ニ記シテ其ノ厚意ヲ謝ス
- 一 本目錄ノ編輯ハ予ガ本務ノ餘暇從事シタルヲ以テ誤謬ナキヲ保セズ尙大方諸賢ノ是正ヲ俟ツ
- 一 記念出版ニ關シテハ井上賴文、佐藤範雄、桑原芳樹、佐伯有義、逸見仲三郎、畑徳三郎、朝賀喜一、神崎一作、堀江秀雄、氷室昭長、大澤護雄等諸氏與リテ勞多シ

大正十四年十一月四日

田邊勝哉識



神習舎玉篋目錄

一 神 祇

- 齧田乃浦アゲノウラ 一名古四王神社考 小野崎通亮
- 安藝神名帳考 (神宮教院本寫)
- 淺間神社由緒略
- 呵刈葭 本居宣長(自筆稿本) 天明七
- 熱田神宮宣命御達書類 角田忠行
- 熱田神宮記 角田忠行
- 熱田神宮踏歌祭詔文 角田忠行 明治一二
- 安仁神社御傳記略
- 淡島神社考(安房)
- 近江海南海北神社考 南部晋
- 近江國六座社考 矢盛敬愛 明治六
- 天神壽詞節釋 三好義英 二卷

神 祇

天津日高彦火瓊杵尊ノ御子考 谷森善臣 明治一〇

天野告門考附丹生氏文考 本居内遠

荒田社考(紀伊國那賀郡廣田莊)(稿本)

幽府新論 平尾亮致 二卷

伊賀神名帳考 (神宮教院本寫)

生島座摩考 夏目鸞鷹

伊佐須美神社記 寛文七

勘申伊雜宮舊記眞偽之事 荒木田氏 寛文二

伊勢公卿勅使行事見聞錄 享保元

伊勢兩大神宮辨 富士谷御杖

齋内親王記 (林崎文庫本寫)

逸大同本記 御巫清直

和泉國式神私考

出雲國大社 平田鏡胤

出雲神社考 渡邊彝 二卷

稻荷神社記秘訣 羽倉廣滿 享保一九 池底叢書本寫

一



石都々古和氣神社及伊波止和氣神社所在

考證 井上賴固(自筆)

伊波比神社考(武藏) 根岸武香

飯香岡八幡宮記(上總國市原郡八幡町) 明治二九

飯石神社石記(出雲) 齋藤豐宣 貞享二

伊夜比古神社記(摸寫)

伊豫國官社考證 松岡調 明治三〇

宇太水分神社取調書 明治九

産須那社古傳抄廣義 六人部是香 安政六 四卷

雲州式社集說 原脊

枝光邑八幡宮緣起(筑後國御井郡) 宮崎秀堅 享保五

延喜式神名帳秘釋 卜部兼永

延喜式比保古 大山爲起 一五卷(常磐井精戈本寫) 四

御蔭參雜載 足代弘訓

大市姫神社考(紀伊國那賀郡山崎莊赤垣内村) 稿本

大國魂神社略記 大國魂神社々務所

香椎廟宮記 青柳種麿 文化元

香取私記 久保木清淵 二卷

呵安書 平田篤胤 享和三 二卷

河内國式神私考(原本、淨寫本共)

神代直語 橋守部 二卷

神賀詞考 中村守臣

神漏岐神漏美命考 荒木田久守

紀伊國神名帳附考 本居内遠 嘉永二

一 吉備津宮緣起(備中)

一 吉備津宮社記(備中) 明治四

吉備津神社々記(備中)

桐生天滿宮由緒記

桐洞村諏訪社記(美濃)

鵠神社々傳(出雲國求院村) 村上宜家

國魂神ノ説 久保季茲 明治七

皇太神宮機殿儀式帳 大鹿志摩 二

大瀨神社之記(伊豆國) 權田直助 明治一六

大祓考文

大祓詞天津菅麻 六人部是香 三卷

大祓詞後釋餘考 上田百樹 文化七 井上賴固書入

大祓詞便蒙附餘論 猿渡盛章 同容盛 二卷

大祓注 賀茂眞淵(自筆)

大物忌神社考 照井長柄

大山祇神考

大倭神社注進狀附率川神社記裏書 大倭盛繁 (影寫)

講義錄 堀秀成

江府星野山史料(日枝神社)

高良神社祭神考 栗田寛 明治三一

高良神社祭神考證 船曳鐵門 明治一九

香椎考 長野誠 明治一四

香椎宮紀事 貝原篤信 元祿三

香椎宮編年記錄 大中臣重國 武内信重

官社祭神考證 教部省 二卷

教典部類(敬神ノ三)

教典(翼)敬神

外宮儀式帳私考 石埼文雅 寛政一一 四卷

外宮法式大概 檜垣常長 享保三

外宮論辨誤(古事記傳卷十五外宮論ノ辨) 龜田末雅

顯幽順考論 六人部是香 五卷

元要記 三〇卷

國內神名帳 二卷

上、和泉國神名帳 尾張國神名帳 參河國神明名帳

駿河國神名帳 伊豆國神階帳 美濃國神名記

上野國神名帳 若狹國神階記 越前國摠神分

隱岐國神名帳 播磨國鎮守大小明神社記 備前

國神名帳 紀伊國神名帳 筑後國神名帳 大隅

國零片

下、上野國貫前神社神名帳寫 惣社神主赤石氏藏神

名帳校合寫







神事宗源之古事 野村彌穀 明治元

神社部類 七卷

神社部類 山田以文增補

神職歷運考一名神家常用談 岡熊臣

府中新撰總社傳記考證 猿渡盛章 文政二

六社 五卷(傳記一册、同考證三册、附錄一册)

神代卷鹽土傳 谷重遠 清原春岑手寫

神代蒙求 藤鎮

神道集(安居院) 釋聖覺 一〇卷

神道集成 一二卷(内閣文庫本寫)

神道政要 小寺清先 寛政三

神道大意 權田直助

神典疑問辨 八田知紀 明治四

眞天主教說略 渡邊重石丸 明治四

神祕庚申傳(垂加之傳書) 井上賴正手寫

神風講社入社式

神佛混淆所置心得方書

神名一名神名類聚

神名考 栗原信充(自筆)

校神名式(鈴木重胤校本寫)

神名帳附諸社祭神考(壬生官務本寫)

神名帳(卜部兼俱本寫)

神名帳考證 出口延經 寶曆一〇 八卷

神名帳考證再攷(伊勢國) 橋村正身

神名帳考證土代附考 黒川春村 二卷

神名帳校本(神祇式) 坂本秋郷校「手抄」

神領考證 足代弘訓 一三卷

神領政事沿革 足代弘訓

神位(多田、六孫王、壺井、柿本)

須賀宮舊地考(出雲國大原郡) 井上賴留稿本

墨坂神社考 山根兵藏 明治九

住吉神社神代記事 津守島慶 天平三

斥儒佛 野之口隆正(手澤)

總社或問 猿渡容盛述 男盛愛校 明治元

大元私說 八田知紀 明治二

太神宮本記歸正抄 御巫清直 元治元 七卷

大日本國教之要旨 一名大教安心論 田中知邦

大日本史補(神代) 久保季茲

道神考 秋本安民

高市郡石椋孫神社所在考證(大和國) 江藤正澄

高家邑天滿宮緣起(筑前國遠賀郡) 竹田定澄

瀧姫神社考(紀伊國牟婁郡三前郷古田村) (稿本)

谷秦山答淺見綱齋二宅尙齋書(谷重遠)

ダルウイエルラ伯神道論(ゴアル、ダルウイエルラ)

(井上賴留加評)

道返草 樂水堂主人(自筆) 卷上

筑前國早良郡眞根子天神緣起(青柳種麿)

千人所引之磐楯 竹内嚴稻 慶應元

神 祇

槻邁ちはへ 鶴藤藏(源延賢) 安政二

都農神社略緣起 永友宗年

壺井八幡宮記

朝夕神拜詞 生田國秀

出羽三山沿革 明治三二

天一神王神社考 井上賴留稿本

天璽畏言 矢野玄道 明治一七

天神社考(紀伊國名草郡弘西村)

天泉所在問答

天祖所生一説 伊能穎則(自筆)

天地異說略圖附權田直助辨

東京滯留中間答書 物集高材、梶江高峯、本永幹

戸隱神社鎮座考 宮崎信友稿本 明治八

戸隱本院昔事緣起

特選神名帳抄(和泉、攝津) 栗田寬等

特選神名帳抄(宮内省至壹岐) 栗田寬等「手抄」

七



特選神名牒抄(阿波) 栗田寛等  
新居正道手寫〔新居庫〕

土佐國一宮考後附 戸部良熙 明治四

土佐國式外官社訂正

遠江國御神領記(續群書類從本寫)

富之小川 鈴木重胤編

御牧望月大伴神社記 生田社記 長田社記 新撰姓

氏錄 小倉大明神鎮座記 正一位小倉大明神鎮座傳

記 賀宮神宮奧秘記 淡島大明神 讚岐國白鳥神社

豐受神靈傳來或問 御巫清直

等由氣大神宮儀式帳鈔 北川政方 弘化三 四卷

内侍所御供圖 大膳職

内侍所叢說 四卷

中島神社由緒(但馬國出石郡)

中臣祓氣吹抄 多田義俊 享保一八 三卷

二十二社參詣記 度會延賢 享保一五

日光山二荒神社志 淺井清長 明治三二

八幡宇佐宮御被大會圖

八神考 富永瓢 明治九

八神傳(垂加之傳書) 井上賴正手寫

播磨安栗郡官社考證 松岡調 明治三四 二卷

火上天神開始本傳(尾張國吾湯市郡)

備前備中神名帳考(湯淺明善 安永七  
神宮教院本寫)

備中國大吉備津宮略記 賀陽爲徳

日矛考 伴信友

神籬傳質問 佐藤方定 嘉永六

百社起源 伊藤常足 天保一二 五卷

百社起源續徵 伊藤常足 天保一三  
一九卷(卷十八缺)

平田神社創建誌料(一名平田の落穂  
南部晋(自筆))

平田延胤大人消息 平田延胤(自筆)

二荒山考

二荒山鎮座本義并附錄 名神大考并附錄 日光山古

文書辨 二荒山神傳并神社考辨

新靈乃真柱(小池貞景(自筆)) 二卷

新嘗祭神饌等之事

丹生社考 新居正方(自筆) 安政二

日本國中鎮座記(一名諸國鎮座記 渡邊儀綱 七卷)

日本神祇史(常陸) 青山氏 卷十五

根津祭禮儀式(正徳四年九月二十二日祭禮)

野芹 久保季茲 二卷

野見神社由緒(攝津)

祝詞草 伊能穎則

寶鏡想像秘考 伴信友

寶劍考證附錄 富永楯津 慶應四

寶劍御代官考 矢野支道

伯家學則演義 平田篤胤

伯家部類 白川雅喬 平田鏡胤手校

箱根神社々記

八幡神社由緒(近江國蒲生郡)

二田宮傳記(越後國刈羽郡) 相場長政 明治七

婦茂登の塵 權田直助(自筆)

辨學小言 渡邊重石丸

奉仕秘記附圖 禰宜行忠

神庫梯立附神學入門 久保季茲 嘉永二 八卷

本教誦誦歌(一名古傳說誦誦頌 鶴峯戊申)

本教外編(一名本教自鞭策 平田篤胤 二卷  
井上賴國書入)

真清田神社名籍 文化七

麻奈井神社考 御巫清直 天保一四

みあれ考 荒木田久老

水内神社考(信濃國水内郡) 北原稻雄 明治一二

水内神社追繼考(一名善光寺正實記 茜部相嘉  
安政六)

水内神社考證 飯田守入

水分神社考(信濃國更科郡) 井上賴國(自筆)

三島神社御傳記

美濃國神名記(天文本寫)



名神號考證 山田以文 天保四

異三宅記 一名三島白濱島々大明神御縁起

宮崎宮略縁起 永友宗年 明治一九

宮主祕事口傳抄 下部兼豐 康安二  
平田家本寫

武藏國氷川神社碑銘 齊藤義彦 天保六  
一宮

武藏國一宮氷川神社略縁起 角井監物  
寛政一二

大和國城下郡藏堂村神社取調明細帳 明治四

倭姫命世記 (賀茂本摸寫)

倭姫命世記古文訓點 益谷末壽訓點 文政九  
(神宮教院本寫)

靈安寺御靈大明神略縁起私記 (江藤正澄本寫)

和學論 附續南宮大湫講餘獨覽  
松宮俊仍(觀山)(自筆)

和歌三神考 伊勢貞丈 天明四

綿向大明神年代略記 (近江國蒲生郡)

岡湊神社縁起 貝原篤信 正徳二 二卷

尾倉莊八幡宮社記 (筑前國遠賀郡) 波多野正次  
同雅知 同雅納補 寛保四

雄琴神社考證 (近江)

寒巖禪師略傳 (續群書類從本寫)

行基僧正傳考異 岳濱子稿本 弘化四

金峰山紛失狀 (新井白石本寫)

黑御所譜

外教説略 物集高見 卷下

慶長宗論 慶長一三

建長寺由緒書 華藏院禮堂 明治元

興福寺伽藍記 僧還圓 (續群書類從本寫)

興福寺現住僧帳

國分寺考證料

古寺徴 初篇 伊藤常足 二卷

御宸翰之寫 (大聖寺紫衣ノ事) 後奈良院、  
東山院、桃園院天皇

五壇法記 正治年間至文永年間  
(續群書類從本寫)

虛無僧縁起並三虛靈譜辨 (池底叢書本寫)

在唐記 釋慈覺

寺山門系圖

外 教

をしへののり

男山好古録 長濱徳甫 嘉永元 卷十五「手寫」

小野神社記 (信濃國東筑摩郡)

## 二 外 教

尼御所譜

斑鳩寺志

石山寺座主傳記

一休和尚年譜 (續群書類從本寫)

因幡堂縁起

淫祀論評 岩政信比古

延嶺狐穢顯記 一名大聖日蓮深祕傳 釋日昭等  
弘安五

奥山辨岐集 釋祖秀 二卷

御室御歴代御年譜

高野大師繪詞

寒巖義尹禪師考 井上頼國

七佛藥師法現行記 保延年間至觀應年間

四天王法記 明徳年間至應永年間

上州榛名山頼印僧正繪卷物詞書

淨土五祖繪詞 〔如〕〔玉面堂〕〔太田花影〕  
〔木街狩野氏之文庫〕

釋家人名録 三卷

釋門事始考「手校」 (池底叢書本寫)

出定後語附解 仲野安雄

諸門跡系譜 伴直方(手寫並校)

寺院上申

十念寺、眞福寺、東大寺、方廣寺、清淨光寺、南宗

守、龍泉寺、相國寺、道明寺、法隆寺

神補次第抄 一名神護寺補任交衆(仁和寺眞光  
院所傳文書抄)「手校」

善光寺本尊考 屋代弘賢 (池底叢書本寫)

穢佛策 近藤守重 寛政四 (靜幽堂叢書本寫)

大安寺縁起 僧恩寛 (影寫)

大安寺資財知行 (諸陵寮本影寫)

一一



内裏原本寫(勸修寺長吏傳)

東大寺別當次第 釋成杲 明和五

仁和寺御傳 釋尊海

法源大禪師傳

比丘尼御所諡號考(押小路本寫)

佛國國師行錄 釋妙那(續群書類從本寫)

辨十二問答 小池貞景(自筆)

曼殊院 井上賴國(自筆)

夜船夢物語 殿村常久 長尾郁三郎手寫  
〔左京住人麻舎藏書〕

靈山院過去帳(近江來迎寺藏惠心僧部筆寫本、影寫)

圓宗軌則 釋毫宣

### 三 哲 學

異說辨解 松宮俊仍(觀山)(自筆)上中下三卷(明和五  
至同し)附錄卷上(安永四年九十

歳著述)(津山氏藏書章)

易千字文

農民教訓狀

農諭 鈴木重嶺 慶應三

辨孟 鈴木雅之 二卷

保科正之家訓

孟軻論 藤田彪

まごの雪 天保八年 早川眞と寫

名教集語 松野勇雄 卷一

明道論 湯澤正直(内藤耻史)

名分說 跡部良武 享保九

立教詳義 待買篇、若水篇 太田方述 寛政六

論語集解(於乎止點本) 何晏 十卷  
延享三年寫

論語八佾諺解(第三) 林道春(古寫本)

### 四 教 育

阿波國教育沿革總說 徳島縣

學則私議 鈴木雅之

哲 學 教 育

講錄

河涼 吉山直内 明治六

菅家遺誠 紀維貞(上賀茂神社本寫)

空翠雜話 野村圓平 安政五 二卷

桓子新論 孫馮翼 岡本保孝輯

君臣名義考附拾遺 大江春平 二卷

經義大意 八田知紀

古易大象經傳 生田國秀 天保六

上五經正義表 趙國公無忌等

魂心氣略辨 權田直助(自筆)

祭薦のよき 三輪希賢 元文五

初學教語 齋藤彦慶(自筆)〔彦慶〕

大學辨 鈴木雅之

平政連諫草 平政連 徳治三  
(前田侯爵本摸寫)

中庸辨 鈴木雅之 卷上

勅諭俚解 千家尊福

學制類聚 二卷

(甲)聖堂釋奠記并試業科條 時習館學規 甘棠館學

規 成章館學規 藝州廣島學館 若松學制 維新

館功令 養賢堂制度 學宮略說 米澤學政開書

(乙)建學私議 進修館學創紀律 行習齋規 掛川學

令 紀平洲學徒之示候書 佐倉侯學制四種 勸

皇學所御規則 皇學所

古學軌範 吉田直惠

弘道館御開御次第書 安政四 (江藤正澄本寫)

訂三學略制 河野靜天 明治一一

昌平志 犬塚遜 寛政一二 五卷

大學事情 明治三

まなひの道々 足代弘訓

和學所御用留書拔(附和學所御用手留(文久三)  
(文政年間至文久二))

### 五 文 學



櫻園歌集 渡邊重春 明治一八

櫻園文集 渡邊重春 二卷

遊女五十人一首 吾妻太夫

異境筆記 尾代弘賢(自筆) [不忍文庫] [長井之章]

伊勢物語梓弓 平田篤胤

伊勢物語愚見抄 一條兼良 文明六 二卷

伊勢物語新考 釋海量 文化二

歌麻那波之良 八木美穂

うつぼ物語考證 清水濱臣 (平瀬龜之助本寫)

うつぼ物語考證 清水濱臣 (大久保本寫)

空物語二阿抄 山岡明阿 目錄細井昌阿 四卷  
(目錄一卷本文三卷) [新宮城書藏]

馬鬣松(桃園院崩御ノ時ノ落首)

うめのかたまぬきうた 青木幸躬

詠史百首辨 海上胤平 明治六

詠史和歌 敏樹、教寛

御歌會次第(明治六年於吹上御茶屋)

憶魯何應斐 鈴木重嶺 慶應四

加賀神崎歌並序 大江春平

歌學正言 鈴木雅之

歌學大成 小山田與清(自筆) [小山田文庫]

加賀美能牟呂乃於毛迦宜 生田萬(國秀)  
(小石川宗一郎本寫)

蜻蛉日記年立

柏園家集 相川景見

柏園十首 相川景見

荷田大人の御像の掛物にそへおく詞 本居大平

贈韓使詩 柴野邦彦(椿亭叢書本寫)

翰林葫蘆集 釋周麟 六卷

菊子を悼む歌 村田春海

京みやげ

金槐和歌集 源實朝 林諸島自筆本抄  
[武藏國江戸住三浦若海圖書]

皇朝詩史一百韻

官家文藻 卷下 (池底叢書本寫)

源語圖抄 (桐壺) 松岡行義 弘化四

源語秘訣 (賀茂翁補説) 寛政四

源語問答 松岡行義

源氏物語器物考

源氏物語玉のみすまる 荒木田守訓 文化二〇  
一六卷

源氏物語類聚抄 (桐壺至末摘花) 松岡行義 四卷二

古今和歌集序釋 附荷田在滿、御風、惟得、慕誌銘  
荷田春滿 (不忍文庫本寫)

後光明帝御製詩集

ことのはふ 青木幸躬 二卷

後鳥羽院御集

孤憤 近藤守重 寛政四 (靜幽堂叢書本寫)

古文雜抄

亭子院歌合日記、大井河行幸和歌序、子日行幸和歌  
序、庚申夜和歌序、行幸高陽院應制和歌序、九月十  
三夜和歌序

後水尾院天皇賜家光宸翰

藏玉和歌集 二條夏基

作文通弊(初名時文摘批) 村田春海 寛政七  
[手校]

櫻東雄草稿 櫻東雄(自筆)

櫻町桃園帝升霞和歌

作例類語 吉川忠行 天保一一 六二卷

雜説(翠園雜稿ノ内) 鈴木重嶺

雜籠唱歌 田澤仲舒(自筆) 二卷

實爲集 名嘉喜門院集 (前田侯爵本摸寫)

澤水 石野廣通 寶曆五 二卷

さほかは 鶴殿餘野子

しのふの露 松之門三草子

清水濱臣詠草 清水濱臣(自筆)

彰考館書目序 大口元善

城山おろし 勝安芳 明治一八

古新葉集與書(山中獻本摸寫)

新葉集作者部類 榊原忠次

神習舍藏書目錄序 矢野玄道 明治七



新撰和歌集 賀茂眞淵自筆識語アリ

神代和歌釋 荷田春滿 享保一五

翠園雜稿 鈴木重嶺 三卷

翠園詠草二卷 翠園文集 白拍子(謠曲) 東宰府天

滿宮和歌會式(嘉永五年) 鏡點 雜説

翠園叢書 鈴木重嶺

一、列女傳拔書 旅路の日記(文久三年) 越俎私議

(明治七年) 御詮號概略 四季のとなへの考 屋代

柳漁質問 星野千之か送りし書のうち 國歌風調

論 奉賀大君長防二州進發歌並短歌 其他序文數種

二、惠の露(文久三年紀行)

三、夢路通日記

征東大將軍宮編年和歌 菅政友編 [菅氏所藏]

昭徳公廿三回御忌奉靈前書 勝安芳 明治二一

旋頭歌四體 草鹿砥宣隆 嘉永元

仙童寅吉物語 平田篤胤 卷一

續千字文 三善爲康

曾禰好忠家集 前田夏蔭、同夏繁手校

寶薰集 三條實美 明治一

百異拾解 相川景見(白筆) 明治六

百人一首作者考 附西田直養消息 西田直養

平田先生書翰 平田篤胤

武家年中行事歌合 北村季文 文政二

筆のすさみ 一名目さまし草 長野美波留 二卷

兵原先生文稿(狄仁傑論、上書) 平山潛

片玉後集序 津村正恭 (圖書寮本寫)

枕の山 本居宣長 齋藤彦慶手寫

眞澄鏡百首 生田道滿(四秀)

前田夏蔭小品 前田夏蔭

萬葉音訓 五卷

萬葉考 賀茂眞淵 一四卷(卷三至卷一〇)、卷一五

萬葉集引用書目

萬葉集新考 安藤野雁(自筆)

萬葉集代匠記附拾遺 釋契沖 二〇卷拾遺四卷

文 學

二六

大嘗會の田歌

大小歌注 小中村清矩詠 權田直助註(自筆)

竹箒 齋藤彦慶 文化八

玉椿 (桐壺至夢浮橋) 細井貞雄(自筆) 文化二三

茶場碑稿 平山省齋(自筆)

椿仲輔遺文抄

露の幸(天保十四年降甘露詩歌) 新見正路

童訓略頌類纂 中原職忠補 承應三 二卷

東洞文集設日課序 吉益爲則

土佐日記考證 岸本由豆流(自筆稿本)

南京遺響 鹿持雅澄 文政四 二卷

二條家傳授書

日本書紀歌集 (池底叢書本寫)

日本文學の起原 小中村清矩(自筆)

農業往來 江藤彌七 寶曆一二

梅園遺稿 吉山直内

五

萬葉集東語彙 田中道廣

萬葉集卷々の時代

萬葉釋例 附部立、年序 足代弘訓

萬葉槻落葉辨誤 龜田末雅

萬葉譯例(寬居雜纂ノ内) 足代弘訓

耳なし草 千種有功

本居翁萬葉説 本居宣長

八十浦玉片、落葉集 本居大平、清島、内遠、

大和物語系圖 北村季吟 承應元

やまのさち 一名高とよおら集 日下部高豊 今條定彦輯

四方の國ふり

朗詠考 岡本保孝 安政五 二卷

李花集 宗良親王 二卷

涼月遺草 鴨殿餘野子 二卷

六句歌體辨 野之口隆正 安政四

和歌出題考 釋慈雲 (池底叢書本寫)

二七



尾花かもと 本居健藏 (本居健藏本寫)

六語學

跡の淺瀬 岡熊臣 卷下

色葉集 (天正十八年寫)

運歩色葉集 四卷

音圖神解 野之口隆正 六卷

音韻考證 黒川春村 三卷

雅言成法 鹿持雅澄 二卷

假字遣奥の山路 石塚龍鷹 寛政二〇 三卷

假字辨義 村田春海 享和元

加良布登ノ加良ノ漢字幹ナルコト (井上頼固 自筆稿本)

句讀者 附助假名考 權田直助

活語變格辨 會田安昌 明治二〇

寛居雜纂

八衢大略 續八衢目錄 てにむは童噺 てにむは

(歌ノ部) あからさま以下廿一言釋 古言梯韻鏡對照 古言清濁論(紀、記、萬葉)

形狀言八衢 權田直助 三卷

語格雜論 谷千生 四卷

語學自在附語學期日傳習法 權田直助 二卷

古言梯掌故 三一卷

古言本音考 石金音主 文政一〇

あむれ考 澤宣嘉(自筆) 明治三

五十音考 細井貞憶

言靈 小山田與清 卷一(かたまのふゆいわけ) (池底叢書本寫)

言靈乃真導 池田實信 明治三〇 二卷

詞能經 圖解 權田直助 明治四

詞の八衢標注 權田直助 二卷

語籠 田澤仲舒(自筆)

桑家漢語抄 大久保忠寄識語アリ 大野廣城押紙 [大野樂園文庫]

指出通礙辨 長野義言 弘化二

玉霞窓小篠批評辨正 會田安昌 明治二二

塵袋 一一卷

天下之文字出于穴町補說 小原通齋

同文通考未成 荒井筑後守 文化七年栢參忠寫

負專考 田澤仲舒(自筆) [榎舎之印]

日本書紀假字類聚抄 小野高潔(自筆) 安永二

後の悔(詞の玉緒辨) 秋園主人

日文章家考 附日文諺文同異雜考 尾張連慶慶

筆茶 水原津齋 嘉永五 三卷

布留之高橋 一名古學階梯 橋本稻彦 二卷

法華經音訓 (天正十五年寫)

麻羅本考 岡部東平 (大江春平)

水莖の考 本居宣長

明了坊信範記 明了坊信範 (摸寫)

木文考 速水行道 安政三

謨微字說 澤元愷

字鏡集古訓便覽

詞原二叢 佐々泉翁

詞原轉用格口授 佐々泉翁

字說辨誤 村田春海 享和二

字說辨誤私考 清水濱臣 享和二

悉曇字記真釋 釋行智 八卷

悉曇反音抄 (阿婆羅抄卷九三) 「手校」

熟語定式 鶴峰戊申 天保元

諸言音例(音例二三たノ下至音例四一わ)

助辭用法 鶴峰戊申 文政七

字籠 田澤仲舒(自筆)

神字考 栗原信充(自筆) [丹誠五十年門外へ出さず]

神字攷 八代巨麻雄 明治四

神字日文考 佐藤信淵 二卷

嘉永 神代文字考 鶴峰戊申 嘉永元

神道、假名遣



- 洋文翻譯便覽 鶴峰戊申
- 八衢補翼 足代弘訓 一一卷
- 類語 天野政徳(手澤)
- 靈語天格 伊庭秀賢 四卷
- 聊齋錄 原慎(藍川)
- 和名鍼線 小野蘭山鑑定 五卷
- 和名抄考文 原慎(自筆稿本) 二〇卷
- 和名類聚抄 源順 一〇卷 [豐宮崎文庫本影寫]
- 韻字一覽 川上廣樹(自筆)

七 歴史

- 東鑑雜考(羅山文集ノ内) 林道春
- 東鑑掌見
- 東鑑辨 本多忠憲 文化五
- 阿波國文書抄
- 阿倍、吉備、小田、中井系圖抄 栗原信充手抄
- 天野山金剛寺文書
- 改有栖川宮系譜
- 有栖川宮熾仁熾仁兩親王御筆
- 青葉の櫻(長慶帝事蹟考) 吉岡徳明
- 撰青葉の櫻(長慶帝事蹟再考) 吉岡徳明
- 安徳天皇御遺事(袖谷私記ノ内)
- 安養寺文書(備前國和氣郡泉村)(應仁三年二月) 丹生居豊前守正頼(影寫)
- 安樂壽院原要記文書(山城)(吉田子爵本寫)
- 輜軒雜記 矢野玄道、井上頼留
- 輜軒雜錄 矢野玄道
- 遊女考 中島廣足 安政三

- 伊賀郡政事日記 垂園通興 貞治二
- 伊賀史 大江廣房 天永二(摸寫) [林崎文庫]
- 伊勢國司記略 齋藤正謙 天保一一 七卷
- 伊勢の卷(伊勢國壹志郡慶桑山金剛寺什物) 二卷
- 逸號年表 藤井貞幹 井上頼留手澤
- 逸史略目 井上頼留(自筆)
- 出雲國造御嗣考 内山眞龍
- 異年號考 穂積保 文化元
- 飯豐天皇事蹟考 久保季茲(自筆)
- 飯豐天皇即位考證
- 飯豐天皇辨 修史館答申、宮内省再辨
- 氣吹舍門人帳 六卷 [手校]
- 今川家分限帳
- 入澤文書及御賜寶劔由緒書(備前) 尾關勝清
- 引用日本紀 井上頼留(自筆)
- 宇多源氏系圖抄(佐々木家舊跡考) [手抄]

- 上杉家舊藩士村山所藏文書 六通(影寫) ウヅツミ
- 上記辨 山口起業
- 梅田雲濱傳 西川正義 文久二
- 卜部家系譜(吉田子爵本寫)
- 雲上示正鑑正誤 栗原信充(自筆) [丹誠五十年門外へ出さず]
- 榮花物語裏書付詞花打聞(林崎文庫本寫)
- 榮花物語考 安藤爲章 正徳三(椿亭叢書本寫)
- 榮花物語抄 寛正三
- 榮花物語問答
- 訂榮花物語略註(月の宴、花山たづねる申納言) 池邊前棟 二卷
- 永昌記(嘉承元至天治三) 甘露寺爲隆(外題三條實萬) 自筆 [三條文庫]
- 永正三年記 小槻時元(摸寫)
- 江戸碑文
- 驛路鈴之圖
- 應徳元年皇代記(一名編年殘簡) [手校] (千鳥祐順本寫)
- 織田信秀略傳



大内文書附舟岡山合戰事 (岡田鴨里本寫)

大江磐代君御事蹟(因伯紀行) 林田永助 明治二六

古大鏡裏書抄 (林康滿本寫)

大御番傳記附錄

大友天皇即位考 (椿亭叢書本寫)

大中臣氏文

大炊省足鼎 大江春平

大守家位記口宣寫

おろかおび (古今飢饉の狀況及救荒食物の製法) 足代弘訓 天保四 三卷

高勾麗古碑考 横井忠直 明治二二

高勾麗碑文

上月記 (大阪天滿川崎九昌院本寫)

上妻近藤文書(懷良親王ノ其蹟) 「手寫」

柏崎騷動略記附宮島義次郎覺書 天保八

家乘 田澤仲舒(自筆)

荷田翁略傳 荷田信美

兼胤記抄 (寶曆二至同二〇、寛延三) 廣橋兼胤

懷良親王事蹟 (附征西六將軍懷良親王御廟考) (悟真寺記錄)

河内王勘文 中村不能齋 明治一〇 「手校」

河野本姓解 越智通昇

鎌倉殿物語 (摸寫)

鎌足公を淡海公と稱したる事 井上賴圀(自筆)

巫部家譜 佐野左馬 元和三 (佐野經彦本寫)

龜山の瀧 齊藤善春

賀茂眞淵翁墓地修營記念碑文ノ材料

菅家左遷考 西田直養 天保八 (靜幽堂叢書本寫)

菅家左遷考 平田篤胤 (靜幽堂叢書本寫)

勘例 小槻重房 二卷

漢委奴國王金印考 (細井金吾、本居宣長) (神宮教院本寫)

漢委奴國王佩印之考附藤貞幹考 上田秋成

閑院宮御家譜

紀伊國那賀郡毛原村古證文 七通 (影寫)

宮人配流記 太田和泉守 慶長一五

紀氏家牒(姓氏錄) 谷森善臣抄 明治七

義士西山氏遺事緒言 鍵谷龍男 「手澤」

起請文類

北小路系譜外二種

北島祕錄 (靜幽堂叢書本寫)

吉家系譜傳 平田篤胤 文政六

偽年號考 中山信名

慶光天皇御諡號讀法ノ考 井上賴圀(自筆) 明治一七

清川正明傳 明治二七

玉海目錄 (長寛二至正治二)

公麗卿勘證(滋野井一流事) 滋野井公麗

公麗卿記 (寶曆七) 滋野井公麗(自筆)

公定公記抄 (山科毘沙門堂所藏革命部類ノ裏書) 應安七年五月 洞院公定(影寫)

金石搨本考 三卷

近代玉葉一覽 (後陽成院天皇至桃園院天皇) 中里仲舒

近代皇宮小傳 三上景文

近代皇統私考 仲野安雄 井上賴文校

近代皇統譜 (一名慶長以降皇統譜年表) (後水雄天皇) (至孝明天皇) (掃葉山房藏書)

近代帝王系譜 (後深草院天皇至明治天皇) 丸山可澄 正徳二 二卷

近代帝王系譜 (正親町院天皇至明治天皇) 「手澤」 (諸陵寮本寫)

近年覺書

公秀公記(元徳元年十二月東宮元服) 正親町三條公秀

金峰雜編一名金峯草 卷上 (吉水院本寫)

公卿補任 (明治元年)

愚管鈔 釋慈圓 六卷、附錄一卷 (山岡凌明校本寫)

舊事紀 (地神本紀) 講義

舊事紀偽書明證考 多田義俊

舊事紀疑問 進藤隆明

舊事紀直日 橋守部 六卷

舊事本紀參考談抄(天孫本紀) 川北朝弘



九條殿御記(承平六年荷前之例)(鷹司公爵本寫)

皇代略記(神代至後花園院天皇) 洞院公賢

熊野荒坂津史蹟考證書(附稻飯命、三毛入野命兩社由緒要領)

皇典翼(神武天皇至持統天皇、有缺) 矢野玄道

熊野三黨系譜(伴直方(手寫))

訂皇典翼 矢野玄道

久米仙人事

神武下、綏靖至開化、垂仁上、景行、

栗濱上陸記(嘉永六年)

皇統諱論考 小山田與清 文政九 五卷

皇胤系圖(神武天皇至後伏見院天皇)「手校」

皇統系圖(神代至明治天皇) 修史館 三卷「手澤」

皇胤譜(井上賴文校)

皇統系圖稿(神武天皇至天武天皇) 修史館

皇鑒(田澤仲舒述(自筆)) 同周任校 四卷

皇統御系譜(神代至明治天皇) 三卷

皇居避災例(伴信友) 大橋長嘉增補

皇統順逆例(井上賴國(自筆))

文武皇后略譜表(勢多章甫) 明治二三

皇統正閏考(速水行道) 文久元

光嚴院宸記(元弘元、二、大神宮御告文)

皇統世數異同表(岡本保孝)

皇親系圖(神代至明治天皇) 修史館 明治一〇

皇統譜編纂條例稿(修史局)

皇親譜略(天智天皇至後朱雀院天皇) 塙保己一 八卷

皇統略記(神代至明治天皇) 井上賴國

皇代記(壬生官務本寫)

皇年代記殘缺(一名十三代要略、村上天皇至崇德天皇) (續群書類從本寫)

皇代略記(紀州德川侯爵本寫)

皇年代私記(附攝關次第、(神代至櫻町院) 藤原伯耆本寫)

皇代略記(一名東寺王代記) (神代至永享八年)

皇年代私記(後水尾院天皇至光格天皇) 勢多章甫補

皇年代略記

見聞諸家紋

過去帳拔萃合本

小一條院準太上天皇ノ事(井上賴賢(自筆))

大德寺塔頭聚光院、清泉寺。正傳寺中瑞泉菴、西恩寺。妙覺寺塔頭了緣院、寶樹院。金戒光明寺塔頭西翁院、光德院。久田宗與。樂吉左衛門歷代。樂吉左衛門筆記。

官軍角館誓約(慶應四)

後宮略傳(續群書類從本寫)

繼芥記(元龜元、天正七) 中院通勝

弘仁私記序「手校」

繼體紀考異

弘仁歷運記

慶長以來帝王御系圖(後水尾院天皇至東山院天皇)

后妃略譜(神代至明治天皇) 修史館「手澤」

系圖調御用掛名前

弘文天皇非正統天子說(近藤芳樹)

教部省職員一覽表(教部省) 明治七

古學者傳稿(天野政德(自筆))

元弘日記(一名光明寺殘篇)

古學略傳(天野政德(手澤)) 二卷

元弘日記裏書

後龜山天皇崩日私考(佐伯利麿) 明治二〇

源平賜姓圖(彰考館本寫)

古器圖(池底叢書本寫)

源平賜姓圖(彰考館本寫)

國造本紀攷(栗田寬) 文久元 五卷、別記一卷

源平賜姓圖(彰考館本寫)

國史拾遺(文武天皇元年至仁和三年) 內藤廣前 一〇卷

源平賜姓圖(彰考館本寫)

國字日本紀(矢野玄道) 三卷(三、五、六)

源平賜姓圖(彰考館本寫)

國史補遺(續日本後紀脫漏、國史補遺、日本逸史脫漏、三代實)



錄脫漏

國史問答七十二條 榮名井廣俊問加賀美光章答 (大川眞澄本寫)

國母略譜表 勢多章甫 明治二三

御願文並御告文舊章太平記ノ詞 (伏見宮家本寫)

御系譜 (後深草院天皇至孝明天皇) [手寫]

御系譜 (後深草院天皇至孝明天皇) [手寫] (後深草院天皇至仁孝天皇)

〔花適家文庫〕(墨阪十一代主寫藏記)

御系譜 (後深草院天皇至仁孝天皇) 五卷 (竹屋千爵本寫)

五國古文書 (和、攝、河、泉、紀) (伴信友本寫)

古語拾遺 齋部廣成 (尾張德川侯爵本寫)

古語拾遺私記 矢野玄道 井上賴國校 明治一四

古語拾遺新註 附麻生垣内著撰書日記 池邊眞棟 八卷

古今戰 大島忠恭 (著者自筆本摸寫)

古今諱部類 速水房常手澤 [和學講談所]

御諡號及年號讀例 文部省 明治七

古事記 (伊勢本) 太安磨 卷上

古道學年譜 久保篤見 三卷

古傳通解 野之口隆正 九卷

後鳥羽院御靈託記

近衛家御親族記錄

古碑類錄 同追加 (池底叢書本寫)

後深草院御記正應御落飾事 (伏見宮家本寫)

後伏見院天皇宸翰寫 後伏見院天皇 (京都御所御文庫本寫)

後水尾院御落飾記 坊城俊廣 [滋野井文庫]

後桃園帝大喪記 井上賴文校 (蜂須賀昭融本寫)

古文書六種

多度寺資財帳、酒人内親王施入帳、東大寺文書、二見文書、五條文書、眞福寺文書、

權記 (正曆一至同五、長徳元、四、長保元至寛弘八) 藤原行成 (伏見宮家本寫)

眞細々要記 一名七卷雙紙 (建武元至永和三) 釋實嚴 七卷 (興福寺東金堂本寫)

相馬文書 (繪旨證文十九通合綴)

榮名井聰翁略傳

古事記 (伊勢一本) 太安磨 卷上

古事記 太安磨 (前田侯爵本影寫)

古事記 太安磨 卷上 (吉永成徳本寫)

古事記裏書 [手校]

古事記裏書 (林崎文庫本寫)

古事記考異 吉永成徳 (自筆)

古事記事跡抄 岡田正利 元文四 三卷

古事記上卷抄 [手校] (尾張寶生院眞福寺本寫)

古事記傳追繼考附錄 茜部相嘉 安政六

古事記傳遺考 野口直道 天保七

古事記日本紀分類乙集

古史對照年表附緒言附言 井上賴國 (初稿再稿共)

古史年歷編 平田篤胤

護正院文書 (觀應元年十一月二十六日) (色川三郎兵衛本摸寫)

古代の笠氏 上原勝之進

古代の髮の考 橋守部

佐久良東雄小傳

佐久良東雄遺事 岡吉胤 明治一三

櫻木ものかたり 七卷 (吉水院本寫)

薩戒記 (應永八至永享一一) 叙位部類、私要抄、抄出 中山定親

薩戒記 (應永八年春) 中山定親

實豐卿記 (應安六年八九月) 正親町三條實豐 (影寫)

山槐記 (久壽元、二、應徳元、長寛二、元曆二、治承二) 中山忠親

三州野田記

三代實錄 藤原時平等 (卷一至卷一〇) (奈良一乘院本寫)

三代實錄私記 矢野玄道 明治一一 一二卷

三代實錄私記 矢野玄道 萬延元 卷三

修史條例 彰考館 [手校]

史稿 (假字藤鎌足傳草稿)

諡號考 權田直助 明治六

諡號雜記

四家七家傳記 (尾張津島)



滋岡家記 滋岡功長

史傳摘抄 鴻峯戊申 天保一〇卷〔田安府一  
芸印〕〔獻英樓圖書記〕

七大寺年表 一手校〔尾張寶生院眞福寺本寫〕

信濃宮後系

信濃宮傳

信濃宮傳 井上賴文校

私年代記

集古一滴 加賀美遠清〔池底叢書本寫〕

集古金石譜〔阿波〕〔早雲眞澄本寫〕

十五士傳〔靜幽堂叢書本寫〕

熊澤伯繼列傳、蕃山實錄、熊澤了介傳、長澤宗敬行

狀、澹齋先生略記、碎玉軒先生略記、安積覺傳略、

故澹泊齋安積先生行實、故老牛居士安積君墓碑銘、

安積氏略譜、高山正之傳、蒲生君威墓表、梶左兵衛

佐定 略記、玉川典禮紀事、松波正春錄

島津家分限帳〔靜幽堂叢書本寫〕

殉難志士葬骨述懷錄 明石博高 明治四二

松陰私語 釋松陰 五卷〔影寫〕

承久記人名考 二卷〔水戶徳川侯爵本寫〕

松花僻案 田中元勝

諸記勘例目錄 二卷

續日本紀 菅野眞道等 卷一至卷四十〔奈良一乘院  
本摸寫〕

續日本紀綱要 二卷〔楓山文庫本影寫〕

續日本後紀 藤原良房等 卷一至卷二〇  
〔奈良一乘院本寫〕

異本續日本後紀考 御巫清直 明治二〇

續日本後紀私記 矢野玄道 五卷

續日本後紀序 藤原良房 一手校

諸家系圖〔源氏以下十八姓〕

諸家稱號之濫觴 寶永元〔靜幽堂叢書本寫〕

諸家補任略記 速水房常〔自筆〕 延享二

諸家名字纂 二卷〔墨阪十一代主寫藏記〕

嶼子傳成文解 附三神山餘考抄 葛根堅室 二卷  
附錄一卷

島津文書〔諸家文書纂拔萃〕

上宮太子拾遺記 七卷〔法隆寺本摸寫〕

上宮太子拾遺記 題發法隆寺文書 一卷〔第二〕  
矢野玄道校

尙古年序錄〔進木迺舍〕〔眞榮〕

尙古年表〔大化至弘化〕

正倉院開封例 勢多章甫

上世年歷考證 落合直澄

正統原流

正統論 田中〔近藤〕芳樹

聖德太子平氏傳雜勘文 釋法空 六卷  
〔法隆寺學問所本影寫〕

聖武天皇御名考 谷森善臣

庄屋九郎右衛門多氣落城物語 並附言 富田耕齋  
二卷

釋日本紀私記 矢野玄道 明治一三 三卷

壽宴記 文化四

春記〔天喜二年〕 藤原資房

順德天皇皇子始末 相川縣上申 明治六

史料凡例

神皇系圖 井上賴留校〔尾張徳川侯爵本寫〕

神皇實錄〔尾張寶生院眞福寺本寫〕

新國史〔林崎文庫本寫〕

新國史考附扶桑集 伴信友 一手澤

人車記〔祕本〕〔保元元年秋、仁安三年二、七月〕  
西洞院信範

人車記 保元三 西洞院信範〔風早本寫〕

人車記 同裏書 保元三 西洞院信範

人車記 久壽二 西洞院信範

緝紳家上書〔近衛忠熙以下〕

新姓氏辨 飯田年平 元治元〔江藤正澄本寫〕

新抄 同裡書〔文永元、二、三年、弘安十年〕 五卷  
〔前田侯爵本影寫〕

新撰姓氏錄 萬多親王等 三〇卷〔壬生官務本寫〕

新撰姓氏錄 萬多親王等 三卷〔皇別、神別、蕃別〕  
〔尾張徳川侯爵本寫〕

新撰姓氏錄註 內山眞龍 一手校 六卷

神皇正統記 北畠親房 三卷〔粟田宮本寫〕



舊神皇正統記 北畠親房 四卷 (白山神社本寫)	一	姓序略考(稿本) 井上賴國	一
神武紀註 鴨祐之	一	少外記清原重憲記 康和五年康治三年中神社之事	一
神武綏靖二帝皇后考 井上賴國(自筆)	一	椒庭譜略 鳩保己一 五卷	一
神武天皇降誕考 井上賴國	一	赤縣太古傳 卷四 平田篤胤	一
神武天皇講義 久保季茲 井上賴國加書	一	世田谷古文書 [江戸齋藤氏] [莞齋藏]	一
親王家系圖 (考信閣本影寫)	一	攝關次第	一
人名種別及同追加 本居豐顯 明治二二	一	先代舊事本紀 十卷 「手校」 (林崎文庫本影寫)	二
資勝卿記 一名涼源院殿御記 寬永九年正、二月 日野資勝	一	先代舊事本紀事跡抄 [松月齋藏書]	三
諏訪氏系圖 (前田侯爵本寫)	一	仙道記 (靜幽堂叢書本寫)	一
諏訪下社大祝系譜略	一	先朝紀略 (天保二至慶應三) 勢多章甫 六卷	三
征韓起原防長國郡志附錄 近藤芳樹 弘化三	一	泉涌寺舊記 (皇年代略記殘缺)	一
西州投化記 小宮山昌秀 三卷 文化九	一	總葉概錄 磯邊昌言	一
姓氏一覽 原愼 文政七 一三卷	一	僧俗名寄	一
姓氏考 三一卷	一〇	聰譽の記 釋聰譽 友安盛敏標注 應永三四	一
姓氏考 田口明良	一	續皇代記 (後水雄天皇至孝明天皇) 松岡辰方 和田包矩補	一
姓氏考 田安宗武問荷田在滿答	一	續皇代記 (櫻町院天皇至桃園院天皇)	一

續皇代略記 (寬正元至天正一四) (前田侯爵本摸寫)	一	大日本史補 久保季茲	一
續三宮傳 三上景文 土屋謙良加補	一	大判事明世記 (永享四年七月) 坂上明世	一
續史愚抄 柳原紀光 八一卷	二八	大夫尉親清記 (承元四年八月) 藤原親清	一
續史籍年表 (元和三至慶應元) 速水行道	一	當今御親族書 (光格天皇)	一
續史籍年表 (元和三至明治三) 勢多章甫(自筆)	一	道助親王傳 (續群書類從本寫)	一
續紹運錄附錄 (松岡明義本寫)	一	たかだち 二卷	一
續椒庭譜略土代 (後三條院天皇至後西院天皇) 鳩忠實 井上賴國加書 八卷	一	高崎藩近世雜誌 原教 明治一〇	一
續保定記 (下總國印旛沼古堀筋堀割ノ事) 天保一四 二卷	一	高橋宗恒、親宗、宗直三世履歷 石井泰次郎	一
續王代記 (仁孝天皇)	一	竹內式部一件 (近衛家文書) 二卷	一
襲人僭偽考 鶴峯戊申	一	多氣御所口碑 川口常文 明治一五	一
尊卑分脈 二卷(卷一七、卷一八) (丹鶴書院本寫)	一	多氣卷心覺並附考 富田耕齋 明治一五 二卷	一
台記目錄附別記目錄 八卷	一	太宰帥親王家御遺領目錄 (伏見宮家本寫)	一
太子傳玉林抄 一九卷 (叡福寺本寫)	三	太上尊號記 一名小夜聞書(典仁親王)	一
太子傳金玉抄 釋榮甚 永祿一二 一二卷	一二	達智門院立后考 谷森善臣	一
大乘院日記目錄(寺社雜事記)	一	田鶴舍日記 文政五至天保七(文政八、一二、天保 四缺) 村田春門(自筆)	二八
大織冠鎌足公家傳 卷上 (伏見宮家本寫)	一	谷文晁好古紀行 谷文晁	一



- 一 玉川宮考證 湯川潔 明治四
- 一 爲房卿記 一名大府記(寛治二、六、康和二、五) 勸修寺爲房
- 一 耽奇漫錄 瀧澤解 五卷
- 一 親長卿記別記 甘露寺親長 五卷
- 一 親房卿聞書 北畠親房 井上頼文校
- 一 筑紫琴 上野勝從 天保六 三卷
- 一 筑紫の卷 三卷 (吉水院本寫)
- 一 筑前國中神佛寶物記 末松定利 延享四
- 一 地下家傳 二卷
- 一 地下上階部類 (壬生官務本寫)
- 一 千島の白波 平田篤胤 文化四 八卷
- 一 長慶帝踐祚考證 佗山石 附櫻松論、濱田男麿上書 吉岡徳明
- 一 長慶天皇繼統考證 栗田寛 明治八
- 一 長慶天皇御即位論 井上頼國稿 大關克訂(自筆)
- 一 長慶天皇事蹟考 佐々木浚
- 一 長慶天皇正統論 湯川潔 明治一〇
- 一 長慶院天皇御事蹟考 小中村清矩 明治六
- 一 長慶院天皇御事蹟考辨 木村正辭 明治六
- 一 長慶院ニ關スル書目 田勝哉 井上頼國補訂
- 一 中興鑑言打聞 三宅糾明
- 一 中將繪詞
- 一 鎮西古文書編年録 四卷
- 一 古椿葉記 貞成親王
- 一 津島社古文書 正徳二
- 一 恒貞親王傳 (續群書類從本寫)
- 一 壺碑附千引明神宮
- 一 帝皇系圖 (神武天皇至正親町院天皇) 「手校」
- 一 帝皇系圖 釋日本紀第四卷 (楓山文庫本影寫) 以前田家本及大澤清臣本手校
- 一 帝系圖 同裏書系圖 應安四 (三寶院本影寫)
- 一 帝王系圖 (神武天皇至後奈良院天皇) (前田侯爵本寫)
- 一 帝王御系圖草 (神武天皇至光格天皇)
- 一 朝廷諸臣及諸門跡 (林崎文庫本寫)

傳記材料

- 一 教部省職員一覽、官社神官一覽、井伊大老執權始末、
- 一 浮田一蕙傳、中山忠能傳、上野景範傳、小松彰傳、
- 一 大久保一翁傳、三島通庸傳、馬場辰猪傳、森有禮傳、
- 一 西野文太郎傳、肥田濱五郎傳、鹽田三郎傳、上杉齋
- 一 憲傳、中島佐衛傳、綿貫吉直傳、澤爲量傳、玉鉾會
- 一 發起人並會員人名、
- 一 天化顯被錄 (光格天皇御遺事) 海妻甘藏 明治三六
- 一 天正年中大名帳
- 一 天書 藤原濱成 一〇卷 (以谷森本岡吉胤手校)
- 一 天地人總系圖
- 一 天智天皇外記附崇福寺記 藤井貞幹
- 一 天明五年遠忌録 平岡資摸 (池底叢書本寫)
- 一 東大寺文書 一通 (影寫)
- 一 讀史竊述 伴信友 平田篤胤批評
- 一 年立抄 (醍醐天皇至後三條院天皇) 一條兼良
- 一 富田系譜 (伊勢國一志郡下多氣村富田耕齋家) 寛永二一
- 一 長興宿禰記 (文明七至同一九) 長興宿禰 [正親町藏] (鈴鹿長存本寫)
- 一 中臣氏先祖次第
- 一 中臣卜部姓氏録
- 一 永井先生事蹟 林正猷 慶應元
- 一 名越舍門人帳 「手澤」
- 一 那須奥野繼圖 (江藤正澄本寫)
- 一 均光卿記 (寛政六欣子内親王立后) 柳原均光
- 一 浪合記 (高須藩松平義生本寫)
- 一 浪合記 井上頼文校
- 一 浪合草の露 竹尾次春
- 一 浪合故事略記 寓岩齋信好 文化五
- 一 列城宮御宇天皇御年紀考 小中村清矩 慶應三 [手澤]
- 一 奈良年代記 (續群書類從本寫)
- 一 南海通記 香西成資 享保四 六卷
- 一 南山要記 三卷 (谷森善臣本寫)
- 一 南山御出次第 (伏見宮家本寫)



- 南山偽主事 一名二宮忠義君事 中山信名
- 南山皇統記 富田貞春 天正五
- 南山皇統記之考 前野包廣 明治一〇
- 南山遺芳錄 齋藤正謙 二卷
- 南帝系圖
- 南帝由來記 (長祿二年十二月吉野郡川上郷所傳)
- 南朝舊記 一名聰譽記 「手校」
- 南朝公卿補仕考 塙保己一 (不忍文庫本寫)
- 南朝系圖 小山田典清 文政一〇
- 南朝系圖 二種二卷 (彰考館本寫)
- 南朝三代私考 大澤清臣 明治二三
- 南朝伺候略傳 (西園寺家本寫)
- 南朝伺候略傳名寄系圖 藤原直臣 嘉永三 二卷
- 南朝事跡考
- 南朝世數之紙面 「手校」 (前田侯爵本摸寫)
- 南朝紹運圖 天野信景 井上賴文校

- 南朝遺傳
- 知久家傳記、堯翁院傳記、正壽寺傳記、妙光寺傳記、妙昌寺傳記
- 南北朝皇統授受 井上賴國
- 饒速日命考 久保季茲
- 二十一代集才子傳 八卷
- 日本逸史私記 矢野玄道 明治一一 八卷
- 日本紀 (舍人親王等 八卷(卷一至卷卅) (奈良一乘院本寫)
- 北野日本紀考異 六人部是香
- 立野日本紀考異 立野良道 文久二 「手寫」
- 水戸日本紀攷文 徳川光圀 元祿四 「手寫」
- 日本紀訓考 賀茂眞淵 内山眞龍
- 日本紀系圖 附諸王賜源圖、諸王賜平圖 (彰考館本寫)
- 北野日本紀目錄
- 日本紀略 (仁和三至延長八) (朽木本寫)
- 日本紀略 山崎知雄手校

山崎知雄校木

- 日本紀若浦鶴抄 七卷
- 日本外史補 (足利氏後記島津氏上) 伊加倉俊貞 明治二
- 日本皇帝系圖 (神代至後醍醐天皇) (影寫)
- 日本後紀 藤原冬嗣等 二卷(卷一至卷卅) (奈良一乘院本寫)
- 日本後紀 藤原冬嗣等 卷三 (卷子本寫)
- 日本書紀 舍人親王等 三〇卷 (北野神社本影寫) 一〇
- 日本書紀 舍人親王等 卷一一、一四、一七、二〇、 (前田侯爵本影寫)
- 日本書紀 (一峰本) 舍人親王等 卷一至卷三 (北野神社本摸寫)
- 日本書紀 (舍人親王等 一〇卷(神代至應神天皇) (玉屋本摸寫) (小杉眞瓶手寫)
- 日本書紀 舍人親王等 卷廿四 (藤波子爵本影寫)
- 日本書紀 舍人親王等 二卷 (林家本寫)
- 日本書紀攷異 (壬生官務本) 「手澤」
- 日本書紀私記 三軸 (藤波子爵本影寫)
- 日本書紀私記 「手校」 (彰考館本寫)

- 日本書紀私記 (伴信友校本寫)
- 日本書紀事跡抄 岡田正利 元文三
- 日本書紀私傳 岡熊臣 四卷(卷上) (六人部是輝本寫)
- 日本書紀諸本異同考證 小野高潔 文化一四 [平高潔章]
- 日本書紀通證補正附問目 尾崎權平
- 日本書紀類聚解 内山眞龍 文化九 一五卷 (氣賀近藤本寫)
- 女王記諸抄
- 女院親王内親王法親王號記 (林崎文庫本寫)
- 女院號類聚 (後水尾院) 滋野井公麗 明和二 「手寫」 [滋野井文庫]
- 女院次第
- 女院部類 速水房常
- 女院略譜表 田邊勝哉 井上賴國校補
- 仁和寺日記 (正元二至承久二) 「手澤」 (史料編纂掛本寫)
- 人王百代具名記 (日本紀私抄第二抄錄)
- 宣胤卿記 (文明一二至永正一五) 長講堂傳奏事、貢馬傳奏事、渡方、消息、中御門宣胤
- 野呂直貞筆記 野呂直貞



- 配所殘筆 山鹿素行 (自筆本石版)
- 報仇記談抄 棚橋楓檜
- 寶祚無窮真柱礎 松本直秀 文久元
- 伯五代記 顯廣王、仲資王、業資王、資益王、忠富王、五卷
- 羽倉在滿御答一件附林子平一件
- 羽倉家傳 羽倉信度
- 羽倉大人消息 荷田春滿
- 羽倉文書 荷田春滿 (羽倉本影寫)
- 箱館聞書
- 島山家系 (靜幽堂叢書本寫)
- はなさく松 塙保己一 天明八
- 花咲松評 生駒周藏
- 花咲松辨々 木村正辭 明治六
- 南山餘馨 花ふ、き(目埃集卷八三) 津久井清影 文久元
- 林子平傳 林通明 天保一二
- 林子平碑 大槻清崇
- 速日尊天降考 工藤楯彦 文久元
- 治田氏家牒 今出河若卿 寶永三
- 伴系圖 伴重賢
- 播州明石浦柿本大夫祠堂碑錄 林松下見林手寫
- 久松能桂略歷
- 肥前舊事 南里居易 六卷
- 百壽の宴 大槻支澤 天明元
- 平田鐵胤翁履歷
- 平田先生伴信友翁に贈る書翰 [文化一] 小杉楢本寫
- 風說書 井上頼正
- 風聞書 弘化二
- 福住正兄翁小傳
- 武家補任 (天正一六至元祿一七、同補正加註元和一六至寬文五) 二卷
- 扶桑略記 釋皇圓 四卷(卷二、三、五、六) (尾張寶生院真福寺本影寫)
- 扶桑略記 釋皇圓 四卷(卷一、三、五、六) (尾張寶生院真福寺本、狩谷望之手寫)
- 扶桑略記 卷廿三、廿四、廿八、釋皇圓 (皇典講究所本寫)
- 本教暗誦歌 一名古傳說暗誦頌 鶴峰戊申
- 本朝皇胤紹運錄 一手校 (秘閣本寫)
- 本朝皇胤紹運錄 (吹上小本) (後陽成院天皇至櫻町院天皇)
- 本朝皇胤紹運錄 (神代至後奈良院天皇) (岩倉實相院本影寫)
- 本朝皇胤紹運錄 (神代至後水尾院天皇) (楓山文庫本寫)
- 本朝皇胤紹運錄 (神代至正親町院天皇) (親長卿本影寫)
- 本朝皇胤紹運錄 (神代至後陽成院天皇) (田安本寫)
- 本朝皇胤紹運錄 (神代至靈元院天皇) (彰考館本寫)
- 本朝皇族歷代志 小松清直
- 本朝皇代記 (金剛峰寺本摸寫)
- 本朝世紀 (貞觀一至長元二) 五卷(卷一至五) 阿安賢手寫
- 本朝世紀 (伴信友校定本) 一七卷(卷六至卷廿二)
- 本朝世紀 (天慶五年二月至五月)
- 本朝世紀考 伴信友
- 本朝世紀校勘例言 圖書寮 明治二〇

- 扶桑略記校讞 狩谷望之 三〇卷
- 扶桑略記考證
- 扶桑略記抄本 一名扶桑略記拔萃 二卷(新井白石本寫)
- 改定伏見宮系譜 (伏見宮家本寫)
- 伏見宮御代々御薨日
- 伏見院御落飾之記 (伏見宮家本寫)
- 藤田彪碑 青山延光
- 藤原保則傳 三善清行 栗田寛校 (前田侯爵本寫)
- 武烈天皇御暴虐正論 松野喜代志
- 武烈天皇聖德考 落合直澄 慶應三
- 文應皇帝外記 釋師鍊 (續群書類從本寫)
- 豊後國注進狀
- 平家物語作者不審 黒川春村(自筆) [花洒家文庫]
- 平田寺文書(遠江國榛原郡相長町)
- 標有梅 三浦梅園 二卷 (山口起業本寫)
- 編史凡例 (三代實錄、文德實錄)



本朝紹運續錄 (後陽成院天皇至孝明天皇) 速水房常

三本文書 (讀書萬卷樓本寫)

本朝續紹運錄 井上賴文校 (九條公爵本寫)

三本文書 (小杉楓邨本寫)

本朝略名傳

水野隼人正覺書 (椿亭叢書本寫)

堀織部北蝦夷地見分書上うつし 嘉永七

壬生官務家古文書 三卷 (影寫)

堀直寄傳記

壬生家新寫文書 二卷 (影寫)

松平義行所藏文書 二卷 (彰考館本影寫)

任那考附任那國名考 陸軍參謀本部編纂課 明治一五

松尾社古文書

明月記 (嘉祿元年) 藤原定家 (林崎文庫本寫)

眉輪王報父仇 (靜幽堂叢書本寫)

名字抄

政所內談記錄 (一名蠅川親元日記 蠅川親元 (文明六七七八) (摸寫))

名字辨 三宅公輔 文化一二

政所內評定記錄 (一名蠅川親元日記 蠅川親元 寬正年中)

宮後系圖 宮後朝昌 明治八

政所賦銘引付 (一名蠅川親元日記 蠅川親元 二卷)

民部省圖帳 (伊勢國) 康平五

美賀保志彌夜 矢野玄道 明治三 井上賴固加書

無窮紀常磐抄 (小野高潔(自筆) [平高潔章]) 文化一四

水分宮鐘銘並始末 (摸寫)

武藏國集碑錄 (原本) 文化九 [三枝文庫]

皇子尊卜奉稱シ例 井上賴固(自筆)

武藏國鐘碑銘文集 (御府內備考附錄) 二卷

水鏡 寬永八年校 [青蓮王府]

武藏七黨系圖 (朽木家本寫) [伴文庫]

異水鏡 (手校) (尾張寶生院眞福寺本寫)

無二抄 (神代至寬永五) 五卷

宗良親王御系

野府記 (寬和元至長元五) 藤原實資

村山文書 (上杉家舊藩士所藏文書) (影寫)

行義日々記 松岡行義 四卷

村山文書考證

弓削物語 弓削真良 享保四

明器圖 (美濃國所出) 平正世 文化七 (池底叢書本寫)

結城文書抄

明正院御賀記

由良系譜外二種

木首始末 角田忠行

由井正雪一件江戸駿府往復書 (池底叢書本寫)

物部氏纂記 栗田寬 文久四

愉婉錄 三浦晋 天明三 二卷

師岡正胤翁履歷附三將軍木像記

橫瀨系譜外二種

師岡正胤翁略歷附歌集拔萃

吉野考纂 淺羽昌儀 延寶八

文德實錄 藤原基經等 一〇卷 (奈良一乘院本寫)

吉野宮傳記 (林崎文庫本寫)

文德實錄私記 矢野玄道 明治一一 二卷

四日市放火變動始末日記 (慶應四年正月) 渡邊明(自筆)

康富記 (應永八年至康正元年) 中原康富 一五

豫陽河野家系

康富記 (永享二、寶德三、文安元、享德三 大永七) 中原康富

理慶尼記一名武田勝頼滅亡記 理慶尼

柳原家所持日記書目次第 (柳原伯爵本寫)

六國史補纂 檜山義慎 一〇卷

大和國城數(天正年間) 戸北月峰

立川寺年代記 (續群書類從本寫)

矢野玄道翁碑銘 副島種臣

曆仁以來年代記 (續群書類從本寫)



類聚國史(卷卅四、嘯百八)菅原道真(天滿宮神庫本寫)

歷代大佛師譜 黒川春村 安政三 二卷、附録一卷

歷代地震考附録 茅原元常 天保二 二卷

歷代帝王譜略 黒川簡齋 延寶九 二卷

落原拾葉抄 中村元恒 三卷

卷十異本信濃宮傳 卷十二異本混合記 卷十三浪

合記別集

王代記(神代至後花園院)

和漢合符(神代至文明一一) 一〇卷

和漢年表 新井白石(圖書寮本寫)

和氣系圖附考 伴信友

和國名女實記

和州藥師寺佛足石記 森川竹窓

威奈大村墓誌 木下孔恭

猪隈關白記(建仁元、建仁二、承元二) 近衛家實  
(元祿一一年書寫校合)

越後柏崎戰記 天保八 二卷

越後長岡戰爭記 明治元

園太曆目錄(延慶四至延文四)

小右記(長元四) 藤原實資

小右記(寛仁三年八月東宮元服) 藤原實資

岡崎領主古記

小川香魚履歷

小原實風翁傳

尾張氏纂記 栗田寛 元治元

折田年秀筆記 折田年秀 嘉永六

園城寺古文書 正平八(新井白石本寫)

### 八地誌

赤塚記行(武蔵) 齋藤縣鷹、長谷川雪且挿畫  
文化九 [長井之印]

熱海之道の記 山本正臣 早川忠行手寫 文政五

淡路國太田文(村岡長弼本寫、同氏識語)

阿波國太田文 元龜四

いなむしろ(眞間國府筆紀行) 奈佐勝躬

磐城國郡建置沿革 鍋田三善

磐城志 鍋田三善 卷一

岩城志一名岩城風土記 [手校]

石見國郷名考 藤井宗雄 慶應元

石見國郡考 藤井宗雄 慶應二

伊豫古蹟志 野田長裕 四卷、外傳二卷

宇都勢美の日記 相川景見(自筆) 明治三

宇津峯舊地圖

宇度淡輪兩墓勘注 谷森善臣 明治一三

宇瀨地理考 宮崎大門

埋木考一名隅田川橋柱考 屋代弘賢(自筆)  
[不忍文庫]

雲州樋河上天淵記

雲上御造營記

江戸古繪圖附記 貞如

江戸塵拾 芝蘭室主人 二卷

阿波國見聞記 永井精古

安房國地名考 秦檜丸輯 林忠考訂 寛政元  
[手校]

阿陽郡莊記 寛政九

有馬日記 稻懸大平 天明二

安徳天皇舊址二則(長門、土佐)

伊賀國誌 沙彌爲入 元祿一二 五卷

伊賀國名所記一名永閑記 能登永閑

市邊忍齒別命山陵考附言 島村紀孝 明治元

市邊皇子山陵考(蒲生舊地考ノ内) 長野義言  
嘉永二 [橋本文庫]

伊豆國輿地志 齋藤縣鷹手澤 [齋藤文庫]  
[江戸齋藤氏] [白雲堂]

出雲風土記意宇郡古文解 本居宣長 寛政八

出雲風土記解 内山眞龍 三卷 [手寫並校]

出雲風土記考 横山永福 一〇卷

出雲風土記國引文解 大江春平

訂出雲風土記密勘 春日信風 文化五

伊那志略附伊那沿革圖 中村元恒 文化九 一六卷



江戸圖解集覽 山形豐寛 文化一三、一四 一四卷、增補一卷〔梅陰書屋〕

淤能碁呂島考 附重胤評 大江春平

飲肥紀行 伊東義祐 天正年間

大神山の記(伯耆) 大江春平

大藏、世田谷、喜多見舊事考 齋藤縣麿(自筆)

〔荳齋藏〕〔江戸齋藤氏〕

太田道灌紀行 太田道灌 (林崎文庫本寫)

上妻日記(筑後上妻) 江藤正澄 明治二

柿崎村誌(三河) 明治二

柏原天皇陵考說草案 正田棟隆

鹿島參詣記 一名鹿島參詣圖會 三卷、補遺一卷 竹村立義 文政七

上總之船渡 釋法源

川越松山巡覽圖誌 竹村立義 文化一五

河内、和泉、攝津、村々高附 三卷

竈山真考 桃園秀穂

寒巖義尹和尚御墓勘注(肥後國飽田郡川尻大慈寺境内) 諸陵寮 明治九

慶長中御曲輪内略圖

國號考 奈佐勝皋 弘化元

國號考 内山眞龍 寛政八 〔中川家藏書印〕

國號古義 池田實信 明治七

國郡捷見 村岡良弼

古志國考證 落合直澄 田中賴庸補考 明治二

古代地名考(利根川) 白根夏雲稿本

古本逸風土記 伴信友集校 〔手澤〕

古本風土記逸文 伴信友集校 村岡良弼手澤

高麗渡(藤原忠恭自筆本摸寫)

御陵墓勘註(兵庫、岡山、鳥取縣) 諸陵課

作州記抄 津田重倫

佐倉風土記 磯邊昌言 享保七

さざなみ一名近江地名考

佐渡志圖共 文化一三 六卷

志摩國舊地考 井坂丹羽太郎 明治一三 四卷

八

紀伊志略 武内玄龍 四卷

宮所記 内山眞龍(自筆) 享和三 〔中川家藏書印〕

幾奴賀起の日記 明治一

崎陽紀行 松平石見守 太田覃自筆識語〔南畝文庫〕

京都日記(薩摩至京都) 靜隱 享保一九 二卷

禁裏御領附

雲のころも(京都) 檀園 安政七

久留米志 樺島公禮 文政九(押小路家本寫)

皇子皇女御墓勘註(岐阜、長野、新潟、石川、山形) 諸陵寮

郡郷疏證(下總國匝瑳郡) 村岡良弼

郡名異字略考附國名異字略考 津川義鐵

郡名考 青木敦書 明和元 〔手校〕〔謙齋藏書〕

寛永元年大名祿高(自江戸至京駄賃附天保卯改大日 本高) 徳川昭武侯本寫

京華錦繡段 釋靜居(自筆) 嘉永三 二卷

京城圖(拾芥抄圖) 〔手校〕〔温故堂本寫〕

京城圖(拾芥抄) 〔手校〕〔前田侯爵本寫〕

四神地名錄 古川辰 一〇卷 〔手校〕

七湯栞 文聰校 弄花輯 (卷子本)

小竹宮考(紀伊國那賀郡長田莊北志野村) 稿本

將軍塚考(紀伊國那賀郡) 稿本

上信日記 清水濱臣 文政二

志陽略誌 田中理助 正徳三 三卷

諸國御料所方御支證目錄

諸國道程記 〔手校〕〔中川家藏書印〕〔福田文庫〕

諸陵說 谷森善臣 安政二 五卷

諸陵徵 谷森善臣 嘉永四 四卷

神代三陵異考附地理纂考 樺山資雄 明治七

須我路の日なみ 出川道平 嘉永七

杉田遊覽誌 竹村立義 文政八 〔手校〕

駿河臺誌 附駿臺小志餘滴 齋藤縣麿(自筆)〔荳齋藏〕

駿河國新風土記抄 三階屋道雄 五卷

綏靖武烈顯宗弘文四陵及田口氏墓建言



三松三郎等 明治一六

翠園紀行集附小傳 鈴木重嶺

夢路の日記、旅路の日記、蕙の露、旅路のすさび、伊香保前橋の記、越路日記、旅路のすさび、東總日記、旅路の夢、霧積紅葉見の記

西洲神都考 大竹政友 文化一二

征西大將軍懷良親王御廟考 附錄後將軍泰成親王 (白川縣記録)

西洋紀聞 新井君美 正徳五 三卷 「手校」

小豆島略志 土岐巖之 文化元 三卷 「村垣文庫」

宗長日記 釋宗長 (續群書類従本寫)

對州古蹟集覽 藤子光 寛政二 三卷

大祖靈時御遺蹟考 井上頼固(稿本) 明治四〇

高倉宮没落會津紀行

高野日記 釋頼阿 (續群書類従本寫)

高屋山陵考 田中頼庸 明治四

多氣遺跡抄録 川口常文抄

地名記目錄

通信考 奈佐勝皋 天明四

都支山日記 清水濱臣 文化一二

杖植紀行 貝原篤信 延寶七 (江藤正澄本寫)

帝陵發掘一件 奈良奉行記録 嘉永五

調布日記 太田覃 文化六 四卷附錄一卷 「手校」

寺河郷談 (土佐國土佐郡本川郷寺川村) 寶永堂

天降眞蹟考 八田知紀 嘉永五 二卷

天保卯改大日本高 (水戸徳川侯爵本寫)

東遊日録 藤井貞幹 寛政元 (影寫)

東行日記 落合直亮 權田直助 慶應四

土佐志 岡本信古 二卷

並山日記 一〇卷(一至五缺)

檜葉越菜(加賀、能登、越中) 癡龍 二卷

南紀略志 承應元

南路志(郡郷式社官社) 武藤致和

竹島考 附竹島渡海由緒 江石梁 二卷

竹島考 越智直澄 (椿亭叢書本寫)

但馬日記 殿村常久 文政八

多西山之根村高帳 久保島源十郎

玉川泉源巡檢記 山城祐之 明治一三

丹後舊事記 其白堂晋信 一〇卷

丹後州宮津府志 附拾遺 天野房成等 寶曆一〇至

第三缺) 拾遺二卷

丹後國風土記 「温故堂文庫」

丹波國風土記 (池底叢書本寫)

筑紫小戸靈蹟考 宮崎大門

筑前志略 貝原篤信

秩父三十四箇所順拜 素全 文政七 「手校」

秩父順拜記 竹村立義 文政六

秩父の山つと 會田安昌 明治二二

地名記 内山眞龍 享和三 五卷 「手校」

西本郷村誌(三河) 明治一二

日光紀行 山本正臣 (早川忠行手寫)

日本賦稅 (慶長三年) 附日本地割引(寛文八) 日本惣石

能登國名跡志 太田某 安永六 二卷

房總紀行 會田安昌 明治二〇

房總志料續篇 田丸健良 天保三

箱根熱海温泉名勝圖會 題簽相山豆海温泉名勝志

草稿 齋藤縣鷹(自筆)

箱根熱海温泉名勝圖會 齋藤縣鷹自筆稿本

はこね日記 清水濱臣 文化一一

濱の松風 筒井政憲(自筆) 天保五

濱の松葉 小山田與清 天保一三

播磨龍野志

播磨國風土記 (三條西伯爵本摸寫)

播磨風土記 附逸文 (鈴鹿運胤校本寫)

標) 播磨風土記 栗田寛 文久三



播磨風土記考	岡田光佃 岡平保 文久三	—
播磨名勝志	北村好古(自筆) 元文元	—
播磨巡の記	仲野安雄 明和二	—
日向國神蹟考	六人部是香 嘉永五 二卷	—
東山志	藤原知文 文化四 「手澤」〔服部氏藏書印〕	—
肥州名勝略記(略本)	「手校」〔待賈堂〕〔長井之章〕	—
常陸帶	二卷 太田覃手寫 「南畝文庫」〔長井之章〕	—
東遊記(安藤定爲)	千年山八境記(長松軒惟翁)	—
山家の記(安藤定爲)		—
備前國石上斬蛇事跡考	土肥經平 明和八	—
琵琶湖志	木村奎 二〇卷	二〇
蛭子淡島考	中村守臣 天保一二 越智信比古加書	—
深川考	守田雀庵(自筆) 天保三	—
伏見近邊抄	(吉田子爵本寫)	—
豊前國古史地名考	佐野經彦 明治三 五卷	—
二荒日記	小中村清矩 明治一四	—
二名集(伊豫)	岡田通載 安永六	—
船路の日記(江戸至京都)	相川景見 元治元	—
武野遊草	太田覃書 「手校」	—
豊後雜徵	伊藤常足 天保四 三卷	—
豊後風土記注		—
平安城皇居考	土肥經平 二卷	—
平城志辨略	戸北月峯 享保一〇	—
北條分限帳	(武藏ノ内) 永祿二 田澤義章、井上頼國手澤〔雀庵文庫〕	—
北條分限帳	一名小田原衆所領役帳 永祿二(高野山高室院本天明二年寫)〔守靜亭圖書記〕	—
北國紀行	釋堯惠 長享元 「手寫」	—
北勢古志	黒澤翁滿 二卷	—
北越遊歴記	岩井正猷 天保四	—
墓所一覽遺編	三浦實誠	—
三河國古蹟考	羽田塾敬雄 天保一〇 五卷	二
三河國吉田領中	附遠 風俗大概 中山美石 山崎美成手校	一
御嶽山紀行圖繪	竹村立義	—
一石山紀行圖繪		—
民部省圖帳	「手校」(昌平坂學問所本寫)	五

武佐訓説(近江)	垣守某 延享二 (池底叢書本寫)	—
武藏演露	大橋方長 「鳩巢文庫」	一〇
武藏國郡村記	「手校」〔宮本氏圖書記〕	二
武藏國多摩川記	相澤伴主	—
陸奥郡數考	伴信友 内藤廣前手寫	—
陸奥國准風土記	伊藤常足 三卷	—
陸奥日記	伊能頼則 天保一四	—
紅葉のかげ	會田安昌 明治一九	—
野總紀行	松岡行義	—
山崎莊山村將軍塚考	(紀伊國那賀郡) 稿本	—
山城國號考	長澤伴雄	—
山城略誌		—
山路の日なみ	千家尊澄 嘉永六	—
大和國高市郡	舊跡之事 元文三 (池底叢書本寫)	—
大和國廢郷考	齋藤美澄	—
山邊五十師原之考	(伊勢) 本居宣長 (江藤正澄本寫)	—
山吹日記	奈佐勝皋 天明六 三卷	—
湯あみの日次	(出雲國仁多郡三澤の湯) 千家尊澄 天保五	—
湯原日記	吉村某 安政三	—
夢路の日記	(江戸至京阪) 鈴木重嶺 (天保一三至同一四)	—
硫黄島記	文政一一	—
吉野舊事記	(吉水神社本寫)	—
吉野皇居考	井上頼國(自筆)	—
吉野志	三卷	三
陵纂	元祿一二	—
陵墓の考とも	津久井尙重 堤惟徳書 寛政七 井上頼文校	—
陵墓奉幣例	諸陵寮	—
類字名所輔翼抄	釋契沖 八卷	八
若狹舊事考	伴信友	—
若狹國志	稻庭正義 五卷	—
和氣縮	太亮軒 寶永六 「手校」〔寡聞齋藏書記〕	三
和名抄(國郡條)	「手寫」(立野良道本寫)	—



- 和名抄(郷里部)(卷六至卷九)(高山寺本影寫)
- 和名抄郡郷考 伴信友「手校」
- 和名類聚鈔郷名集覽 伴信友
- 和名類聚鈔國郡部集覽并考異 上田百樹
- 蘭笠能之都久 谷森善臣 安政四
- 越後舊蹟記
- 岡田宮遺蹟考證 黒山敏行
- 岡縣魚鳥池記(筑前) 青山敏文 寛延二
- 小倉院忠義親王、自天親王御陵圖 (中條良策本寫)
- 尾部御陵紀原 御巫清直「手寫」

九法制

- 襖鏡問 鈴木喜三二
- 秋元家堀川某に答ふる書 中原友俊
- 幄之圖
- 足利家職掌考 近藤守重 寛政七

- 東丸遺稿 羽倉春滿 三卷 (影寫) (羽倉信義本寫)
- 押字考 伊勢貞丈 安永三
- 安齋漫筆 伊勢貞丈
- 遊京雜記 松岡行義
- 有職見聞雜記 成島司直問松岡行義答 天保一二
- 有職雜記
- 逸令考(倉庫、醫疾) 稻葉通邦 内藤廣前、井上頼國  
手校「賢木園記」
- 以酌庵奏議 新井君美 (椿亭叢書本寫)
- 衣服便覽附存 栗原信充(自筆)
- 異本古量考 (池底叢書本寫)
- 異本式目 二卷 (新井君美本寫)
- 印章私記 藤井貞幹
- 印章備攷附印正附說(甘陽旭) 榊原玄輔 三卷
- 永德御讓位假名記
- 衣文愚童訓 壺井義知 狩谷望之手澤「青雲文庫」  
「華雲堂藏書」
- 延喜交替式 内藤廣前「手校」(石山寺本寫)

- 延喜儀式 藤井貞幹校 卷五 (道家大門本寫)
- 延喜式 藤原忠平等 五卷 (一條公爵本影寫)
- 延喜式結階法 (林崎文庫本寫)
- 延喜式喪服考 足代弘訓 文化七
- 延喜染鑑 屋代弘賢手寫「長鹽家藏」
- 應永大嘗會記 一條經嗣 應永二二
- 御直書類例 勢多章甫
- 大内義興問條數返答(名大内問答) 伊勢貞陸  
(松岡本寫)
- 大伴宿禰隨筆 尾崎積興
- 大伴積興口授 尾崎積興 文化八
- 大宮院得度記 文永九
- 御初學奉教書(江木の君にをし奉る書) 齋藤彦麿  
(自筆) 文化元 卷一
- 改元仗議公卿「手校」
- 改元年月抄「手澤」
- 改元基豐卿備忘 廣幡基豐 天保元
- 海東話國記抄釋(朝聘應接記) 新井君美  
(椿亭叢書本寫)

- 江家次第考 五卷
- 江家次第秘鈔一名江家次第聞書 尾崎積興
- 江次第聞書 一條兼良 速水房常手寫
- 康正二年造内裏段錢並國役引付
- 交替式 内藤廣前手澤「手校」(石山寺本寫)
- 講令備考 稻葉通邦等 一〇卷
- 講令備考一名令義解考證 河村秀根等 一七卷
- 嘉永年中行事 勢多章甫 二卷
- 嘉永年中行事考證 勢多章甫 二卷
- 革命革命令改元考 (池底叢書本寫)
- 下請符案 小槻時元 永正八至同一二 卷六
- 荷田下田令問答 下田師古問荷田東麿答 享保八
- 甲州法度次第 (池底叢書本寫)
- 神村胤相答書
- 韓使來聘儀注 新井君美 (椿亭叢書本寫)
- 勘例 二卷



宮殿並調度沿革 勢多章甫 明治二七

宮殿鋪設沿革 勢多章甫

新儀式附錄

徽章考 井上賴圀(自筆)

貴婦人稱謂一班 井上賴圀

格逸 搞保己一 三卷

京都將軍家式目一名建武式目追加

御遊抄 五卷 (柳原伯爵本寫)

金玉掌中抄 中原章任 村田春海手校

禁中故實 (池底叢書本寫)

禁中方名目鈔口傳 松岡辰方

禁祕抄 壺井義知注

禁祕抄講義按 松岡明義 二卷

禁祕抄注 壺井義知、伊勢貞丈等

禁祕御抄(校本) 順德天皇 三卷 (壺井義知本寫)

禁裏政要 後醍醐天皇

皇嗣例 圖書寮

皇嗣例 小中村清矩

光臺一覽 伊達某 五卷

皇朝五量考證總論

令前大升考 令大升考 慶雲斗考 延喜式升攷

皇位繼承例圖徵 圖書寮

貫考 一柳直陽 寬政一二

管見野水抄 滋野井公澄 四卷

寬正御讓位註文

關市令義解 源元寬校

關市令義解 神村正鄰校

寬政改正服忌令附壬生家記抄錄、五等親並服假

寬政二年御遷幸記 世古帶刀 寬政三 稻掛大平 手寫 [藤垣内印]

官等建言

冠服考(破御厨子第十六) 稿本

官位令講義

法 制

公廨公廨田問答 小川光亨問松岡明義答

公廨備考 小中村清矩 嘉永七

公式令講義 小中村清矩

公事根源內題年中行事 (尾張德川侯爵本影寫)

公事根源愚考 速水房常 十卷

校公事根源集釋 松下見林 元祿七 三卷

公事根源集釋補注 伴信友考訂補註 (圖書寮本寫)

整鞞問答 大江保敬問竹屋光棣答

茱萸袋考

公文翰林抄 足代弘訓手校 [度會範次] [寬居]

藏人式 (雙鈎殘欠) (影寫)

車(車輿卷)

外國公廨配當圖 伊勢貞丈

光格天皇諡號雜記

色目、召仰儀、仰詞文書等之類、臨時山陵幣帛以下儀、御拜座以下敷設儀、御拜座以下圖 山陵儀

群飲を禁する制 小中村清矩 文久三

群書輯要 一四卷

慶賀部類

稽古雜編(周尺簡、井田篇) 仁井田好古 (池底叢書本寫)

刑政總類(序、目錄) 片山辰世 文政六

繼續典憲 井上賴圀稿本

桂林遺芳鈔一名儒門繼塵 甘露寺和長

嗽日私記 四卷

建久圖田帳(薩摩)

玄猪考 屋代弘賢(自筆)

憲法句讀摘疑 仲野安雄

建武式目抄 釋眞惠 釋是圓 建武三

御猶子御養子事實考 井上賴圀(自筆)

後宮沿革略考 井上賴圀(自筆)

後宮略解 松岡行義 天保八

後宮略抄 井上賴圀(自筆)

五一



後宮位階明細表	白石千別(自筆)	一
后妃考	矢野玄道 明治一八 井上賴固加書	一
公武大體略記	速水房常手寫 [速水家藏] [房常]	一
恒例公事	交野時雍 上下二卷	二
恒例年中行事		一
御冠禮式解附圖譜	七卷 (乾泰次郎本寫)	二
國司國造考	大塚嘉樹 天明八	一
國司任限沿革考證	(林崎文庫本寫)	一
國寶價升考	古樂軒倭命 <small>金</small>	一
國母例	勢多章甫 明治二三	一
古今沿革考	柏崎具元 享保元	一
古今戶口考	伊能顯則 明治九	一
古今紬繹抄	(村田春海本寫)	一
古今位色考	松岡行義 文政<	一
御喪服沿革	勢多章甫	一
御產記部類題簽御產記	二卷 (秘本)	二
御養子御猶子ノ別	井上賴固(自筆)	一
御落飾御年例之事	「手抄」(楓山文庫本寫)	一
戶令俗解	下田幸太夫	一
戶令和解	三卷	一
婚禮式	松岡明義	一
宰夫祕事雜輯	多賀谷範之(自筆) 天明七	一
葬祭式義例	栗田寬 青木幸躬訂	一
喪葬私論	松岡行義 弘化三	一
葬禮式私考	「手寫」(押小路本寫)	一
さし炭考	松岡辰方 文化四	一
沙汰未練書	平時宗 「手校」(尾崎雅嘉本寫)	一
參議公辨	小山田與清	一
三國僧位要記略	釋宗親 萬治二	一
三代制符(建久、寬喜、文永)	(勢多本寫)	一
職制律	(尾崎積興本寫)	一
式目問書	(續群書類從本寫)	一

御產記部類	(伏見宮家本寫)	一
故實錄		一
御入内一會	(新皇嘉門院) 文化一四 三卷	一
御入内記	(東福門院、承秋門院、新清和院) 三卷	一
御生母例	附後宮名稱一覽表 小中村清矩 井上賴固補	一
戶籍考	栗田寬 文久三	一
御即位冠服考	井上賴固	一
御即位之記		一
御代々立太子年號抄	「手寫、手校」	一
御代官役所定書		一
御當家宣旨宣命記		一
御服喪例	勢多章甫	一
御服喪例考證	勢多章甫	一
後水尾院御落飾頭右大辨俊廣朝臣記	大江俊廣 [滋野井文庫]	一
御養子御猶子之事	小河一敏(自筆) 明治九	一
式目鈔	二卷	一
職員令略解		一
滋草遺露	滋野井公麗 松岡行義編	一
寺社領守護使不入考	豐藤熱之 天保三	一
七箇重事鈔		一
四等官稱名義考	小中村清矩 文久二	一
四度幣部類記	(治承四至建久四)	一
祠部職掌類聚	(上野國三河國郷土、伊勢國町人、相摸國百姓ノ御朱印寫)	一
拾塵抄錄	松岡明義 二卷	一
島津近江久純覺書	島津久純 明治二	一
淨衣寸法之事		一
將軍宣下之儀不同記		一
將軍德川家禮典錄	並附錄 松平慶永等 一三卷 一八 附錄二六卷	一
常照愚草	伊勢貞陸 (續群書類從本寫)	一
裝束沿革	(喪服、從者、車馬) 勢多章甫筆寫	二
裝束沿革稿	勢多章甫(自筆) 明治二〇	二



上代之風俗 含翠庵主人 文久元	一	新雲四節夜鶴抄 唐橋在家 二卷	二
讓位部類 (長和四至大永六) 二卷	一	新加制式	一
爵位考 (冠位、冠服) 三輪義方 一一卷	一	宸翰裝束抄 一名三條裝束抄 符谷望之手澤 〔青裳文庫〕〔青裳堂藏書〕	一
授幼爵位考 三卷 (池底叢書本寫)	一	新儀式 卷四 (壬生官務本寫)	一
壽算稱謂 大塚嘉樹 天明元	一	神祇伯家葬送圖	一
主上御諱減畫 (故三品公御勘物) 竹屋光棧	一	神祇令愚注草稿 壺井義知	一
准槐宣下考 內藤忠明 文政八	一	新朔平門院御凶事書留 弘化四	一
順齋問答 伊丹康勝	一	神璽三辨 伴信友 弘化三	一
承久官符 (承久三)	一	神璽說 久保季茲 文久二	一
松三問答 松岡行義問三上景文答	一	神璽の說 矢野玄道 井上毅手澤 明治一七	一
松竹問答 竹屋右兵衛問松岡辰方答 五卷	一	新釋令義解 園田守良 三四卷 (園田本寫)	一
諸記類要抄 (中右記作法部)	一	親族譜 岡本保孝 三卷	一
職原抄解 (土岐氏傳) 一七卷	三	新定内外官交替式 一名延喜交替式 下卷 (前田侯爵本寫)	一
職原抄述解 一一卷	一	新野問答 新井君美問野宮定基答 二卷	一
書札禮 松下見林手澤 〔松下見林〕	一	神領政事沿革附庄園御厨の事 足代弘訓	一
敍品宣下記 (寶永五至天保一三)	一	親王官位考 井上賴圀	一

親王諸王考 松岡辰方 文化六	一	踐祚類集	一
親王 <sup>男</sup> 宣下記 (文龜四至寶永四)	一	宣命 (押小路本寫)	一
西宮記 源高明 榎並隆璉手校	二八	宣命考 矢野玄道 明治一七	一
姓氏考 荷田在滿	一	賤民俚考 菅沼權兵衛 享和元	一
正史所見國司考 平高起	三	僧綱伊呂波類聚 〔温故堂文庫〕〔和學講談所〕	一
姓序考 (破御厨子第十六) (原本)	一	僧綱職令 (松岡本寫)	一
姓序略考 井上賴圀	一	僧官沿革考稿 井上賴圀 (自筆)	一
制服古證 蟻川式胤 明治三	一	僧官相當次第 油小路隆貞	一
誓約集 井上賴圀	一	僧官僧服 (池底叢書本寫)	一
聖諭	一	僧官僧服勘文 釋實觀 (池底叢書本寫)	一
詔勅考 矢野玄道 明治一七	一	會昌道問松岡辰方答 松岡辰方	一
宣下案 (承應四至寬文四) (壬生官務本寫)	一	僧侶官位志 大塚嘉樹 天明三 (阿波國文庫本寫)	一
宣詞要領 唐橋在家	一	續御産部類記 松岡行義 三卷	一
撰集祕記 五卷 (一、四、五、六、七)	二	續三宮傳 (中和門院至新待賢門院)	一
撰集祕記 (臨時)	一	賊盜律 長瀬眞幸手澤	一
撰敍令計考結階私考圖 菅沼權兵衛	一	素服當色勘文 谷口胤祿	一



- 大行天皇御神號撰進(光格天皇、仁孝天皇)
- 太子十七箇條聖德太子(摸寫)
- 大滋職談尾崎積興問滋野井公麗談 二卷
- 大祀部類一名大嘗會部類 滋野井公麗 明和元  
(壬生官務本寫)
- 大滋問答尾崎積興問滋野井公麗答
- 大帝國論竹尾正胤著 久保季茲漢譯
- 大刀契考伴信友 弘化三
- 內裏儀式疑義辨山根輝實 嘉永六
- 內裏式三卷 (壬生官務本寫)
- 內裡式鈔松岡明義
- 內裏式圖考二卷
- 桃花藥葉抄中八條之辨田安宗武 紀宗直 寶曆九  
(本居健亭本寫)
- 堂上服假令
- 道照愚草伊勢貞久 (續群書類從本寫)
- 太宰府徵伊藤常足 三卷
- 太政官印事議定(殿村エツ本寫)  
新式
- 太政官應圖考證紀宗直
- 谷口平胤祿類聚(凶服) 谷口胤祿
- 答問書(建武二年十一月廿二日落飾の事)
- 治安策二卷及別卷
- 柱下類林(第三儲君部) (伏見宮家本寫)
- 中宮職皇后宮職谷森善臣
- 中外抄(保延三至久安四) 藤原忠實
- 中興鑑言打聞三宅辨明
- 中古の世に病人を弃る弊風有之事并施藥院
- 悲田院の事小中村清矩 文久二
- 筑紫官家考青柳種麿 寛政八
- 竹問松答竹尾次春問松岡行義答 文政七 三卷
- 地下官人次第
- 父ノ功勞ニ依リテ其人口ヲ子ニ傳ヘラレシ
- 事附蔭子孫ノ事井上頼樹(自筆)
- 地方官職志考齋藤美澄 明治一九

地方三役の事

除目大成抄一名大間成文抄 五卷 (花山院本寫)

除目事

- 貞享大嘗會記園基勝
- 貞觀儀式狩谷望之校 一〇卷 [掖齋] [伴氏家印]  
[福原書章]
- 壺井往復壺井義知 享保一〇 三卷
- 追儼圖考附圖 壺井義知 天明四 [青雲堂藏書]
- 廷尉裝束抄勢多章甫(自筆)
- 朝儀部類年中行事抄水野忠邦 二卷
- 嘲政談作者自筆 享和三
- 朝鮮國信書の式の事新井君美
- 調度雜攷
- 朝野群載卷一二三善爲康
- 條令四卷 (新井君美本寫)
- 田制篇元老院稿本 横山由清手澤 九卷附錄一卷
- 天台家裝束記釋闍海 享保八 (延享乙卯賀茂眞  
淵自筆識語)

殿中規式享祿三

- 田法步尺精辨之内拔書新田目道茂
- 田令圖解抄色川三中
- 藤伊來翰藤井總博 松岡辰方 四卷
- 徳川地方行政一斑
- 讀式翼日野資愛 四卷
- 讀式翼選敍考日野資愛 [中院文庫]
- 讀令義解私考卷六、七(儀制令至公式令)
- 度制考引用書類
- 三器攻略附錄權度量考 三器考驗略 律尺考驗略
- 續文獻通考諸代尺度 度量衡
- 富籤の沿革
- 伴部品部之事小中村清矩 文久二
- 度量考餘野口直方
- 度量權衡食料之考附皇朝五量考證



- 内印外印事 矢野玄道 明治一七
- 内外位考 廣橋光成 天保七
- 名越舍翁葬式次第
- 難宗隨筆 難波宗建
- 日本賦稅
- 女御夙子准后宣下一會
- 女房私記
- 女房の官品の事 二條良基 永徳二
- 女官衣服沿革 勢多章甫
- 女官志 平田職忠 三卷
- 女官僧綱考 伊勢貞丈 享保一九
- 女官問答 井上頼國(自筆)
- 女官名目
- 年賀部類
- 年給圖解 伊勢貞丈圖、大塚嘉樹補
- 年中行事 藤井貞幹手寫 [藤井貞幹]

- 年中行事抄(朝儀部類ノ内) 水野忠邦 二卷
- 年中行事大概(朝儀部類ノ内) 一條兼良
- 寶永七年御即位記 高辻總長
- 羽倉齋往復記 一名羽倉大人消息 荷田春滿
- 半蔀車
- 頽代錢誌 栗原信充(自筆) 二卷
- 樋口殿之記 樋口宗武 三卷 [阿波國文庫]
- 畢用錄 唐橋在家 二卷
- 日次紀事追加 庸春 三卷 (毘沙門堂本寫)
- 百官 北畠親房 (竹屋光昭本寫)
- 百官略 (池底叢書本寫)
- 百寮訓要抄別注 大塚嘉樹 天明四 一一卷
- 廣澤參議葬祭記 太政官中制度局 明治四  
(江藤正澄本寫)
- 儂樂新鞋鞞袍考 上司某 享和元 (十司本寫)
- 服假掌中抄 勢多章甫 安政五
- 服忌令集成 橋村正兌 文政一二 三卷

- 服飾管見 附別錄 田安宗武 安永四  
一三卷(四卷附錄九卷)
- 服色次第抄
- 服飾漫語抄書
- 服制沿革考 屋代弘賢 寛政一〇 (池底叢書本寫)
- 武家儀式
- 封戸職田考 壺井義知
- 封戸職田年給二合並三合給 速水房常(自筆) [速水家藏] [速水房常]
- 伏見院御落飾記 正和二年 岡本家平
- 富常問答 一名湯土問答 土肥經平問湯淺禎答  
二卷(片玉後集六五、六六)
- 武政軌範裏書 [手寫] (新井君美本寫)
- 筆の靈 田沼善一 前編一一卷、後編一三卷、畫圖二卷 八
- 船橋經賢殿覺書 船橋經賢
- 船法度
- 捕亡令裏書
- 賦引付並德政方 天文一五至同一九
- 文保服紀令愚注勘考 檜垣章尙 (英人王堂本寫)

- 布衣群色便蒙抄 唐橋在家
- 法曹至要抄 坂上明兼 三卷 (内閣文庫本寫)
- 法曹至要抄解
- 法曹至要抄解
- 法曹類林 卷二〇〇、二二六
- 校本朝官制沿革圖考 伊藤長胤 平澤元愷、高岡秀校補 六卷
- 正史本朝諸國司考 平高起 三卷
- 本朝度制略考 荷田在滿 寛保元
- 本朝度量權衡考 附本朝度量權衡攷附錄卷上下  
狩谷望之 五卷台本
- 松乃美榮 堀秀成
- 萬治改元事 卜部兼長 (壬生官務本寫)
- 政所方書
- 政所方引付
- 政所壁書
- 政所賦銘引付 一名蛭川親元日記 文明五至同一七
- 壬生官務備忘



名目抄附綴名目抄 洞院實照 三條西實隆補

名目抄註解 二卷

名目鈔注釋 速水房常(自筆稿本)

名目抄細釋 荷田在滿

民政要論 鈴木雅之

室町殿成敗並寺社御教書

室町殿屋形私考 伊勢貞春 寛政元

明正院御賀記

明治大嘗之記

免斗代名義抄 新田日道茂

毛松問答 毛利少輔入道問松岡行義答 文政一一

物具裝束抄 狩谷望之手校

師元年中行事(朝儀部類ノ内) 中原師元

門刑條例名刑律國字解

文章博士紀傳博士考 小中村清矩 文久元

養實早見 大瀧政明

野答新問 新井君美問野宮定基答 正徳二

流内流外被官被接之圖 大塚嘉樹 天明二

律逸 塙保己二編 八卷(内閣文庫本寫)

律裏書 [温故堂文庫]

律義解 園田守良 一〇卷

律說殘編 [手校] (池底叢書本寫)

律疏殘編名例、賊盜 (清原本影寫)

立坊部類

立坊立后記并併合記 天和二、三

諒陰私考 平田豐愛

亮陰部類草 小槻以寧

令裏書捕亡、獄、雜令

令解會說零本 選敍、繼嗣、考課、祿令 平澤元愷

令解或問

令講義 選敍、考課、戶、田令 六卷

古易館 令義解講錄 [一名令釋 新井祐登男寫光 秘藏] 上中下三卷(序目至第十卷)

令義解聞書 [和學譚談呀]

令義解聞書

令義解疏證 職員、選敍令 小中村清矩 五卷

令義解筆記 篠崎維章校 三卷

令義解聞注 三卷

領客使教諭 新井君美 (椿亭叢書本寫)

令外官職志 園田守良

校令二辨 荷田在滿 古川躬行、小田清雄校

令式服色考 松岡辰方 文化二

令式服色便覽 松岡辰方 文化三

令集解 惟宗直本(以金澤文庫本神谷克禎影寫) (山田清安舊藏)

令集解缺本目錄 村田春海手寫

令釋 [一名令義解講錄 新井祐登男寫光 (序目至雜令) 一〇卷] [楊梅公府圖書]

令書聞書 一條兼良 同冬、長抄 (櫛笥本寫)

令抄 附法曹至要抄解 一條兼良 三卷(序目至神祇令衣服令) [源通富章] [中院文庫]

異令鈔 外題令義解抄 一條兼良 二卷(神祇令至倉庫本) (東坊城本寫)

法 制

令鈔附法曹至要抄解 一條兼良 二卷(序目至衣服令)

令鈔 [一名令義解私考 壺井義知(序至八省)]

令條女官服色考 松岡辰方 文化三

臨時公事 平松時雍 元文元至文政一〇 二卷

類聚儀式 松岡行義 三一卷(正一七卷續一四卷)

類聚儀式 附錄喪葬喪服 松岡行義 二卷

類聚三代格 内藤廣前手澤 八卷(一、三、四、五、七、八、一一、一五) [賢木園文庫]

類聚三代格 前田夏蔭手校 七卷(一、二、三、五、七、八、一一)

類聚三代格文字異同略考 栗田寛 明治一八

類聚符宣抄 [一名左丞抄] 卷四

類例史 三卷 (道家大門本及内閣文庫本寫)

類例史 卷下 勢多章甫補

禮本問答 松岡行義 [手寫]

歷代外印鑄造私考 (標有梅ノ下) 藤原貞幹 寛政六

位記口宣考 松岡辰方

位記口宣注 伊勢貞丈 大塚嘉樹

六一



- 位署式私考 壺井義知 狩谷望之手校〔青雲堂藏書〕 一
  - 位署式補義 大塚嘉樹 寛政二 狩谷望之手澤 一
  - 位署式補義或問 大塚嘉樹 狩谷望之手寫 一
  - 位署徵古 伊勢貞春 〔手寫〕 一
  - 位宣問答 尾代弘賢〔白筆〕 〔不忍文庫〕 一
  - 越中國官倉納穀交替記 〔摸寫〕 一
  - 屠兒考 伊藤常足 天保三 一
  - 圓成寺殿類聚抄 〔壬生官務本寫〕 一
  - 尾崎積興口授 尾崎積興 文化八 〔江藤正澄本寫〕 一
  - 小忌以下著用圖 〔江藤正澄本寫〕 一
  - 遠忌考 山崎美成〔白筆〕 文政五 〔好問堂〕 一
- 一〇 博物**
- 羽譜 植木宣胤〔白筆〕 天明八 大田覃自筆序並書入 七
  - 飼籠鳥 佐藤成祐 文化五 二〇卷 二
  - 啓蒙禽譜 一
  - 相馬旋毛集 喜多野仲信 貞享年間 三卷 一
  - さきくさの考 中島廣足 一
  - 查苞 和名考 原慎 三卷〔目錄及本文二卷〕 一
  - 志提の田長考 賀茂真淵 〔江藤正澄本寫〕 一
  - 鹽梅梅干石蜘蛛屋考 〔池底叢書本寫〕 一
  - 食物知新 神田玄泉 享保一一 元文五年津田正直寫 六
  - 新修本草 英國公臣勳等 六卷〔四、五、二、一五、一七、一九〕 〔尾張徳川侯爵本寫〕 一
  - 石炭説 島澄 一
  - 立花の櫓考 附録青木考 源國雄 一
  - 淡鹹魚譜 藤原直武 二卷 〔堀氏文庫〕 一
  - 箆譜 藤原直武 〔堀氏文庫〕 一
  - 竹譜 藤原直武 〔堀氏文庫〕 一
  - 天狗爪石奇談 木内重曉〔白筆〕 寛政八 〔鈴木半兵衛一保藏〕 一
  - 東泉本草 清水順藏訂 井上登羅子手澤 一
  - 增南海包譜 上辻邦彦 元治元 四卷〔本文三卷圖一訂〕 〔新宮文庫〕 四
  - 波士加美追考 野口直通 〔阿波國文庫本寫〕 一

- 物筌 分部惟信〔白筆〕 元文五 一
  - 補增本草歌括 胡掌教 正統四 〔古寫〕 一
  - 本草經藥和名考 森立之 萬延元 二卷 一
  - 本草古義 岡村尙謙 文政年間 森立之識語 二卷 二
  - 本草和名 二卷 〔森立之本影寫〕 一
  - 松虫鈴虫 屋代弘賢〔白筆〕 一
  - 萬葉動植物考 伊藤多羅 三卷 一
  - 康頼本草校註 原慎〔白筆〕 天保二 六
  - 龍骨之辨 烏礫道人 寛政六 一
  - 和産草木姿 三浦義片〔白筆〕 五卷〔本文二卷圖三卷〕 〔三浦義片藏書之印〕 〔三浦氏〕 五
  - 〔榮齋之印〕
- 一一 天文**
- 應永二年假名曆 〔阿波國文庫本寫〕 一
  - 康正元年具注曆 一
  - 康正二年假字曆 一
  - 龜卜鈔 一
  - 龜卜之次第 一
  - 古曆本序 小山田與清 一
  - 神易辨與祕 新田目道茂 一
  - 新撰龜相記 卜部遠繼 一
  - 新撰龜相記本辞考證 山岸氏隆 二卷 明治三四 一
  - 神傳鹿卜祕事記 〔對馬〕齋藤延種〔白筆〕 元祿一〇 一
  - 神武不殺篇 源輝星 三卷 一
  - 眞曆 角田忠守 明治二七 一
  - 神曆考 細井貞雄 一
  - 彗星私辨 荷田在滿 寛保四 一
  - 先代舊事本紀曆考 安藤有益 元祿一〇 一
  - 太陽曆の話 寺尾壽 明治二一 一
  - 象易正義 平田篤胤 二
  - 天地開闢推量考辨 松宮觀山〔白筆〕 寶曆一〇 一
  - 天保改曆之記 清岡長熙 天保一三 一



日本長曆 保井春海 二卷

曆家考 山官子

曆林問答集 賀茂在方

一一 醫學

醫道沿革考 權田直助 井上賴國 明治三

醫道百首解 權田直助述 同年助注「手寫」

醫之辨 井上賴正(自筆)

依夜民講義 權田直助

家傳心手脈治秘決 丹波閔任 元龜三 (續群書類  
從本寫)

退年要抄 (續群書類從本寫)

鬼法 明德二 (富小路範實筆摸寫)

切紙 曲直瀨道三(自筆) 元龜二

くすしの一言 權田直助 安政四

黃帝內經明堂 卷一 (永仁本影寫)

皇朝醫靈方

調劑式

傳死病二十五方 (續群書類從本寫)

茅山查苞 一名茅山本朝醫傳 原慎(自筆) 天保二  
[新宮城書藏]

備急方 權田直助 安政六「手寫」

麻疹考 屋代弘賢

妙藥集法 島左近 中島小藤太

養生或問 權田直助(自筆) 慶應三

藥品識名 權田直助 井上賴國

用藥要語 丹壽氏雅 建曆元

兩目祕傳書 眞間島景氏 (續群書類從本寫)

瑠璃壺 半井友竹

一三 兵事

海防備論 藤森恭助 嘉永七

海防論 一名内密問答書 鶴峰戊申

甲賀流傳書

醫學 兵事

古醫道治則案例 原保固 慶應元

四季妙藥集 井上賴正手澤

傷寒論綱領解 權田直助(自筆)

神國醫道復古之引 衣關伊都岐 文化一〇  
(不忍文庫本寫)

神仙至要方 平田篤胤

神代遺方

神道奇靈傳 太田長丸 三卷

神農本經解故 鈴木文 阿部喜任手校 [阿部喜  
任][進翁繪劑局記]

神遺衆古秘法方錄 丹波康賴 丹波忠守改正  
三卷 (錦小路本寫)

神遺方考注 附藥名附錄重複 關政方法  
五卷(卷四缺)

少彦名命遺法 生駒元碩 天明二

大同醫式 附每朝拜醫藥祖神祝詞

大同類聚方 安倍眞貞 出雲廣貞 大同三 三卷  
(眞田本寫)

大同類聚方偽本辨 松浦道輔 文政七

大同類聚方別記 卷上

仲量十二法考 權田直助「手寫」

鞍鐙之書 原田通弘 安政五 (江藤正澄本寫)

鞍法寸之事 大坪道禪 (江藤正澄本寫)

競馬記 (六角子爵本寫)

競馬會記略並裝束圖 (六角子爵本寫)

鈴林卮言 平山潛 七卷(卷四三至四七、外二卷)

古今戰 大島忠泰 (摸寫)

五事三重祕授口義(山鹿流傳書)

五武器談 伊勢貞丈 明和九 二卷

采幣五段之傳 窪田清音

三音傳授 窪田清音 [好古堂藏書記]

三議一統 一名當家弓法集 坤

諸鞍日記考註 伊勢貞丈 狩谷望之手校  
[青雲文庫][椽齋]

清英戰記 長山貫 嘉永二

大星傳祕授口占 山本晴幸

鞞考 久志本常夏 寬政四 (池底叢書本寫)

鞞鏡 春田永平 寬政九 (池底叢書本寫)



鞞記 新井君美 伊勢貞丈傍注 (池底叢書本寫)

平義器談 伊勢貞丈 明和八

平士籠所用考 阪田諸近 (江藤正澄本寫)

兵法祕術卷一名源家相承一卷書

武具要說 齋藤縣鷹手寫 [只誠藏] [江戸齋藤氏]

武道心鑑(高坂彈正) 卜傳百首(塚原卜傳)

本朝古今戰略考 磯谷信世 山鹿素行補 延寶二  
一三卷

名劔膝丸 釋實圓 元祿一二 (池底叢書本寫)

矢羽文考 伊勢貞丈 安永五 (江藤正澄本寫)

流鏑馬考 山崎美成(自筆) 文政五 [好問堂]

練兵小筌 窪田清音

### 一四 藝術

畫家系圖 (新井君美本摸寫)

瓦器濫觴 小山祐有 (池底叢書本寫)

書工便覽 五卷 (新井君美本寫)

定家卿筆道

觀田樂記 宮地仲枝 文化元 (池底叢書本寫)

傳書記(料理法)

秘庭之石婦見 釋清順 (池底叢書本寫)

表補繪式 (池底叢書本寫)

本朝畫師 住吉具慶 (新井君美本摸寫)

本朝畫圖品目 源嵩年 (江藤正澄本寫)

室町殿屋形私考 伊勢貞春 寛政元

和漢扁額譚 細川知慎 [杉園藏]

### 一五 産業

染色史略 榊原芳野 明治一三

櫨樹栽培之履歷概略一名禰殿丹波守傳

武刃萬作毛仕付并出來時分之覺 (池底叢書本寫)

三河國蠶糸考 羽田野榮木 明治一三

參河國養蠶由來記 羽田野榮木 明治三

擊球談 觀毬齋好騎 文政五 (池底叢書本寫)

後樂園記 寶井其角 元祿一五

後樂園記 坂昌成 二卷 (池底叢書本寫)

古硯集

古新奇談第四編抄

雜圖 二卷(卷三、七)

雜篋(古印) 田澤仲舒(自筆) 上下二卷

淨瑠璃節傳 (稿本寫)

書札祕事

心底抄 世尊寺經朝

大火防風風書 池原新左衛門 文政二三

代氏傳家抄 屋代弘賢

大掾築水戶城考 小宮山昌秀 (靜幽堂叢書本寫)

賜朝鮮屏風注文 屋代弘賢 文化八 (稿本寫)

竹の山彦 一賀(井上賴國)

谷文晁好古紀行

### 一六 總記

會田翁抄錄 會田安昌(自筆)

海人のくくつ 中島廣足 嘉永二

在滿雜筆 荷田在滿

青木隨筆

又樂庵示蒙語 栗原信充(自筆) 三卷

醫家古籍考 中川修亭 文化一二 伴直方手澤

生田氏著書 生田國秀 文政七至一一

大學階梯外篇卷二、三、四 日文傳評論 疑字篇

逸記「手抄」

伊吉連博德書

神祇官之記

本朝國史目錄

二中歷抄

綾小路俊量記抄

阿波國太田文

阿波國文書(影寫)

日本紀私記

新撰龜相記

本朝法家文書目錄

雜誦

徵古雜抄抄出

美作神名記二種

三宅記



勘錄興福寺末派寺社疏記 法隆寺緣起資財帳  
柱下類林抄 法曹類林卷百九十二抄

一 笠隨筆抄書 東甯道人

五 緒翁神書目錄(岡田正利) (靜幽堂叢書本寫)

般鑒論 古賀煜 「手校」

燕石十種 岩本左七編 初輯六卷

一、高尾考(原盛和) 二、遊女考(相場長昭)

三、猿樂傳記 四、江戸真砂六十帖

五、我衣 六、賤のむた巻

翁草 神澤貞幹 (池底叢書本寫)

於寶志之禰 稿本 前田夏陸手澤

御室和書目錄(仁和寺) 篠崎維章 元文二 二卷

好問堂儲藏書目(山崎美成) (靜幽堂叢書本寫)

家記書目備考 伴直方 [杉園藏]

風のしがらみ 土肥經平 三卷

荷田在滿翁著書

荷田家三代文章 三卷

神代和歌釋(荷田春滿) 姓氏考(荷田在滿)  
漫筆(荷田御風)

堅室著書一覽(岡部東平) 小池言足等集 二卷

堅室丁未雜錄 岡部東平

堅室日錄丑集 岡部東平 四卷

夏北放言 陶重高(自筆) 文政六 一〇卷(卷七欠)

神依板 足代弘訓述 河本忠光編 [雙鶴文庫]

酣中清話 小島知足 二卷

雉岡隨筆 五十嵐篤好 安政五 二卷

京都府及德島奈良縣下探訪目錄 井上頼國

記錄異名類聚 佐山久米丸標記

國書分類記錄目錄捷覽 三卷

記錄解題 戸田氏徳 五八卷

愚考草稿 松岡調

くさかこ 加藤昶(雀庵)(自筆)

皇洋答問書 フルベツキ、平井健隨問答 明治三

活版經籍考拔萃 吉田篁墩

官府書目(紅葉山御藏) 六卷

群書一覽別錄 辻經定 元文三 九卷

群書奇事 成島鳴鳳

經籍答問 松澤老泉 二卷

建仁寺藏書目錄抄

東山群玉林藏書目錄(七三番至一一三番)

國學並詠歌稽古之次第書 飯田年平 萬延元  
(江藤正澄本寫)

國學由來 飯田年平 萬延元 (江藤正澄本寫)

國史姓名抄 細田多助

古今要覽稿(龍魚、草木) 屋代弘賢 平田篤胤手澤

古今沿革考 柏崎具元 享保元

古今著聞集問答

古今雜談思出雙昏 東隨舎(自筆)

元治御書籍目錄 來歷志六卷始末記合七卷  
增補 近藤守重

御書物廿部考 多紀廣壽院

總記

近衛家書籍目錄 勢多章甫(自筆)

古本拾芥抄採要 洞院公賢 栗田寛探要 [杉園藏]

駒谷芻言 梅岡(自筆)

碎金玉爭 也足軒通勝卿相傳名目 二卷 「手校」  
(平瀨龜之輔本寫)

想山著聞集 二卷(卷二〇、二二)

草廬雜談 青木教書 元文三 正續共二卷 [長井之章]  
[耕田樓藏書記] [不羈齋圖書記]

佐賀野の草 樸亭功垂(自筆) 嘉永三

作者分書目 五卷

佐久良布 矢野玄道 四卷(七、一四、一五、二二)

泊泊舍藏書目錄 清水濱臣(自筆)

篠舍漫筆 西田直養

篠舍漫錄 (池底叢書本寫)

雜々腐説 仲野安雄 二卷

雜簾 「手抄」「手寫」

前田本古事記表

日本紀類標抄

とある例 久邇宮山階宮系譜中改正ノ件

三島本神武紀考異  
萬葉集中アメノ何

六九



神習舍玉籠目錄

- 阿蘇家々々系  
後光明院天皇後西院天皇立太子ノ事  
神武天皇紀元前對照
- 東寺王代記の奥書  
吏部王記抄  
吉田白川建白
- 文祿清談抄  
三寶院日記抄  
特選神名帳抄
- 寬文天明神社觸書  
日本紀儲君太子妃ノ事  
寄帳抄
- 三河國碧海郡柿崎村田畑名寄帳抄  
開見隨筆抄
- 神依板抄  
東國輿地勝覽抄
- 三國史記抄  
寬政重修諸家譜抄
- 大外記師郷記抄  
中原康富記抄  
吉水神社所藏文書
- 公卿刺使雜例抄  
勅賜本園寺年譜抄
- 吉野宮所藏文書  
醍醐三寶院所藏記錄文書抄
- 兼胤記抄  
御番所日記之記抄  
後二條關白記抄
- 二條殿日記抄  
後深心院關白記抄  
實躬卿記抄
- 御堂關白記抄  
元長卿記抄  
公卿補任抄
- 人車記抄  
平時信記抄  
親長卿記抄
- 打聞記抄  
塵芥記抄  
代始和抄抄
- 押小路師替記抄  
基量卿記抄  
有栖川宮日記抄
- 桂宮系譜抄  
一、建内記抄  
妙法院日記抄  
太政官符寫
- 時慶卿記抄  
圖書寮所藏古日本紀目錄  
劍璽左右之事
- 桂宮事

- 兼胤卿記及八槐御記抄  
兼敦朝臣記抄  
百濟譜雜徵
- 一、中院一品記抄  
三寶院日記抄  
六孫王權現壺井神位(季連宿禰記抄出)
- 野信公記抄  
御堂攝政記抄  
中右記抄
- 後愚昧記抄  
砂巖抄  
資勝卿記抄
- 白川顯廣王記抄  
荒曆抄  
宇槐記抄
- 大記抄  
御產日記抄  
殿曆抄
- 新抄抄  
兵範記抄  
實隆公記抄
- 時慶卿記抄  
御湯殿上日記抄  
寒巖義尹傳
- 一、雜草三件  
日本紀疑(紹述先生文集抄)
- 大行天皇御神號  
東寺文書抄  
宇多天皇崩御  
桂宮御日記抄
- 三輪系圖抄  
堀川院升霞記抄  
舟木系圖抄  
明達律師傳抄
- 後成恩寺關白諒闇記抄  
末のいとのみ抄  
浪合記問答
- 高田宮疑問  
雜稿朱鳥大化ノ事(賴圖)  
塔寺八幡宮長帳抄
- 山岡系圖抄  
鳩巢小談抄  
追尊雜稿(賴圖)  
獻議二策(矢野玄道)
- 園太曆抄  
長興宿禰記抄  
靈會日鑑抄  
磯城探湯序(賴圖)

文官敬禮式抄

- 一、片玉集抄  
恒武帝陵(日本抄)  
大夫尉親清記抄
- 一、大判事明世記抄  
赤坂假皇居内神殿圖
- 一、陵墓の事  
氣比宮社傳舊記(明文抄)  
柳原光愛答抄
- 安徳天皇舊址二則  
安永御即位散狀抄
- 一、法成寺道長記抄  
城山神社記抄  
曼殊院注進抄
- 林崎文庫本九種記錄抄  
吉備津彦明神緣起抄  
東大相國二寺注進抄
- 山丞記抄  
東大相國二寺注進抄  
東大相國二寺注進抄
- 東大相國二寺注進抄  
蟻川親元日記抄  
砂玉和歌集抄
- 吉事五種抄  
正事記抄  
大智萬福兩寺注進抄
- 覺快親王得度記抄  
邦福寺注進抄  
南朝類六種抄
- 十河澁川尼子系圖  
紀貫之碑  
后妃略譜凡例  
土佐國府紀氏舊跡
- 大嘗會部類抄  
親基日記抄  
御讓位部類抄  
興福寺緣起抄
- 元亨釋書抄  
後宮說(白石千別手寫)  
中右記抄
- 一、權記抄  
御禮服の事  
花園院宸記抄
- 權記抄  
御即位の事  
虫記抄
- 愚管記抄  
親王元服の事  
昇霞記抄

總記

禁裏仙洞記抄

- 天朝御窮曆異 同一覽  
准后新殿記抄
- 嘉曆三年四年具注曆抄  
職員令師英章弘訓抄  
細川殿御代々次第
- 御當家御代々次第  
宮崎古墳  
諏訪大祝系圖抄
- 一、葛原神社々殿創建願  
氣吹舍翁例祭祝詞  
井田松平兩氏復歷  
井上賴國著書開題
- 一、神代宮所略  
三長記目錄抄  
杉崎神社記  
寶曆四年田畑名寄帳抄
- 禮儀類典拾遺抄  
山禮記抄
- 玉英記抄  
日本書紀傳抄  
二史部類抄抄
- 片玉集抄  
和歌私說抄
- 金澤文庫本續日本紀凡例  
令索引皇親(賴圖)  
滿濟准后記抄
- 異本續日本後紀奥書(御巫清直)  
兼宣公記抄  
大乘院寺社雜事記抄
- 園太曆目錄抄  
南朝雜錄  
時衆過去帳抄
- 立野良道本和名抄ノ押抄  
池底叢書律殘篇以下十六種抄
- 公卿家傳(北畠久我)抄  
阿蘇系圖抄  
攝津親秀讓狀抄
- 六波羅御下知抄  
野宮定功記抄  
竈門神社記序(賴圖)
- 一、野宮定功記抄  
類聚名物考抄  
廣義門院御產記抄
- 一、右少辨宣正記抄  
烏丸光榮卿記抄  
烏丸光榮卿記抄  
今上御譜



- 伏見宮閑院宮譜
- 前田本日本紀攷異
- 勸修寺三代記抄
- 尚房卿記抄
- 中内記抄
- 建内記抄
- 諸家系圖纂抄(坂上、大藏、秋月、大内、丹波)
- 前田本古事記抄
- 前田本舊事紀考異(賴留)
- 劔璽之事
- 勸修寺長吏系傳略抄
- 荒曆抄
- 宮方御相續與武家異事
- 季連宿禰記抄
- 一、元豐類纂第三十一抄
- 宣和奉使高麗圖經序卷一、二抄
- 宗史抄
- 基量卿記抄
- 一、祈年祭
- 香椎宮懇願書(岡部光澄)
- 魚鳥池保存會趣旨并考證(備掛連)
- 二、浮岳記
- 前波清鏡の著書の序
- 祓講案(以上三部頼留)
- 教科意見
- 新豐折臂翁
- 冷泉系圖抄
- 小右記抄
- 皇太子墓
- 基量卿記抄
- 長慶天皇譜徵
- 吉備津彦命墓
- 後中内記抄
- 前田本神代紀奥書
- 妙法院門跡傳抄
- 書紀見要抄
- 吉備津彦命社記拔書
- 諸家上申
- 東國通鑑抄
- 神社祭式
- 渡邊重兄に贈る文
- 立官建議
- 反鼻并圖

御國の礎

- 一、婚禮調査目錄
- 積羽八重事代主命御名考
- 英彦山神社由緒追記
- 教典私案
- 一、親王元服部類記抄錄
- 御讓位部類抄錄
- 玉璽抄錄
- 類聚雜例抄抄錄
- 爲房卿記抄抄錄
- 宗建卿記諸記拔萃
- 貞信公記抄
- 鷹司本水左記抄錄
- 近代散狀留抄錄
- 夕烟第二
- 欠畫暗誦歌(山田有年)
- 一、皇室雜記
- 山科言成卿記抄
- 後宮雜錄
- 一、波己曾神、鹽竈神考
- 小社目錄
- 一、鷹司本京極殿記抄
- 法性寺傳記抄
- 匠記抄
- 賴親卿記抄
- 松亞記抄
- 後稱念院記抄
- 言繼卿記抄
- 時慶卿記抄
- 梵舞日記抄
- 立太子部類抄
- 親王宣旨部類抄
- 御即位部類抄
- 文保元年記抄
- 迎陽記抄
- 玉海抄
- 薩戒部類私要抄抄錄
- 大外記師度記抄
- 今上御事記抄
- 永德讓位記抄
- 公茂記抄
- 荒涼記抄
- 嚴助大僧正記抄
- 輝光卿記抄
- 兼胤卿記抄
- 通村公記抄
- 諡號考抄
- 西洞院系圖抄
- 地名索引八幡國府抄
- 佛地院過去帳抄
- 熱田神宮神代文字ノ事(角田忠行)
- 漢土年號考抄
- 鶴岡八幡宮寺供僧次第抄
- 續群書一覽抄(慶壽院法皇考)

- 御登山記抄
- 秀長卿記抄
- 入車記抄
- 鷹司本洞院部類抄
- 近衛本洞屋關白記抄
- 鷹司本殿記抄
- 鷹司本葉黃記抄
- 一、薩戒記目錄抄
- 洞院公定日次記抄
- 宣胤卿記抄
- 皇代紀事附錄抄
- 近代散狀留拾遺
- 年立抄
- 屋代弘賢覺書抄
- 風也集抄
- 天明年間記事抄
- 大納言經信卿記抄
- 三條内府記抄
- 陽龍記抄
- 禪助大僧正記
- 資益王記抄
- 守光公記抄
- 諸門跡傳
- 迎陽記抄
- 康雄記抄
- 元長卿記抄
- 菅別記抄
- 福照院關白記抄
- 常永入道記抄
- 吉記抄
- 吉續記抄
- 鷹司本經光卿記抄
- 鷹司本山禮記抄
- 菅見記抄
- 康富記抄
- 近代散狀留抄
- 某氏家記抄
- 同追加
- 寬明日記
- 屋代弘賢別記抄
- 萬天日錄抄
- 寬政年間記事抄
- 貞信公記抄
- 右大記抄
- 經任卿記抄
- 山科教言卿記抄
- 持通公記抄
- 基長卿記抄
- 武政軌範裏書
- 康顯記抄
- 親長卿記抄
- 和長卿記抄
- 二水記抄



神習舎玉籠目錄

真言宗血脈抄

藤氏系圖抄

大中臣系圖抄

中臣系圖抄(藤氏以下春日若宮神主家本抄錄)

寬文三年以後皇年代記抄

一、迎陽記抄(内裏炎上年々例)

醍醐地蔵院日記抄

前田本宣胤卿記抄

天聰集抄

後龜山院天皇御略譜按

法成寺攝政記抄

言繼卿記抄

高壽院贈右府記抄

祐範記抄

偽本薩戒記抄

貝塚天滿宮御移住之記抄

忠利宿禰記抄

薩戒記抄

諸家文書纂拔萃

古新奇談抄(安南王繪馬之事)

資朝卿遺墨

小楠公首塚(以上二部明治二十一年公論新報)

東大寺藏文書抄(諸國封戸牒狀)

玉海抄

後愚昧記抄

一、二十二社沿革略考(賴國稿)

興福寺東金堂本細々要記抄

崇仁御記抄

後二條關白記抄

香雲院右府實條公記抄

建内記抄

薩戒記抄

正統興廢記考(青山景通稿)

近世聞見錄抄(山形大貳風説)

一、承久三年四年日次記抄

真言傳法灌頂師資相承血脈抄

服忌令(壬生家記抄)

一、忠富王記抄

押小路師資記抄

一、紳御記抄

言經卿記抄

一、東園基量卿記抄

八槐御記抄

一、時慶卿記抄

西宮記諸宣旨之裏書

荒曆抄

勸修寺長吏系傳略抄

龜山花崗光嚴三帝御即位

請平田篤胤贈位之書

脚氣ノ事

丸山作樂消息

村山素行略傳

義士西山氏遺事緒言(賴國加書)

前福島縣令宮原積傳

元老院職官作問一介履歷

陸軍中將野津公墓碑

櫻老先生傳

國民票御發行之儀建言

岩倉實相院所藏紹運錄之裏書

一、看聞御記抄

雜々帖抄

一、曆徵稿(賴國)

吹上御文庫藏書拔萃(御落飾御年齡之事)

總記

高野春秋抄

一、神習舎藏書目錄序(矢野玄道自筆)

明治天皇御即位宣命

神祇雜抄

吉續記抄

在原氏系圖

小學修身書ニ關スル意見

玉津島神社ノ事(紀伊續風土記抄)

大日本史進獻之事(端亭漫錄抄)

一、御落飾雜記

女官名目

熱田神宮ノ儀建白(角田忠行)

伴信友著述目錄

勢國軍用記抄

甘南中大刀自譜

一、壬生家記假假抄

神武紀講義序(久保惠鄰)

多賀、戸隠、鷺宮、吉備津ノ四社ニ關スル書類

一、新葉和歌集與書影寫

御陵墓地名

皇族雜記

皇族列次中改正ノ儀

一、後常瑜伽院御日次記抄

看聞日記抄

天水分神社考(特選神名牒抄)

色葉字類抄(園城寺崇福寺本)

本朝世記抄錄

竹屋本御系譜抄錄

自得曆法(角田忠守談話)

勘解由小路資生君ノ示言

一、春日社古文書

公卿稱謂(賴國)

川田神社由緒

さひつり草拔萃(雀庵隨筆ノ内)

杉庵雜記 久保季茲(自筆)

三十幅正續 大田覃 享和三

一、歌體約言(田安宗武)

以呂波之傳(佐々木文山)

以呂波探支抄

二、源氏外傳下(熊澤伯繼)

子姪子禁俳諧文(鳴島道筑)

三議一統之辨(伊勢貞丈)

東鑑異本考(榎原長俊)

宮城堂舍諸門炎上誌(榎原長俊)

廻文の俳諧百韻(石田未得)

紫野大德寺中客殿畫之知籙

琵琶撥附

荒陵懷舊詠(釋順宣)

一、賓客禮俗式(中川忠英)

四、正德二年壬辰冬與白石諫書(室直清)

一、看聞御記抄

雜々帖抄

一、曆徵稿(賴國)

吹上御文庫藏書拔萃(御落飾御年齡之事)



新蘆面命(谷重遠)

五、竊細略記  
和藥出產摘(東柱武群)

上苑梅譜  
貞德翁終焉記(安原貞室)

鎌倉閑居記(吉川惟足)  
疏議莊記(北村季吟)

戸山御庭記(久世舍善)

六、常磐日記(土師熊文)  
本朝刀劔略記(壺井義知)

朝鮮信使御差延一件

續上 發蒙錄(秋休卿)  
貞丈翁考赫蹄(大塚嘉樹)

花かつみ考(多賀、伊勢、小野高潔、大久保忠寄、  
狛、倉賀野)

花かつみ考(藤塚知明) かつみ考(屋代弘賢)  
小野道風像冠服考(伊勢貞丈)

續下 永仁御即位注進狀  
七草考(阿倍照任) 縣召除目次第  
花の幸(坂昌周)

志乃布草 栗原信充(自筆)

拾芥略要抄 三卷 「以淺草文庫本手校」

事物博探 尾崎雅嘉 二六卷

鹽尻抄 天野信景 初篇至一六篇 「手抄」

翠園雜錄 鈴木重嶺 文久三

皇風大意 歌學闢論會 順德天皇祝詞  
知耻而已 撰歌

靜幽堂叢書惣目錄 鍋田三善

仙臺問語 林子平 五卷

仙童寅吉物語 卷一 平田篤胤

續草廬雜談 青木教書(自筆) 寶曆一二  
小山田典清識語 文政二 山口觸山寫

〔觸山摹搨之記〕 〔新宮城書藏〕

道聽塗說 大郷金藏(自筆) 文政九至一一

多賀家書目 (多賀常政) 寛政五

旅路の家つと 佐々高直 安政四

池底叢書要目 黒川春村

長頭丸隨筆 松永貞徳 (池底叢書本寫)

塵添搥囊抄目錄

通憲人道書目錄 (伏見宮家本寫)

筑紫白川藻芥 谷山知春 嘉永六 (江藤正澄本寫)

總記

紙魚室雜記 城戸千楯 三卷

示蒙抄 山岡凌明 奈佐勝臯補

掌中曆 三善爲康 (摸寫) 「以塙本手校」

諸家藏板目錄私記

諸家筆談 三卷(卷八八至九〇) (池底叢書本寫)

諸家名記

諸記勘例目錄 二卷

書目大要 大草大次郡手澤

神岳隨筆

神事書目

神習雜錄(書目) 「手抄」

神傳醫方祕藏書目 附神園衣關伊都岐著述書目  
衣關伊都岐 文政三

醉中五論 齋藤彦麿(自筆) 〔幽篁庵印〕 〔彦麿〕  
〔伊藤文庫〕

隨筆 松岡行義

隨筆雜記 大田覃識語 〔大田氏藏書〕 〔南畝文庫〕  
〔長井之章〕 〔石塚文庫〕

隨筆目錄 本多忠憲 文化四 七卷

貞丈雜記評論 齋藤彦麿 嘉永六

櫻亭隨筆 井上淑隆 四卷

典籍秦鏡 田口明良 文化一〇 四卷

東京府記錄掛丙部書目

梅尾山高山寺書目抄出

楯の落葉物語 伴林光平 嘉永四  
安政五年金澤利恭寫

南答輪問 扇代弘賢問 文化四 〔不忍文庫〕  
〔台北大川藏書之記〕

織錦舎隨筆 村田春海 二卷

中山信名隨筆抄錄 中山信名

二條家藏書目錄 二卷

二中歷鈔出 速水房常手澤

伊呂 日本誌史名數 二卷

培達都雅書記 培達堂平太 初集(五卷) 二集(一、二、三、四、五卷) 四集(五卷)

〔培達堂〕 〔管譜藏之〕 〔大澤氏〕

梅菊園隨筆 小野高潔(自筆)

梅芳遺筆 梅田三彦編 三卷



上、亞相故實

位袍通考

中、六位再興考

先使考

馬道考

茶莢袋考

一門考

世記考

時秋考

小督局考

小原御幸淫詞之内萬里小路中納言考

穗積姓祖考

四季草拾誤考

下、穴食禁忌考

貞丈雜記拾誤考

寶石類書

(誕生至年中) 高橋宗直 一五卷

寶石類書

(天文至國史異聞) 高橋宗直 一六卷

羽倉信義藏書目錄

番外雜書解題

(附雜書撰者小傳(六卷) 國字分類番

戸田氏德 文政九 一七卷

拾玉藻

源輝辰 (池底叢書本寫)

伏見宮御記目錄

藤原經房朝臣遺書辨偽

日向閑話

免佐萬志久斜

木默老藏書目錄

山城大和出張中蒐集書籍目錄

大和事始正誤

寬居雜纂

神祇令講本

租調索目

神宮田地目錄

蘿月庵國書漫抄

柳菴隨筆

栗園漫筆抄

船橋隨筆

芙蓉房座右圖品目

彰考館

文祿清談

片玉集

隆達節

東照宮御書

後水尾院御文

定家卿筆道

北峯樵語

本朝國史目錄

本朝法家文書目錄

松屋筆記拔書

前田家所藏拔萃目錄

間宮勘右衛門藏書目錄

漫筆

官底(前田夏隆)

兒胎髮を剃る考(同上)

蝕字訓字考(同上)

月日の蝕をいへと云ふ由(伴信友)

波々迦考(同上)

輪池叢書

類聚名物考

類標(類字、索引)

吾妻鏡要目集成

伊勢家隨筆見出

和泉式部日記類標

榮花物語類標

延喜式類字

宴曲集類標

大鏡裏書類字

旋頭歌説(同上)

鳩杖(同上)

蝦夷のこと(同上)

菊のくさ(同上)

「不忍文庫」

「長井之印」

「村田了阿」

「文政六」

「二卷」

「六卷」

「二卷」

「七卷」

「一〇卷」

「一七卷」

「一七卷」

「一七卷」

「一七卷」

「一七卷」

「一七卷」

「一七卷」

「一七卷」

「一七卷」

「一七卷」

「一七卷」

「一七卷」

「一七卷」

「一七卷」

「一七卷」

「一七卷」

「一七卷」



- 雅遊漫錄類字
- 好古小錄類字
- 好古日錄類字
- 康平記類字
- 河海抄類字
- 家記類字目錄
- 覺明註三教指歸類字
- 蜻蛉日記解環抄類標
- 皇太神宮儀式解類字
- 官府索目(三代格、延喜交替式、類聚符宣抄、格逸)
- 群書類從文筆部類字
- 秋林枝葉一名事物類字 村田了阿
- 桂林漫錄類字
- 外記日記類標
- 元亨釋書類字
- 源氏物語いろは分

- 國史類函目錄共 榎並隆璉 二〇〇卷
- 五國風土記索引(播磨、丹後、豐後、肥前、常陸)
- 古語拾遺類字
- 古今著聞集類標 二卷
- 古事記神名類聚 足代弘訓
- 古事記人名類聚 足代弘訓 二卷
- 古事記日本紀分類
- 後拾遺往生傳類標
- 讚岐典侍日記類標
- 三外往生傳類標
- 三十六人集雜纂
- 三代實錄人名部類(皇族、後宮、僧、諸蕃) 足代弘訓 三卷
- 三代實錄分類 五卷
- 四鏡類標
- 七書索引(舊事紀、姓氏錄、拾芥抄、和名抄、延喜式、將門記、古語拾遺) 四卷
- 七書部類 八卷

十訓抄類標

- 拾言記拾言記追加類標
- 事物起原類標
- 拾遺往生傳類標
- 釋氏要覽類標
- 釋日本紀類標
- 續紀索引類圖(自筆)
- 續紀姓名索引 五卷
- 續日本紀部類 足代弘訓 六卷
- 續日本紀類標
- 續日本後紀人名部類(親王、諸王、內親王) 足代弘訓 二卷
- 續日本後紀類標
- 書言故事類標
- 諸陵式類標
- 新猿樂記類字
- 神名帳考證索引

神名類聚

- 姓氏捷見狩谷望之 文化元 伴直方手澤 [伴氏家印]
- 姓氏類名 五卷
- 姓氏錄見要 內藤廣前(自筆)
- 祖庭事苑類標
- 大日本史類標
- 玉かつま類字
- 玉造小町壯衰書類字
- 親元日記類標
- 地名類標
- 塵袋類標
- 徒然草鏡槌類標
- 朝野群載類標
- 土佐日記類標
- 中務内侍日記類標
- 二中歷類字



日本逸史人名部類(帝王、皇族、內親王、女王)

日本後紀人名部類足代弘訓 五卷

日本後紀人名部類

日本書紀類標

日本靈異記本訓類字

祝詞考類標

八代集類標(楳園叢書ノ内)

百念三抄地名部 小山田與清

百練抄類標

夫木鈔類標

辨內侍日記類標

保元平治物語類標

法華文句類標

本草和名類標

本朝高僧傳色葉分

本朝軍器考類標

靈異記類字

合熟字抄分(卷一、二、三) 賴圀(自筆)

歷朝詔詞解類標

和名抄捷見岡田弘綱 嘉永四

遺事索引二卷

類標目錄

歷代殘缺日記目錄

六窓翁藏書目錄(松井幸隆) 久志本常影編(自筆)

蘆汀紀聞一七三卷

和歌の浦鶴本居内遠 一五卷

和書眞偽考荷田春滿

尾崎雅嘉隨筆尾崎雅嘉

尾張國大須寶生院眞福寺經藏抄目

溫古堂記錄目錄

神習舍玉籠目錄終

本朝新修往生傳類標

翻譯名義抄類標

枕草紙異本類標

枕草紙春曙抄類標

萬葉集名所部類足代弘訓 一〇卷

萬葉集類標

萬葉鏡一名古歌裝鈔 九卷

武藏國社寺捷見一名武藏國神社佛宇國字分

紫式部日記傍注類標

明月記類標

文德實錄人名部類(皇族、女僧) 足代弘訓

八雲御抄類字

山域名勝志類標

濫觴抄類標

類聚三代格類標

靈異記見要







166  
356

大清光緒二十一年  
正月二十三日  
...

...

正 堂 日 錄	...	...	...	...
田	...	...	...	...
...	...	...	...	...
...	...	...	...	...
...	...	...	...	...



